

東南境よりは遠く東京市を下瞰し得べく、風光絶佳なり。祭典は隔年九月十五日にこれを執行し、昔時は舊山王の祭禮と共に著名なるものなりき。なほ他に十二月二十日の年の市は、その繁盛、淺草に次ぐと言はる。太田道灌この社にて深夜歌あり「なきつれて聲よりこゑもますらをの心にかへる夜半の鴈がね」神社の下邊を俗に明神下と呼べり。

御成街道は萬世橋より上野廣小路にいたる街路なり。その間、末廣町、五軒町、黒門町等あり。舊幕時代、將軍家上野へ御成の事あるよりその名起る。今、電車を通じ、必須の要路なれども町並に自ら巻末の臭氣あり、故老の傳ふるところによれば、昔時この街路は殆ど武士の屋敷のみなりしといふ。

○日本橋區 京城の正東に位し、都下最も繁榮の地なり。麴町、京橋、神田、淺草の四區及び大川を隔て、本所、深川の二區と相對す。地勢平坦にして、河渠縱横にその間を貫流し、舟楫の便極めて多し。まづ、區の東境に大川あり、北端に神田川あり、その大部分に龍閑川あり。西城池の一端一石橋より落し、東大川にそぐ日本橋川あり。

り。その他溝渠甚だ多し。區の廣袤は東西十七丁、南北十九丁、人口大約十四萬六千を有す。街路には日本橋より南北に通ずる大路を大通と稱し、東南は京橋、芝の兩區を経て品川に連續し、北は神田區、本郷區を経て板橋に連る。その他、本町通、人形町通、馬喰町通、大門通をはじめとして、東中通、西中通、石町通等あり。區はまた、往時より巨商大賈の民住するもの多く、現今重要な商店、諸問屋、會社、銀行等最も多くこゝにあり。人口の稠密なる十五區中第一なり、人家填密、まことに「土一升に金一升」の里諺に背かず。

●●●日本橋 通一丁目の北に於て日本橋川に架す。橋は實に市の中心とも稱すべく、全國各地に達する里程は皆なこの橋畔を以て起點となす。木橋にして、長さ二十八間、幅七間餘を有し、明治五年に架換へたるものなり。昔時より、八百八街中第一の繁榮と呼ばれたる地にして、橋上には行人常に群がり、橋下には船舶充ちて、一見人目を驚かすものあり。近時更にその架換を設計せられ、一大石橋となして橋畔に銅像を置

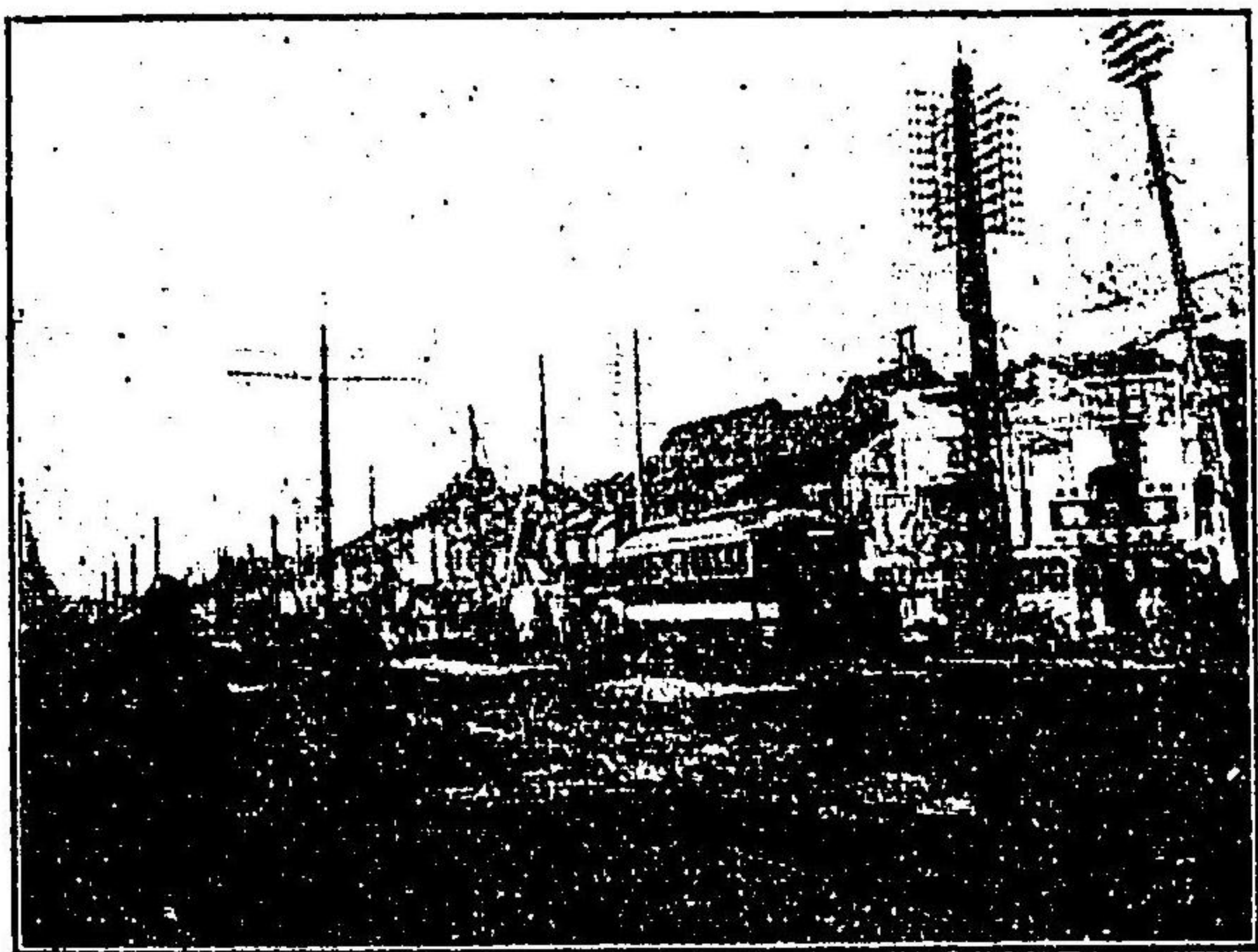
く等の企ありと聞く。

日本橋のはじめて架せられたるは、今を去ること三百餘年前なり。而して江戸名所圖會にいふ「日本橋は南北に架す。長さ二十八間、南詰に高札建てちる。欄干擬寶珠の銘に曰く、万治元年戊戌九月造立と。この橋を日本橋といふは、旭日東海を出るを見るが故なり。」また江戸繁昌記に曰く「日本橋、當江戸中央、一都大極、兩岸剖分、四方道程、由是算出、八方人戸、由是連建、六十四州、人民之聚、始入此都、始過此橋、左顧右眄、眼驚魂奪、何以眼駭、西則金城尖兀、鷗樓聳空、何以氣奪、東則酒庫數万、碧瓦輝々、白壁連接、正是萬里長城、魚船相啣、集泊橋下、管蓬鱗次、脚下又見一面劇街、橋上雜園、分伯長槍、來往如林云々。」

**魚河岸** 日本橋魚市場と稱す。本小田原町、本船町、安針町、長濱町、室町の五町にわたる魚市場の總稱にして、慶長年間よりはじまれりと傳ふ。毎朝の市場頗る繁盛雑沓す。また都下の一名物なり。芭蕉の句に曰く「鎌倉を生きて出けん初がつを。」

**大通** 日本橋區の最も繁華なる通なり。南は通一丁目より通四丁目邊にいたり、吳服店白木屋等を有し、北は室町より本町邊にいたり、三越吳服店等の大商店を有す。

街衢齊整にして、日本式土藏造りの家屋は洋風の建物に並び、店頭の硝子戸はことに



日本橋本町

美なり。而して日本橋以南に於ては、老舗の間交ゆるに歐風の高樓を以てし、街頭を歩む行人の影極めて小なり。

**三井銀行** 駿河町一番地にあり。鐵骨建築にして、煉瓦および花崗石を累築してその外壁となし、耐震耐火にはことに意をそゝぎたりといふ。延寶年間三井氏の創始せるもの、明治九年會社組織となし、同二十六年より合名會社となる。

**日本銀行** 常磐橋東に位し、本兩替町に屬す。

鐵骨石造の大建築にして、堅牢を極め、外觀また雄偉壯大なり。本館別館の二棟に區

別し、中本館は地下に一層、地上に三層を有せり。地下室には堅固なる大金庫を存置し、一朝事變に際しては、直ちに鐵管より水を迸出して全金庫を水底に没せしむるの設備ありといふ。建築總費用百二十萬圓、その構造は重に泰西の諸建築を參酌し、殊に耐震に意を用ひたり。明治二十三年工を起し、五年の星霜を経て成る。

海運橋 本材木町より坂本町にわたる橋にして、舊名海賊橋ともいふ。後出第一銀行は即ちその橋畔にあり。

江戸橋 日本橋の東にあり。對岸は即ち四日市の魚市場にして、この附近は舊江戸に於ても、古くより開けし地なりといふ。

東京郵便局 江戸橋の橋頭にあり。市の中央郵便局にして、内外郵便、電信交通の中樞を占め、繁雜を極む。

安田銀行 江戸橋の北、小舟町三丁目にあり。資本金二百萬圓の合名會社なり。

本町通は開府以來最も古き闊巷なり。その地江戸城より東北の通路にあたり、疾くより世人に知らる。町に藥舖、書肆の老舖多し。而してこれに並行して、北に石町あり。石町と本町との間を十軒店といひ、難及び五月幟を擧ぐを以て名あらはる。

小傳馬町牢獄址 小傳馬上町二十二番地にあり。舊幕時代は、小傳馬町の牢屋と稱し、地域二千六百餘坪を有したりしが、明治八年、牛込市谷監獄の竣成と共に、廢止に歸し、庶人一時不淨地としてその地に入るものなかりしが、後寺院を設立するに及びて、舊況一變せり。小傳馬町の續きに馬喰町あり。

人形通は小傳馬町より中洲に向ふ街衢にして、中に人形町あり。堅牢なる日本風の老舖兩側に密布し、各戸暖簾を垂れて、純下町式の市人多くその間を往來す。道側に樹を植ゑ、電車は中央を通じて、街路常に繁榮を極む。

初音馬場址 馬喰町三丁目の西北裏通にあり。江戸名所圖會に曰く、慶長五年、關原御陣の時、伯勞町にて御馬揃あり。寛永二十年開板の、あづまめぐりといへる双紙

に「末は馬喰町とかや、侍あまた打ちつれて、こゝに栗毛の馬もあり、或は月毛、鹿毛、かすけ、みな攻め事とうち見えて云々」と。馬場一に楠の馬場とも稱せしといへり。

●吉原舊址 新和泉町、高砂町、住吉町、浪花町の四箇町方二町の間、これを吉原開創の地となす。後、明暦年間今の淺草新吉原の地に徙せり。いまなほ大門通の名稱殘る。芳町は絃歌の地なり。

●明治座 久松町にあり。京橋區の歌舞伎座と併稱せられしもの、座の裏手より大川に沿へる町並を濱町と稱す。

●東京商品取引所 濱町の西、蠣殻町にあり。明治二十七年の創設にして、各種商品の取引市場なり。

●東京米穀取引所 蠣殻町一丁目にあり。明治九年の開設に係り、舊名米商會所と稱す。株式組織にして、米穀の定期取引を媒介する市場なり。

●水天宮 蠣殻町三丁目にあり。祭神は安徳天皇、建禮門院、平時子の三座にして、筑後久留米の本社より觀請したるものとなす。毎月五日、祭事を執行し、社務所より神符を出すを以て、その日は賽客雲の如く殺到し、ほとんど數萬人に及べり。また夜に至れば、露店鱗次して雜沓いはん方なく、今は都下綠日中第二位の盛況を占む。

●茅場町藥師堂 日本橋川の南、南茅場町にあり。本尊藥師如來は惠心僧都の作なり。この地は日枝神社の旅所にして、藥師佛は山王の本地佛なるが故に、慈眼大師此處に安置すといふ。毎月八日、十二日の緣日には露店、植木店町の兩側に並びて頗る雜鬧を極む。或はいふ、この附近に俳人其角の住所ありしと。東に鎧橋あり。

●東京株式取引所 南茅場町の北隣、兜町にあり。資本金百貳拾五萬圓を有す。株式賣買取引の市場にして、明治十一年の設置なり。

●第一銀行 江戸橋に近く、兜町にあり。資本金壹千萬圓、本邦有數の金融機關なり。滿韓に各支店を置く。創設を明治六年七月となす。

●坂本公園 坂本町にあり。面積一千七百餘坪の小公園にして、緑樹芳草の面目を娛たのしましむるなく、塵埃常じんがいにこれを蔽へり。また同じく坂本町に東京興信所及び東京交換所あり。

●内國通運株式會社 江戸橋の西、佐内町にあり。内國の運輸營業を目的とする株式會社なり。

●中洲 區の南方にあたり。濱町三丁目の東南に突出せる修築地なり。昔し明和の頃この地に島を築きて中洲と稱し、酒樓櫛比して殷賑を極めしが、寛政年中掘りて川となし、明治十八年更に南北三町餘の地を埋立て、兩端に橋を架す。二十一年開きて、民屋を置けり。四圍、水流を帯びて風光よく、納涼に佳なり。旗亭あり、また劇場眞砂座あり。

この附近は、古來三叉と稱して、觀月の名所なり。大宰春臺の詠詩に曰く「風靜又江不起波、輕舟汎々醉中過、天遊只有人間外、長嘯高吟雜棹歌。」また傳ふ、仙臺侯が名妓高尾を斬りて河中に棄てしものあたりなり。

り。と。雙堂詠じて曰く「願佳人、佳人蟹、太守賦、妾身任君殺、妾身任君活、妾身有阿耶在、妾心不可奪賢髮有手亂如絲、木蘭舟中新蛾眉、遺恨不知深幾尺、三叉之水終古碧」

○京橋區 日本橋區の南に接し、西は麴町區に南は芝區に堺せり。而して東南は東京灣に臨めり。區内を中橋、銀座、築地、八丁堀、靈岸島及び月島、佃島の諸部に分つ。地勢平坦にして、溝渠多く、沙留川、三十間堀、龜島川、京橋川、櫻川、楓川等あり。従つて運輸の便多く、市街の繁盛にして、商業の盛なること、日本橋區と相拮抗す。東西二十二町、南北二十一町、人口十九萬餘を算せり。道路は京橋より新橋にいたるものを大通と稱し、中に銀座街あり。他に築地廻りの電車線あり。また永代橋より南新堀、靈岸橋を通じて日本橋區の茅場町に接する車線あり。八丁堀仲町は、俗に三角と稱して古着商多く、靈岸島、新堀町等は酒問屋多く、通稱新川と呼ぶ。また炭町は京橋川の北岸にありて、竹商多し。區内新聞社多く、讀賣、東京日々、國民、東京朝日、時事、萬朝、中央、日本等の各社皆この區にあり。商店、銀行、會社等相

連比し、ことに店舗には多く船來の雜貨を商ひ、店の粧飾また進歩せり。築地には外

國人の住宅多し。また新富町に劇場あり。

●京橋 南傳馬町より銀座一丁目にわたる所に  
して、京橋川に架せり。長さ十四間の石橋なり。

●大根河岸 京橋の傍側にあり。地の青物市場  
ダイコン

は神田區のそれと併稱せられて頗る盛なり。寛  
文年間の開設なりといふ。

●銀座通 京橋より新橋にいたる街路をいふ。

日本最初の煉瓦街にして、はじめて車道と歩道  
とを區別したりし所なり。兩側には柳樹を栽植  
し、整石をたゝみて、大厦櫛比す。推して都下



第一の模範道路とすべし。洋風の高厦のもとを來往する群にも、趣味高き都人士多し。

●歌舞伎座 木挽町三丁目にあり。築地兩國行電車の一停留場此處にあり。現時都下

第一の劇場として、その由來もまた甚だ古し。

●十五銀行 木挽町七丁目にあり。明治十年の創立にして、資本金千八百萬圓を有す。

●逓信省 木挽町八丁目にあり。明治十八年の開設にかゝる。

●農商務省 木挽町十丁目にあり。逓信省と共に宏壯なる建築なり。

●築地 木挽町の東にあたり。もと海邊なりしを明曆四年に填築せしもの、條約改  
正以前は外國人の居留地なりしを以て、今なほ外人の居住するもの多し。地海に瀕し  
て甚だ低平なり。

●濱離宮 築地四丁目の南にあり。舊幕時代、濱御殿と稱せしものにして、苑内には潮  
入の大池を穿ち、池中には島を築き、島上に延逸館の宏屋あり。建築宏壯、裝飾ま  
た清麗を盡せりといふ。島の左右は板橋を架して通路とし、橋上藤棚を設けて、日除  
となす。晩春に至れば、花影清波に映じて頗る美觀、その東南部に岡阜あり、これに

登れば東京灣を隔て、房總の翠巒を遠望し、矚目豁然たりといふ。その他林泉の美極めて多し、毎年四月、天皇此所に觀櫻會を開かせられ、皇族をはじめとして、朝野百官を召し給ふ。延遊館はまた時に外國貴賓の接待所に充てらる。

海軍大學校 築地四丁目にあり。明治二十一年の創設にして、海軍將校及び機關官に高等の學術を教授す。また同所に海軍主計官練習所あり。

西本願寺 築地三丁目にあり。築地本願寺または築地門跡とも稱す。眞宗京都西本願寺の輪番所として設立したるものにして、准如上人を開祖となす。はじめ、淺草濱町に創建せしも、明曆四年、佃島網干場即ち今の地を埋立て、本城となし、萬治元年にいたりて、堂宇を剝建せり。尙ほ火災を被ること一再ならず、近くは明治二十六年の火あり、巨堂一度烏有に歸して、殘堂を殘すに止まりしが、三十四年その大建築落成して、今は以前に劣らざる壯觀を呈するにいたれり。淺草東本願寺別院と並びて、現時都下屈指の建物なり。

東京灣汽船株式會社 新船松町にあり、會社の航路一は上總木更津に、一は安房館山に、一は相模三崎に達せり。その他、浦賀、東京間、東京、八幡間あり。殊に伊豆の下田より、新島、三宅島、御倉島にいたるの航路と、勝浦、小名濱を経て、陸中の釜石、宮古に達するの航路を最も長しとなす。

浦賀船渠株式會社 南新堀町二丁目にあり。船渠鐵工所及び造船所を設けて各種機關の製造及び修理に従事す。

佃島 大川の海に入らんとする所にある一小埋立地にして、徳川家康入城の後攝津神崎川佃島の漁夫をこの地に移住せしめて、専ら淺草川の漁業を許したるもの、今なほ全島に漁民多く、晩春獲るところの白魚はことにこの地を以て名産となす。また世にいふ佃煮はこの地を以て本場とせり。島の東北に住吉神社あり、一月十七日白魚祭を執行す。島の風景また觀るべく、朝暉夕陰、十五區中に於て、自ら別天地をなせり。島の地高平均約二米突を有せり。

●月島 築地の南に江海を隔て、築成したる島地なり。面積約二十餘萬坪、明治二十四年を以て成れり。島は陋屋、工場多し。また石川島は、舊名森島或は鏡島とも呼べり。今は佃町に編入す。

○芝區 皇城の南に位す。東は東京灣に瀕し、西南は赤坂、麻布、麴町及び荏原、豊多摩の二郡に界し、北は繁華なる新橋を以て京橋に隣れり。海に瀕する地は概して平坦なれど、西南には丘陵起伏し、圓山臺あり、愛宕臺あり、更にまたその南には高輪臺の開豁なるあり。従つて坂路また少なからず、聖坂、汐見坂、江戸見坂、伊皿子天神坂等あり。櫻川は區の北部を流れ、赤羽根川區の西北境より來り區内を貫流す。東西一里三町、南北一里七町、人口十六萬六千を越ゆ。道路は京橋區より新橋を通じて來る芝口通と、日比谷より來る山内通とを重なるものとす。芝口通は即ち舊時の東海道にして、新橋を發し、これに並行せる鐵道は東海道線なり。區内名所社寺に乏しからず、また學校多く、芝浦には各種工場及び海水浴場あり。

芝口通は銀座街より區内に入り、數次の弧形を畫いて品川に達する長路にして、薩摩原より芝山内通とも稱すべき一路を岐つ。銀座街よりこの通に入れば、人は頓に場末らしき觀あるを覺ゆべし。高層洋館の一として聳ゆるものなく、露月町、歌川町と、漸次單調にして不揃なる民屋を開展す。昔時海道筋なりしがほりはなほ街路の何所にか残り。芝山内通中の愛宕下町は芝口通りに比して、一籌を輸するも、これまた高樓大厦の聳ゆるなし、されど街路は繁盛にして、商賈また盛なり。その他、區内に三田通あり。これを芝の最繁華區とすべし。

●新橋 京橋區銀座街より芝口一丁目に通ずる鐵橋にして、汐留川に架す。むかし、此所に芝口門をつくりて、韓國來朝の士を迎へたりといふ。附近、絃歌の聲あり。  
●新橋停車場 汐留町一丁目にあり。東海鐵道の起點にして、東京以西一切の交通運輸を司る。實に東都に於ける南方の關門なり。上野停車場と對照して、都人士の集散多く、また關西をうけて開化せし人士の、汽車を乗降すること多し。場内に鐵道局あり。

新橋停車場は明治五年の設置にして、實にわが國停車場の嚆矢なり。大日本地誌に當時の情況を記して曰く



「明治維新前、本邦駐在英國公使サー、ハリ、パークスは、その友人ネルソン、レーと共に、鐵道の便利にして吾國にも此を敷設し、世界の文明に浴せざるべからざるを説き、その資本を貸與すべきを勧誘したり明治二年政府はこの勧誘に従ひ、鐵道敷設の議を決定し、民部兼大藏卿伊達宗城、大藏大臣大隈重信、大藏小輔伊藤博文をして事務を擔任せしむ。當時明治創業國費多端の時に際したれば、資本を借り入れ、鐵道敷設の大事業を起し、幾多の經營を盡して、終にまづ横濱、東京間の鐵道開始の大功業を奏せり。これ、實に我國鐵道の創始となす。而して、既に鐵道敷設を決せりと雖も、工事着手の準備に關する知識を有する技師なきを以て、ネルソン、レーの周旋によりて、エドモンド、モレルにこのことを委託せり。モレルは二年十一月に來朝して、敷設に關する見込書及び意見の概要を伊藤博文に差出し、諸種の建議及び鐵道に關する會計、統計、またはその他の事務に就き畫策するところ多く、遂に工部省を設置し、大に土木、建築の發達を督勵し、益々その事業の擴張を計れり。三年三月、東京汐留町より横濱野毛町にいたる線路の工事を起し、五年五月、横濱、品川間十四哩六十二鎖の工成り、假りに汽車の運轉を開始し、次で同年八月、品川汐留町間の敷設の工を竣へ、こゝに京濱間十八哩の竣功を告げ、汐留停車場を新橋停車場と改稱し、九月十二日、聖駕、新橋、横濱兩停車場に臨御して開業の式を擧げさせ給ふ。翌十三日より運輸の業を開き、公私一般の用に供す。それを我國鐵道敷設の嚆矢となす。

●攻玉社 新錢座町にあり、校は故近藤眞琴の設立にかゝはり、多く海軍軍人を養成す。

●芝離宮 芝濱崎町にあり。もと紀州侯の別墅にして、北は京橋區の濱離宮と相接せり。境域三萬二千坪、中央に大池を穿ち潮水を導けり。その他、島あり、橋あり、林石眺望の美、頗る幽邃閑雅なりと稱せらる。また館舎は孰れも清楚なる洋風の建築にして、今は専ら外國貴賓の接待所として用ひらる。この附近に各種工場多し。

●芝浦 竹柴浦ともいへり。新橋より芝田町にいたる海濱一帶の地の汎稱にして、前面東京灣に臨み、臺場を隔て、遙に房總の諸山に對し、海に面して旗亭多く、孰れも四季海水を沸かして入浴に供す。また鮮魚を海中に貯へて料理の需めに應せり。納涼及び潮干に最も妙なり。

●芝浦製作所 金杉新濱町にあり。各種の機械類を製作す。金杉はもと芝浦の一漁村

たりき。

●●●●● 芝神明 芝宮本町にあり。芝太神宮と稱し、また飯倉明神の稱あり。一條帝の寛弘二年に伊勢太神宮に鎮座なし、後源頼朝は寶劔と社田とを寄附せりといふ。毎年九月十一日より向ふ十日間例祭を執行し、俗にこれを生姜祭といへり。附近、絃聲多し。

●●●●● 芝公園 區の東北に位する一丘陵地なり。もと増上寺の境内にして、總坪約十七萬坪と稱し、明治六年開いて公園とせり。園内に増上寺、金地院、東照宮徳川家廟、五重塔、紅葉館、觀工場等あり、また東南隅の一丘を圓山と稱す。古樹深く四境を蔽ひ、夏日酷暑の候と雖も、園の林間蓮池の邊りを徘徊すれば、忽ち涼風の四袖に滿つるを覺ゆ。上野公園と相並びて都下有數の勝地に推すべし。たゞ上野に比して、公園の設備なほ完からず、動物園、博物館、繪畫展覽場等の人目を娛ましむるなく、や、落葉に過ぐるを惜む。秋季、錦繡の景よし。

●●●●● 増上寺 三縁山廣度院と號す。關東淨土宗の總本山にして、十八檀林の冠首、明德

四年の草創なり。東門を大門といひ、北の入口を御成門といふ。大門を入ること二丁餘にして山門に達すべし。寺記にいふ、當寺はもと江戸貝塚にありて光明寺と號し、眞言宗に屬せしが、西譽上人改宗して増上寺と號し、天正年間觀智國師十二世の住職となる。徳川家康の歸依崇敬して師檀の契約ありしより、爾來堂宇寺域を増築増加し徳川氏代々の遺骸を上野寛永寺と當寺とに交互埋葬して、靈屋を設け且つ別當宿坊を置くにいたれり。本堂は明治初年兎徒の放火するところとなりて、一朝灰燼に歸し、明治二十三年再築成りて入佛の式を行ふ。その構造宏壯にして輪奐の美、舊堂に劣らざるものありしも、惜むべし、明治四十二年火を失して炎上し、東京市は一歳にして、小石川傳通院とこの由緒ある巨刹とを失へり。惠心僧都作の有名なる黒本尊また焼失せり。山門に洪鐘あり、俗に一里鐘といふ。

●●●●● 芝徳川家廟 三廟に分る。一號地に台徳院秀忠の廟あり、三號地に文昭院家宣及び有章院家繼の廟あり。孰れも結構精妙にして、金碧相映じ華麗を極む。

●芝東照宮 安國殿と稱す。寛永年間の創立にして、徳川家康の靈を祀る。宮の左右に櫻樹多く、また大銀杏あり、家康手植の樹と傳へ、神樹の石碑を建てたり。

●圓山 東照宮の背後にあり。古代古墳の跡と傳ふる丘陵にして、境内の最高所にあたる。これに登臨すれば品川灣を臨んで白帆の去來するを眺め得べく、房總の山色一目睹の間に集る。春櫻秋楓の間掛茶屋の設けあり、またベンチの設置あり。五重塔はその南部、深樹の間にありて、酒井雅樂頭の寄進せるものなりといふ。而してその北端に伊能忠敬の記念碑あり。昔時忠敬が日本實測の元標となせしと稱するところにして、地理協會の設立するところなり。而して、なほその後小池あり。夏時は蓮花亂發、來り觀るもの多く、島あり、芙蓉洲と名づけ、辨天祠を鎮す。なほ池畔に閻魔堂あり、藤棚あり。納涼に最もよろし。

●金地院 公園の西北部にあり。勝林山と號し、京都南禪寺に屬し、臨濟を奉せり。もと江戸城内にありしを、寛永中この地に徙せり。開山を崇傳國師となす。その北に

芝給水場あり。

●政友會本部 芝公園内にあり。政友會は現時わが國政界に於て最も勢力を有する大政黨、故伊藤博文の組織にかゝはることは世人よくこれを知れり。

●青松寺 芝公園の東北にあたり、愛宕町一丁目にあり。禪宗曹洞派にして、萬年山と號す。文明中太田道灌の草創にして、開山を俊徳大師となす。庭園の美あり。

●愛宕山公園 芝公園の背後より北に延びし丘陵にして、公園の坪數四千七百餘坪あり。地は城南第一の高所にして、標高二十六米突と稱す、登攀の路二條、男坂、女坂といふ。中男坂急峻にして、石段八十六級、鐵鎖をかけて攀登せしむ。二坂の他には新道あり。山頂の眺望極めて瀾く、市下數萬の粉壁は一望目睫の中に集りて、皇城の壯觀、京橋、日本橋の繁華、新橋停車場附近の雜還、これを掌に指すが如し。更に遙かに眸を放てば、芝離宮の深樹を隔て、品川の灣頭に連れる六砲臺あり。遠くは房總の山岳を望み、海天一碧、眞に登覽の客をして佇立去るに忍ばざらしむるものあり。

公園としては、その地域狭きに失すれどもなほ眺望はその失を補ひてあまりあり。明治元年、故大西卿江戸城守の勝安房と手を携へて、江戸城授受の議を決したるはこの山上なりといふ。丘陵の上、愛宕神社を鎮せり。社は、昔時行基作の勝軍地蔵をまつれる佛寺にして、別當を圓福寺と號せしが、維新後神佛混淆の名分を正して、愛宕神社と改稱せり。毎月二十四日を以て縁日となす。なほ、他に愛宕館の高塔あり。茶店邊りに榻を列ぬ。就いて憩ふべし。

慈惠病院 愛宕町二丁目にあり。もと有志共立病院と呼べり。皇后陛下の聖眷によりて、これが組織を改め、現時貧民のために施療をこととせり。

天徳寺 西久保巴町にあり。光明山和合院と號す。天文二年の草創にして、晃與上人これを中興し、淨土宗を奉せり。寺中に華族以下名士の墳塋多く、庭園の林泉また頗る幽趣に富めり。

八幡神社 西久保八幡町にあり。應神、仲哀の兩天皇及び神功皇后の靈を祀る。傍

側到大養寺あり。

琴平神社 虎の門外にして、琴平町にあり。俗に虎の門金毘羅と稱す。地はもと京極家の藩邸にして、社は即ち讚岐象頭山の金比羅神社より勸請せしものなり。毎月十日の縁日には賽人群參し、露店、植本屋等は近傍數町の長きに涉り、その繁榮日本橋區蠟燭町の水天宮に劣らず。市中各所の縁日中著名なるものなり。

海軍造兵廠 芝公園の西、赤羽町にあり。明治初年の創立にして、小石川區の砲兵工廠と併稱せらる。

慶應義塾 三田二丁目にあり。三田は赤羽根川に架したる赤羽橋以南の名稱にして、義塾及びその大學部はその高臺にあり。明治の碩學故福澤諭吉氏の設立にして、その卒業生は殊に商海に勢力を占むるもの多し。大學部、普通部、商工學校、商業學校及び幼稚舎に分つ。

慶應義塾運動場 校の傍らにあり。毎年春秋二季の野球競技は來觀の學生夥し。ま

た米國の野球撰手を聘して競技を行ふ。

●●●●● 濟海寺 三田臺町一丁目にあり。周光山といふ。淨土宗寺なり。上古の竹紫寺の遺址と傳ふるものあり。

濟海寺より伊皿子にいたるあたりを往時月の岬と稱して、觀月の名所なりき。東關紀行にも「秋ならば月のみさきやいかならん名は夏山のしげみのみして」とあり。また附近、七崎の稱あり、即ち月の岬、汐見崎、袖ヶ崎、大崎、千代ヶ崎、長南ヶ崎、荒蘭ヶ崎これなり。

●●●●● 大木戸址 伊皿子の南、車町にあり、維新前まで、高札を建て、木戸石壘を置きし地なり

●●●●● 泉岳寺 高輪車町にあり。萬松山と號し、愛宕の青松寺、橋場の總泉寺と共に、江戸曹洞三箇寺の一なり。もと櫻田郷にありしを、寛永年間幕命によりてこの地に徙せりといふ。境内に赤穂城主淺野長矩及び大石良雄以下義士の墳墓あるは世人よくこれを知る。松杉深く國境をとざして、香火の烟しめやかに胸に沁する時、誰か往年の義

擧を思うて、感慨多量ならざるものあらん。義士の墓の他に瑤池梅、首洗井、天野屋利兵衛の碑、奇人喜劍の墓、義士木像及び遺物展覽場等あり。

●●●●● 高輪御殿 高輪西臺町にあり。もと細川氏の藩邸なりしところ、曾て常宮周宮兩内親王殿下こゝに御住居あらせられき。

●●●●● 東禪寺 泉岳寺の南にありて佛日山と號す。下高輪町に屬せり。妙心寺派の禪林にして江戸四箇寺の一なり。開山は領南和尚にして、慶長の初め赤坂嶺南坂に創建し、寛永年中この地に移せり。境内に伊達家の墳墓及び原田甲斐の墓あり。幕末時代、外人互宿寺の一にして、文久元年浪士亂入の紀念として、今なほ鴨居に刀痕の跡を殘せり。

高輪の地は、中古沿岸の高原にして、高繩原手と稱したりしと、後高輪原に改めたり。北條九代記に曰ふ。「大永四年正月のこと、城主上杉朝興は、居ながら敵を受けんば、武略なきに似たりとて、撃て出で道にて敵を待かけたるに、小田原の先陣田目六郎と、上杉の先手曾我新三郎と、品川の前なる高輪原にてかけ合たり。上杉の軍兵足なみ亂れて城をさしてひき返す。」

日本屠畜株式會社 白金今里町にあり明治學院また同町にあり。白金の地は高輪の北に連りて、遠く荏原郡に及ぶ。地域甚だ廣し。なほ今里町に覺林寺あり。

傳染病研究所 今里町の北、白金臺町一丁目にあり。明治二十五年の設立といふ。

瑞聖寺 同じく白金臺町一丁目にあり。紫雲山と號し。黄藻宗の巨刹なり。寛文年間の草創に屬し、寺域幽靜にして、羅漢柏多し。

○麻布區 市の西南部に位し、東南は芝、北は赤坂區に接し、その他は皆な豊多摩郡に墾す。岡阜の間に散在せり。一區劃にして、低地はたゞ新堀川（赤羽根川）及び赤坂區に接したる一部にとゞまる。従つて丘陵崖谷多し。東西十九町、南北一里二十一町、東を飯倉といひ、西南の邊を廣尾といふ。人口六萬七千、諸紳士の邸宅多く、商工の民屋相連れり。街路の主なるものは筈町より靈南坂へ通するもの及び芝區より來りて赤坂區の青山にいたるものとあり。他に電車線は青山より來りて廣尾に通せり。兵營、學校等のあるを區の特色となす。

麻布御用邸 市兵衛町にあり。富美宮、恭宮兩親王殿下の御住居あらせらるゝ御用邸なり。附近市兵衛町は街路狹隘なれどやゝ繁華なり。

一本松 市兵衛町の西南一本松町にあり。一に冠の松ともいふ。源經基の古跡なりとも傳ふ。

善福寺 山本町にあり。麻布山と號し、一向宗にして、了海上人の開基なり。境内に逆銀杏及び鹿島清水等あり。寺寶多し。附近を往時雜式と呼べり。

廣尾の地はもと廣尾原と稱せられし地、今は人家次第に増し、ほとんど豊多摩郡の下濫谷との境界を交ゆるにいたる。地に笑花園あり。またその西南部は目黒、澁谷に接して甚だ都人士の散策地に適せるを以て、春秋の候、瓢を携へて遊覽するもの尠ならずといふ。

長谷寺 筈町にあり。江戸檀林の一にして、曹洞宗に屬し、天正十二年の草創なりといふ。

麻布兵營 三河臺町に第一旅團司令部あり。龍土町に第三聯隊の兵營を置かる。

東京天文臺 飯倉町の高阜の上に立ち、赤羽根川に臨めり。今、東京帝國大學の所管にして、經度正百三十九度四十四分三秒三、緯度北三十五度三十九分十秒の所に位置せり。

○赤坂區 市の西部に位す。外堀を以て麴町區に堺し、更に芝、麻布、四谷の三區に豊多摩郡の一角とに接す。地勢は麻布區と同じく高岡相連り、低地は麻布區と外堀とに接したる附近のみ。區内を大別して、赤坂、溜池、青山の三となす。東西七十九町、東西二十四町、人口六萬七千を有せり。重なる街路を青山大通となし、赤坂御門より澁谷に達せり。他に電車の線路は廣尾より來りて墓地間巷の間を穿ち以て甲武鐵道線信濃町停車場に達せり、兵營あり、御所あり、練兵場あるは區の特色なり。待合稼業の家また尠なからず。

氷川神社 氷川町にあり。素盞鳴尊、稻田姫命、大己貴命、三座を祀る。境内幽邃の趣あり。

豊川稻荷 赤坂新町にあり。豊川陀积尼天と稱す。參州なる同寺の出張所なり。新町のあたりや、繁華なり。

赤坂門址 麴町區より赤坂への出口にあたり、表町はその門外にあたり。昔時數ある江戸城門の中にも、北斗形の繩張とて有名なりしものなり。附近、櫻樹多く、雪景また佳なり。

歩兵第一聯隊 赤坂槍町にあり、日清及び日露各戦役に出戦せり。

赤坂離宮 區の東北にあり。一ツ木通のや、繁盛なるところを過ぎて、前に聳ゆる一丘陵は赤坂離宮のあるところにして、今は赤坂離宮、青山離宮の二宮に分たる。青山離宮はもと青山御所と稱し、故英照太後の仙宮たりしことあり、また兩宮も一時東宮御所に充てられしことあり。青山離宮の正門は、青山街道にありて、南面し、赤坂離宮の正門は、紀の國坂上にありて、東北に面せり。もと紀州侯の藩邸にして、明治六年宮城炎上の時より、二十一年宮城落成の時まで假皇居と爲し給ひしことあり。後庭

頗る林泉の美あり。毎秋観菊の宴を此所に開かせられ、百官に拜觀を許さるゝことを例とす。苑内廣淵高榭林石に富み、四時の風光を兼ねる、中にも紅楓の美ことに勝れたりといふ。

東宮御所 明治三十一年の起工にして、近時竣工せられたり。洋風三層の建築にして、各國の宮城を參酌し、善美にして且つ莊麗なり。附近の一偉觀となす。

溜池 區の東部を占め、もとは不忍池と併稱せられし池水にして、一時上水にも用ゐられ、蘆荻蒲葦その中に繁茂せしが、維新後過半埋立地となりて、今は一條の溝水を残すのみ。附近、絃聲多く、また溜池町の演伎座あり。

第一師團司令部 青山南町一丁目にあり。明治四年の創始にして、第二旅團司令部また同構内にあり。

陸軍大學校 青山北町にあり。參謀官たるべき技能を授くる所にして、獨り參謀本部の管轄たり。

青山練兵場 區の西北を占む。東西凡そ五町、南北凡八町の廣濶なる平野にして、日夜練兵の状態頗る壯觀なり。毎年陸軍始と天長節とは、陛下親臨して親しく觀兵式を行はせ給ふ。壯嚴絶無なり。

青山共葬墓地 青山街道を練んで、練兵場の南にあり。都下第一の一大墳地にして、面積八萬七千坪と稱し、明治五年の開設にかゝる。故夫久保右府、川上大將をはじめとして、朝野の名士、名媛の墳墓過半はこの地にあり。もしそれ秋風一度いたりて都門の落葉蕭々たるの時來りてこの地を弔へば、誰かまた多少の感慨なからんや。秋晴一日を割きて、累々たるその墓碑を展するも決して徒事にあらず。

青山街道は即ち青山の大通にして、離宮の門前より澁谷に通ず。南も青山南町といひ、北を青山北町といふ。未だ繁華を盡せりとはいふべからざれど、山手に於ては四谷大通と共に商家櫛比の地なり。されど四谷大通に比しては、老舗少なく、建物も木造多くして、店頭閉寂蕭條なり。より多く山手式なりとも謂ふべきか。青山北町に府立師範學校あり。また善光寺あり。



○四谷區 牛込區と共に市内高阜の地にあり、宮城の西に位し、東は麴町、南は赤阪、北は牛込、西は内藤新宿を以て豊多摩郡の地に墾す。坂路極めて多し、その著名なるものに津守坂、開坂、油揚坂、合羽坂等あり。東西十四町、南北十二町、現在の人口約六萬八千餘を算せり。道路は四谷傳馬町に起れる甲州街道、區の中心を縦断して内藤新宿に至れり。従つて區の繁華は皆なその街道の兩傍に集中し、商戸櫛比し、電車人車の去來繁く、その繁昌、山手有數と稱す。甲武鐵道は昌平橋より來りて、四谷、信濃町に各停車場を置けり。

古書に曰く「四谷はむかし武藏野へ續きたる原にて、家屋なく、わづか家六軒あり。然るに江府日々御繁榮に付、江戸傳馬町、鹽町の代地、或は麴町邊の寺社の代地になり、四谷とかき代へぬ。」

御所隧道 甲武線飯田町停車場を距る一哩六十九餘のところにあり。明治二十七年の開通にして、四谷停車場の南、外堀の中腹を貫通して鮫ヶ橋に達す。

須賀神社 須賀町にあり。四谷區の鎮守神にして、素盞鳴命、宇迦魂命を祀る。も

と祇園天王祠と稱せしを近年須賀神社と改めたり。毎歲六月十八日大祭を執行す。

お岩稻荷 左門町にあり。演劇にて有名なるお岩の靈を祀るといふ。女髮結の參詣するもの多し。

笹寺 四谷山長善寺と稱す。笹寺は俗稱なり。鹽町三丁目にあり。禪宗曹洞派にして、天正三年の草創なり。寛永年間徳川將軍鷹狩の節この寺に休息して、笹寺の名稱を興ふ。今境内石壇の熊笹はその當時の名殘なり。附近は標高三十五米突を有し、東京市にての最高所の一といはる。

四谷大木戸址 四谷區と内藤新宿との境にあり。むかしはこの左右深林をなして、一筋道を通じ、關門を設けて往來の駄馬行人と糺せりといふ。維新にいたるまでなほ左右に石壁を存せりき。木戸の址は今定かならねど、水道紀念碑の立てるあたりはその遺址ならんといふ。新宿御苑はその附近なり。

四谷大通に鹽町、傳馬町あり。老舗兩側に填布し、街衢廣く、商況盛なり。各戸店頭看板を掲げ、閭巷頗

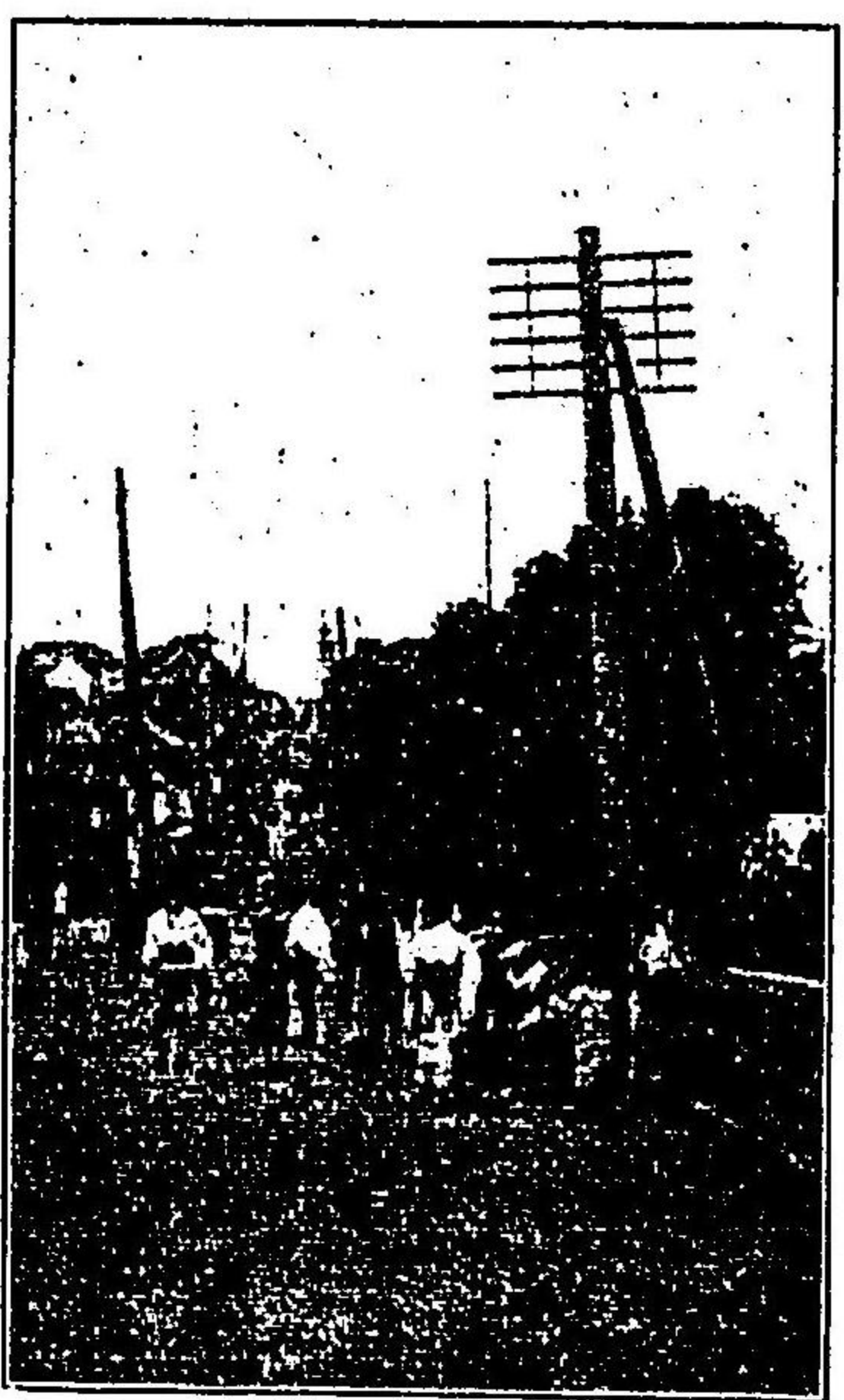
る質實たり。「山手に於ける下町」とも稱すべきか。

近衛第四聯隊兵營 霞丘町にあり。明治二十年その編制成る

○牛込區 四谷區の東北に接し、宮城の西北に位す。濠水を以て麴町に接し、東は小石川區、西北は豊多摩郡に堺す。地勢概ね高燥にして、丘陵、坂谷の多き、この區の右に出づるものなしといふ。江戸川は水源を井頭池に發し、關口の大堰より曲折して、絶えず小石川との區堺を流れ、船河原橋より神田川となる。大下水は區内市ヶ谷田町に沿うて流れ、四谷區大木戸より來るもの、市ヶ谷富久町より來るもの、四谷區暗夜坂より來るもの、三水相合して、市ヶ谷八幡町にいたり、幅六尺に及びて江戸川にそゞり。區の東西二十八呎、南北十八町、人口九萬六千を有せり。區内の繁華地は神樂坂より通寺町、肴町をはじめとして、築土前町附近また漸く繁盛に赴かんとす。區の特色としては官吏學者の居宅多し。

神樂坂通 牛込見附より牛込通町に通ずる關門とも稱すべき地にして、山手にての

一繁華なり。坂の名を神樂といふは、昔坂の半腹右側に、高田穴八幡の御旅所ありて、神輿渡御の際神樂を奏せるより起れりと傳ふ。商賈軒を並べ、行人の去來絶ゆるの時なし。ことに毘沙門天の縁日の繁華は府下縁日中殆ど第三位を占むるといふ。



神樂坂 神樂坂通は實に山手の東京と稱せらる。近時江戸川線電車の開通せられたれど、なほ朝夕通勤の官吏、學生の靴音絶ゆるの期なし。店舗必ずしも大座高樓からされども、手堅き老舗少なからず。暮夜牛込見付のほより坂上を眺むれば、瓦斯に包まれたる電燈の光燦として、宛から燈光の海を望むの觀あり。

津久戸神社 區内築土八幡町にあり。素盞鳴命を祀る。一説には平將門の首級を祀るともいへり。文明中、太田道灌江戸城の鎮守として平河の地に創建し、元和元年田安の臺よりこの地に遷徙すといへり。社域に百日紅の老樹あり。また社と並びて八

幡宮あり。弘仁中の草創にして、應仁天皇を祀る。賽路は石階重疊し、境内の眺望頗る富贍なり。附近萬松寺に吉良上野介の墓なり。

赤城神社 津久戸神社の西方崖上にありて、赤城元町に屬せり。牛込區の總鎮守にして、大己貴命及び豊入彦命を祀りて、上野國赤城神社と同神社なり。境内樹木多く、堂宇またその後を遮りたれば、眺望は津久戸神社に及ばざれど、なほその一角よりは遙かに秩父、多摩の連峯を望み得べく、小石川臺に對して黄昏の眺望ことによし。

濟松寺 板町にあり、蔭涼山と號す。正保三年の創始にして、開山を永南和尚となす。往時頗る大伽藍なりしも、今頽廢して振はず。廟前に鳳凰池あり。

宗參寺 雲居山と號す。濟松寺の西にあり。曹洞宗にして、境内に山鹿素行の墓あり。

戸山學校 下戸塚町にあり。明治六年の創設にして、陸軍の諸學科を教授するところ。

ろ、もと尾州家の別墅なりき。その後園は林木深く茂り、泉池所々に日にかゝりやきて、その光景小石川の後樂園に次ぐといふ。惜むべし、林藪の中に埋没せられて、久しく世人の見るを許されず。戸山學校の附近に陸軍砲工學校及び陸軍經理學校等あり。

戸山學校の地域は周圍凡そ一里と稱す。その一邊に射的場及び諏訪森等あり。初春、枯草を踏んで逍遙し、また摘草をなすに適せり。山を望み、市街の煙突を望んで、曠望叢林の風景また捨つべからざるものあり。

高田穴八幡 高田町字馬場下にあり。草創は寛永年間にして、應仁天皇を祀る。幕府の頃は、弓箭の神として、幕士のこれに崇敬するもの多く、その祭事また極めて繁盛を極めたりしも、今はまた往年の盛觀を見るを得ず。毎歲八月十五日例祭を執行す。近年火災にかゝりて目下再建の工事中なり。

高田馬場 穴八幡の上方なり。むかし頼朝公隅田川合戦の時こゝにて勢揃ひありきといふ。近くは堀部安兵衛の仇討を以て有名なり。淋しく田舎めきし場末町に藁家多し。

●●●●●●●● 早稻田大學 穴八幡の少許にあり。地は既に豊多摩郡戸塚村の管内に属す。校は明治十五年の創立にして、三十五年大學組織に改む。政、法、文、商及び理工科の諸科あり。別に高等豫科と在近の早稻田實業學校、早稻田中學校を合せて生徒の總數實に八千に達すと稱す。附近の町はこれが爲めに賑ひ、ことに清國留學生多きが爲め、鶴卷町の一角は横濱式の特色ある一街衢を成せり。傍側に水稻荷社あり。

●●●●●●●● 早稻田大學圖書館 同大學の構内にあり。文學及び法律に關する書籍最も多しといはる。近年公開せり。

●●●●●●●● 早稻田大學運動場 早稻田大學の背後にあり。目白臺帶の翠微及び建築叢林を望みて風景よし。運動場にて春秋二季に催さるる野球試合は、都下十萬の學生を汲收して、頗る盛なり。野球趣味は現時の青年を支配して、やがては新しき東京行事の一とならむ。

●●●●●●●● 山吹の里 高田の附近にあり。太田道灌が賤の少女より山吹の花を贈られ、解釋に

苦しみし古蹟として名あれど、確證なし。  
市ヶ谷は區の西南に位せる地の總稱にして、北より南東にかけて一帶の窪地をなす。従つて臺地坂路多し。  
●●●●●●●● 市谷八幡宮 市谷八幡町にあり。市ヶ谷諸町の總鎮守にして、應神天皇を祀り、文明年間太田道灌江戸城擁護のため鎌倉鶴ヶ岡八幡宮を勸請して創建したるものなりといふ。毎年九月十四、十五日例祭を舉行す。社域に道灌杉あり。地高丘に據りて、梅樹櫻樹を植え、眺望や、佳なり。  
●●●●●●●● 陸軍士官學校 市谷本村町に属して、陸軍中央幼年學校と共に市ヶ谷の中央臺地を占め盡せり。わが國陸軍の首腦たる唯一の士官養成所たり。地はもと小石川の水戸藩邸赤阪の紀州藩邸と共に幕府三親藩の一たる尾州侯の邸址なりき。地の標高三十米突と稱す。

●●●●●●●● 月桂寺 市谷河田町にあり。寛永年間の開創にして、もと平安寺といへり。宗旨は臨濟を奉じ、僧關叔を開山となす。關東十刹の一にして、牛込區の巨刹なり。境内に

臨濟を奉じ、僧關叔を開山となす。關東十刹の一にして、牛込區の巨刹なり。境内に

柳澤吉保遺愛の老松あり。

**自證院** 市谷富久町にあり。鎮護山と號し、天台宗に屬す。堂宇の用材に節多きを以て、俗に瘤寺とも稱す。境内に樹木草花多く、また文豪小泉八雲の墓あり。

**東京監獄** 自證院の東北に隣りて、同じく富久町にあり。刑事被告人控訴上告囚、拘留囚及び刑期一ヶ月以下の短期囚を拘禁す。その地一帯の卑濕地を成せり。

**市谷監獄** 市谷谷町にあり。舊幕時代、日本橋區傳馬町にありし獄屋を以てその創始となす。今、既決囚人を收容せり。

○小石川區 宮城の正北に位し、江戸川を以て牛込に接し、便に麴町、神田に及ぶ。西北は本郷、豊多摩に隣り。江戸川一帯の地と本郷に接するの地とを除くの他は、概して、高阜にして、蓮華坂、金剛寺坂、安藤坂は南に面し、富坂は東に面せり。その他、鶯谷、茗荷谷等の諸谷あり、以てこの區のいかに丘陵の間に介在せるかを示す。

川は江戸川の他、小石川、弦巻川あり。小石川は巢鴨より來りて小日向臺、白山臺の間を流れて江戸川に入る。弦巻川は關口臺と小日向臺との間に流れたり。區は東西二十七町、南北二十五町、人口凡そ九萬六千餘を有せり。特色として砲兵工廠、植物園及び若干の學校、二三の寺院を有することなり。

**砲兵工廠** 區の東南端小石川町にあり。前に江戸川の流を帯び、後に牛天神の丘陵を負へり。牛込區より船河原橋を渡りて入れば、鐵道もしくは赤煉瓦の大烟突は幾箇となく廠内に聳えて、その媒烟の漠々たる、その機關の音響の轟々たる、過ぐる人をしてその事業のいかに壯大なるかに驚かしむ。夜はまた火光赤く天に映り、噴煙濛々として白くのぼり。

**後樂園** 砲兵工廠の構内にあり。舊水戸侯の庭園にして、園内濶く清泉流れ、泉石の排置、亭榭の構造、能く天然の景に模せり。これ、實に明客朱舜水が水戸義公の旨を奉じて經營せしめたるもの、市中第一の名園と稱せらる。



墓もまた境内にあり。享保六年、江戸大火の際當寺に入りて焼死するもの三百八十餘人、その遺骸を埋めて一堆の塚となし、以て靈魂を吊す、今無縁塚と稱するものこれなり。明治四十二年火を失して、伽藍堂塔半一夜の中に灰燼に歸す、惜みても餘りあり。

●金剛寺 金富町にあり。惠日山と號し、曹洞宗を奉ず。市に於ける古刹の一にして、波多野忠經將軍實朝公追吊の爲めにこれを建立し、太田道灌重修すといへり。寺邊に實朝の碑を存せり。

●植物園 白山御殿町にあり。もと館林侯の別墅白山御殿の地にして、舊時幕府の藥園なりき。いまは東京帝國大學理科大學の直轄に屬し、公開して日々庶人の來觀を許す。面積四萬八千八百餘坪。園内には遍ねく各種の植物を栽培し、以て植物學、昆蟲學、藥學等を修むる學生の實驗用に資す。その種類今や内外産を合して三千餘種に及ぶといふ。而して、園内の大區劃にはエンゲレル及びブランドル兩氏の分類法に従が

ひて、植物科目壇を設け、また他の區劃には藥用植物及び日蔭植物等各類を分ちて栽培す。その他、珍奇なる盆栽植物の保育に宛つる爲の温室あり。温室は日本式と歐洲式の二種に分ち、日本式のそれには所謂陸室、唐室、大阪室の設置あり。歐洲式のものには専ら熱帶地方に産する植物を收容栽培せり。かつ園内西方の區域には庭園あり、林泉の布置頗る美にして、その境地また幽邃に、些の俗塵のいたるなし。

●東京官立學校 植物園の南側に沿うて御殿坂をのぼりし所にあり。靜閑なる白星の建築にして、明治八年の創立にかゝる。

●白山神社 白山前町にありて、小石川區の鎮守神なり。天曆二年加州白山神社を勸請したるものにして、伊弉册命、伊弉諾命及び菊理命を合祀す。もと白山御殿の地にありしを、明暦年間今の地に徙せるものなり。明治二十四年開きて白山公園となす。社地、高崖の上にありて、杉樹多し。古來初音の里と稱して、時鳥の名所なりき。九月二十一日祭典を執行す。

東洋大學 はじめ哲學館と稱せしもの、原町にあり。高等なる哲學及び文學を教授する私立大學なり。

巢鴨病院 鴫籠町にあり。癩狂病者を收容する病院として名高く、入院患者に施療及び自費の別あり。

本郷區駒込分より來れる道路は鴫籠町巢鴨村等を経て板橋に向ふ。これ中仙道の古驛路にして、萬世橋より本郷を経て來れる乗合馬車は、巢鴨を通じて板橋にいたる。街路狭少にして陋屋多く、飲食店及び雜貨店等を所々に雜ゆ。汚穢車常に連續して、雨天の日は泥濘深し。

東京高等師範學校 植物園の所在地なる白山臺と相對せる大塚の丘陵にあり。大塚窪町に屬す。文部省の直轄學校にして、中等教員養成を以て目的と爲す。近年の設立なり。師範校より南すること數町、一道の坦途東より來りて西に通ず。これを大塚通と稱せり。

護國寺 大塚坂下町に屬す。地を音羽町豊島ヶ岡と稱し、新義真言宗にして、天和

元年創建、僧亮賢の開基なり。元祿年中桂昌院殿更に修繕を加へ、密乘最大の佛刹となる。寺域四萬七千坪餘。古へは寺領千二百石を領し、坊舎十數宇を支配せり。本尊如意輪觀音は天然の瑪瑙石像にして天竺より渡來したるものといふ。境内に西國三十三番札所を摸したる藥師堂、歡喜天の堂等あり。また本堂の一柱を猿柱といふ。その木理猿の面に似たるが故なり。寺寶としては狩野安信筆涅槃像の畫幅あり、稀世の大畫幅なり。境内四季の花木多く、ことに春季は櫻花爛熳たり。後山豊島ヶ岡はもと權現山と稱し、護持院の舊址にして明治六年より皇室の御陵地となり、皇族内親王の御墓あり。その他境内に三條實美、中山忠能、山田顯義及び室鳩巢、柴栗山、古賀精里等の墳墓あり。

護國寺の朱門よりうち渡されたる大通は所謂音羽道にして、その長さ八九町に達し、末は電車江戸川線終點にいたる。比較的閑靜なる廣衢にして、その大路と夾みて二丘陵の蜿蜒たるあり。而して東の丘陵は標高三十四米突を有する小日向臺にして、その最高所に陸軍火藥庫あり。西の丘陵は即ち目白臺なり。



●東京市養育院 護國寺の東、大塚辻町にあり。明治五年の創立とす。

●●●● 関口 目白臺の崖下に、承應年中神田上水を疏通して、大洗堰を設けしよりその名起る。是に俳人松尾芭蕉その役に服す。後世俳人等その古蹟を失はざらんため、相集りて、翁の詠句「五月雨に隠れぬものよ瀬田の橋」の短冊を埋め、塚を築きて五月雨塚と稱す。今田中家の邸園中にあり。季吟また詠歌あり「住つかぬわが宿とはぬ時鳥もとのあるじを慕ひてや啼く」。駒塚橋畔よりそのほとりを逍遙すれば、田園廣く早稲田の新開地に連りて眺望清洒なり。雪景、初夏の緑葉ともによし。

●●●● 目白不動 関口駒井町にあり。寺を東豊山新長谷寺といふ。本尊不動明王は僧空海が羽州湯殿山にて作れる二佛の一體と稱す。中興大和長谷寺の小池坊秀算、寛永の頃、將軍家目黒の不動に對して目白不動と命名せりといふ。地高崖に居りて、眺望絶佳、雪景ことに奇なりと稱す。附近に山縣家の庭園椿山莊あり。

●●●● 江戸川端 牛込小石川の區界を流る、江戸川の兩岸、石切橋より隆慶橋にいたるま

で數町の間、兩岸に櫻花を植ゑ、電車を通せり。花時は彩霞水面に映掩し、河心には終歳數十隻の短舟を浮べ、上は目白臺下の關口より、下は神田川まで、自在に上下し得べく、觀花、納涼、觀月ともに可なり。近年俄かに都下有數の遊覽地となれり。  
●●●● 鶴龜松 目白臺の上、高田老松町、細川邸の門前にあり。老幹蟠曲、頗る愛すべし。地は郡部に近き場末町なれど、女子大學の所在地なるため、また近年郊外生活の人士増加せしため、自から新開地の趣を加味せり。

●●●● 日本女子大學校 高田豊川町にあり。附屬高等女學校及び幼稚園等を有して、巍々たる赤煉瓦の建物高く街頭に聳ゆるを見る。明治三十四年の創立なり。それより雜司谷鬼子母神にいたる。山手線電車共用目白停車場はその街路の突當なり。

○本郷區 市の北部に位し、西は小石川區と一谷を隔て、東南は下谷、神田の二區に界し、北は北豐島郡に連なる。高阜相依り、阪谷從つて多し。地形上よりして南部を本郷とし、北部を駒込となす。本郷臺の東南端に湯島臺あり。神田川區の南部を流

れ、藍染川は區の北部を流れたり。東西二十町、南北三十二町、人口大約十三萬千餘を有せり。街路は神田區より來れるものを中仙道となし、區内繁華の地は多くこれを中心とせり。帝國大學の存在せるを以て特色となし、學者の居宅を構ふるもの多し。本郷通、切通町等を以て最も繁華なる街衢となす。

●●●●● 舊聖堂 湯島二丁目に屬して、神田明神と相接す。寛永十年尾州侯義直上野の邸地に一廟を營み、孔子、顔子、曾子、子思、孟子の像を祭りて先聖殿と號す。元祿四年將軍綱吉今の地に大成殿を築造し、聖像等を悉くこゝに移して釋奠を怠らず。幕末、儒者をして漢籍を講せしめ塾となして學生を養成す。後、變轉して今高等師範附屬中學校となれり。堂内に東京教育博物館あり。高等師範の所轄にして、重に教育教授に關する物品を陳列す。また館内に教育圖書閱覽所の設備あり。賴春水大成殿を詠じて曰く「大成開巨殿、輪奐照無窮、黍稷馨天德、蘋蘩薦聖功、因觀發宇壯、增信翊圖雄、政化歸仁厚、淳彝名不空。」

●●●●● 女子高等師範學校 舊聖堂に隣りて、湯島三丁目にあり。もと東京師範學校はこの校に並びき。前面一路を隔て、神田川の懸崖を望む。

●●●●● お茶の水 茗溪とも呼べり。女子高等師範の傍らにあり。曾ては江戸の小赤壁と呼ばれたる地、今は丘上の密樹を伐り拂ひ、山を崩して甲武鐵道を敷設し、また舊日の幽趣なけれど、お茶の水橋畔に立てば、崖下の溝水、荷舟を望んで、多少の趣なきにあらず、お茶の水の名はむかし岸下に清泉湧出し、諸人これを以て茶を煮たりしより起る。

●●●●● 順天堂病院 お茶の水より少許にして、湯島五丁目にあり。私立病院なれど石造の建物巍々たり。主治科目四科中、外科を以てことにあらはる。

●●●●● 妻戀神社 神田明神と一窪地を隔て、妻戀町にあり。もと妻戀稻荷と稱せしもの、社は實に日本武命東征の時に創れりといふ。妻戀の名また古く著はれたり。

●●●●● 靈雲寺 湯島新花町にあり。寶林山と號す。覺彦比丘の開基にして、眞言宗を奉ず、

地藏堂、大元堂、観音堂等あり。大元明王の像は將軍綱吉の筆なりといふ。また鐘樓の梵鐘は當寺草創の際鑄造せしものにして、覺彦自作の銘なり。

**湯島天神** 切通坂の南なる崖上にあり。後光嚴天皇の御宇の草創と稱し、文明中太田道灌これを再興せり。明治二十三年開かれて公園となる。梅花社内に粧點し、榻に凭りて眺望すれば、下谷、淺草の瓦葺は悉く一眸に集りて、宛然小愛宕の觀あり。毎歲二月十日及び十月九、十の兩日祭禮を執行す。

**麟祥院** 湯島天神の西北、切通坂の上にある。臨濟宗にして、春日局の本願なり。もと天澤寺と稱せしが、春日局の法號を麟祥院殿といへりしより今の寺號に改む。境内に春日局の墓あり。また、影堂に狩野探幽筆の局の影像をかゝぐ。

本郷四丁目より道を東へとりて、湯島天神の傍を過ぎ、上野の池端へ下るを切通坂といふ。切通町あり。商業盛にして、各種の物貨を商ふ。太物商また少なからず。坂下より電車道は直ちに上野廣小路へ續けり。町は本郷通と相對して區内の繁華地なれど、街路、建築、凡て本郷通に劣れり。春木町、元富士見町を以て本

郷三丁目に接せり。本郷通は湯島より來りて、その三丁目角に於て西北より來れる一路に合す。人家整正ならざれども、所々に洋風の建築を交へ、雜貨、書籍、洋服等を商ふ店多し。而して、三丁目より元富士見町の一路を入れれば、忽ち更に一街衢を開き、朝暮、學生の陸續として來往するを見ん。附近、書籍肆多く、車馬の通行また繁し。春木町三丁目に劇場春木座あり。

**東京帝國大學** 區のほとんど中央に位し、元富士町に屬せり。地は舊加賀藩の邸址にして、その遺物たる赤門は、正門の東にあり。中央なるを法、文科大學となし、西にあるを工科大學となし。やゝ低地にあるを理科大學となす。醫科大學は東にありて、その時計臺は、高く雲表に聳えたり。面積十萬餘坪、構内中央に池石泉林を存して、なほ加賀侯の庭園の名残を示せり。分科大學の他、大學院をも同構内に併置せり。

**醫科大學附屬醫院** 帝國大學構内の東部にあり。學術實驗及び臨床講義に須要なる患者を入院せしむ。院内を九科に分ち、且つ研究室を設けて研究に便ならしむ。患者

に治療及び私費の別あり。

東京帝國大學の起原は徳川幕府の審書調所に濫觴し、はじめ南校と稱し、また開成學校と改め、明治十年東京醫學校を合せて東京大學と名づく。明治十九年帝國大學會の公布ありてはじめて帝國大學を設置し、東京大學及び工部大學校の事業を繼續す。三十年京都大學設置せらるゝに及び、帝國大學を改めて東京帝國大學となし、以て今日に及ぶ。現在の組織は大學院及び分科大學を以て構成せられ、大學總長、これを統ぶ。分科大學は法、醫、工、文、理、農の六科あり。農科大學の外は一構内にありて、正に一大學區を形成す。なほ大學の附屬研究所としては、醫科大學に附屬病院ありて、普く一般患者を收容治療して醫學社會の範たり。文科大學には史料編纂掛あり、修史館以來の事業を繼續せるものにして、日本の史料を編纂印行するを以て目的となす。理科大學附屬としては麻布飯倉町に東京天文臺あり、専ら天象觀測及び編纂の事を司る。(大日本地誌より)

第一高等學校 向ヶ岡彌生町にあり。舊大學豫備門の後を受けたる大學豫科にして、中學を卒へて大學に入らんと欲するもの、爲めに設けられたる所なり。校内三部に分る。全國の高等學校中、最も盛大にして且つ完備せるものといはる。

向ヶ岡 彌生町より池端七軒町に至る高地の名にして不忍池を挾んで上野と相對す。むかしは月雪等の名所なりき。

根津神社 根津須賀町にあり。一に須賀神社或は根津權現といふ。素盞鳴尊を祀り相殿に國常立尊、應神天皇を合祀すといふ。本社はもと徳川家宣の産土神にして、寶永元年こゝに社地を賜ひて社殿を造營せしめられ、社領五百石を寄せられしといふ。境内に六代將軍胞衣塚あり。また躑躅花を植ゆ。祭日は九月二十一日なり。附近、根津の地は一帶窪地をなして不忍池に續けり。曾てはこゝに遊廓を置かれて歌舞雜踏の巷なりき。

團子坂 駒込千駄木町にあり。駒込の高地と下谷區谷中の丘陵との間に介まる低地にして、藁駝師多く、春來菊を培養し、その花開く頃を待ちて各種の菊人形を形成し、以て觀客を呼ぶ。開花の候は老若群集し、熱鬧を極む。また城北の一名物なり。

淺嘉町青物市場 駒込の中央淺嘉町にあり。元祿年間の開設にして、往時は土物店

または溝店といへり。狹隘なる街路なり。また同町に目赤不動あり。小宇なれど、むかしは目黒、目白と共に江戸の三不動と稱せられしものなり。

●駒込避病院 浅草町の東北動坂町にあり。市立にして、明治十二年の創設にかゝる。

●吉祥寺 駒込吉祥寺町にあり。諏訪山と號し、曹洞宗にして、江戸檀林の一なり。

寺記にいふ長祿年中太田道灌江戸築造の時、和田倉近傍の土中より吉祥増上の文字ある銅印を得たり、因て一字を建立して吉祥庵といふ。後、明暦三年神田の臺より今の地に移せりと。境内廣濶にして、本堂の外に、諏訪社、稻荷社、大佛、禪堂、經藏等あり。舊時は梅檀林と稱し、二十幾箇の學寮を存し、今もなほ曹洞宗の中學林あり。

駒込とは本郷の北邊の汎稱にして、地一帯の高臺と成せり。その街路は概ね閑靜にして、吉祥寺の他は多少見るべきものとしては富士前町の六義園及び富士神社あり。動坂を以て北豊島郡との境界となす。

○下谷區 市の東北部に位し、浅草、本郷、神田及び北豊島郡に界す。地勢は上野谷中の低丘と湯島の臺地に介まれて、低窪卑濕の地多し。區の西北に不忍池あり。そ

の下流忍川は東流して浅草區に入れり。東西三十二町、南西二十八町を有し、人口約十六萬九千餘を有す。繁華は廣小路より上野附近を以て第一となす。また廣徳寺通は浅草區に通ずる街路として有名なり。上野公園及び不忍池あるは本區の特色にして、街衢は上野を軸として三方に展げたり。

●上野廣小路 神田御成街道より連続して、上野公園前にいたる。上野廣小路町、上野北大門町、五橋町、五條町に分つ。廣衢相連り、大厦相接し、車馬行人の往來繁く、頗る繁盛なり。その他、勸工場あり、洋館あり、商品廣告の旗は常に風に翻へる。また公園前の片側には重に地方人士相手の飲食店軒を連ぬ。

●上野公園 古へ不忍ヶ岡の名あり。徳川氏入國の頃藤堂和泉守この地に邸第を起し、その地形伊賀の上野に似たりとて改めて上野と稱す。寛永年間徳川氏藤堂邸を染井に徙さしめ、その跡に東叡山寛永寺を草創し、徳川氏代々の香華院となす。舊時は寶殿靈閣頗る華美壯麗を極めたりしも、明治戊辰の兵燹にかゝりて大半烏有に歸せり。明

治六年開きて公園となし、爾後諸博覽會、共進會等を時々この園に開設す。現時總坪數二十五萬二千餘坪を有し、都下四大公園中の最も大なるものなり。園内に東照宮、寛永寺、清水堂、博物館、帝國圖書館、動物園、五重塔、大佛及び西郷隆盛銅像、彰義隊墓碑、東京美術學校、音樂學校等あり。地域深樹多く、眺望に富み、古蹟多し。ことに花時に際しては櫻花爛漫として向島に次げる觀花の遊覽地たり。平時に於ても三々伍々隊を成す地方人士、下町の士女、兵士等の來遊絶ゆるの時なし。

**上野公園の大體觀** 上野廣小路より公園に入るに三橋あり、忍川に架す。北は即ち上野公園の入口なり。正面山王臺(または櫻ヶ岡)に上る階段を袴腰といふ。臺はむかし林羅山の家塾を開き、また將軍義宣の孔子廟を建てしところ、西郷隆盛の銅像及び彰義隊の墓碑あり。この附近、山下より都下十萬の瓦甍を望みて眺望よし。清水臺に清水觀音堂あり、碧雲朱欄の建築物なり。堂側に秋色櫻あり。更に東にあたりて日本美術協會あり。なほその東にパノラマ館あり。清水堂より西にあたりて稲鉢山あり。

山王臺下より左に折れて公園に入る黒門通はこの臺下を過ぎて、竹の臺に達せり。帝室博物館は竹の臺の背後にありて、館前を東西に通貫する道を錦小路といふ。その北に文部省所轄東京美術學校及び音樂學校あり、相駢びて帝國圖書館あり。帝國學士院は東京美術學校の敷地内に置かる。動物園は東京美術學校の南に設置せり。更に黒門口に歸る道路附近に東照廟、五重塔、大佛等あり。不忍池は東照廟所在地より黒門口に至る一帯丘陵の下に、一路を隔て、展けたり。園内の古蹟としては黒門口最も名あり。

彰義隊實歴鈔に曰く「慶應四年五月十五日、天既に白し。既にして砲聲起る。予(丸毛利恒)は各所の情況を視察し來らんと、拳銃を腰にし、七發砲を提げ、再び馬に飛び乗り、各營を一巡し、谷中門に至る。時に此方向に襲來せし官軍は、我兵之を根津及び關子坂邊に邀へ撃ちて、大に敗りぬ。予頭取織田主膳に言て曰く、敵今退くも再び兵を合して來る可し、早く門外の家屋をやき、敵をして據る所なからしめんには如何か。主膳曰く善しと。即ち共に空家に入て火を放つ。此時天王寺を守る我兵も火を放ち、煙烟天を掩ふ、而して雨益々烈し。予は此方面の景況を本營に告げんと欲し、再び馬を本營に返し、到り見れば、隊頭池田大隅守は

神祖の御影を守護して、宮の御殿に参し、其他の將校も皆各方面に出張し、只會計記録等の俗吏のみ居りぬ。時に黒門口、山王臺より援兵を乞ふの使續々として来るあり。予馬を下るに暇なく、馬上より水を掬飲して、僅かに渴を醫し、一鞭直に谷中口に向ふ。途上行逢ふ人毎に黒門を援ふべき旨を傳令して谷中門に至り、同所に在る一隊に告ぐるに、早く山王臺に上り黒門に迫る敵の横を狙撃す可きを令し、直ちに馬を飛して山王臺に至り、手綱を側への樹に繋ぎ、戦況を視察するに、此方面は最激戦にして、兩軍の呐喊砲聲は百千の霹靂の一時に落つるが如し。我兵は互に疊を重ねて土俵を組み、僅かに橋として、之に據るも、宛然矢的的を貫くが如くに、彈丸は之を打ち抜き、看々算を亂して打ち登る。然れども之を昇き退くに暇なく、屍は碁子を散し、如く、齧めき叫ぶ惨状は、修羅の巷にさも似たり。見上ぐれば老樹の梢は大砲の爲めに打摧かれ、大餘の枝のめり〜と音して、落ち来る様は、恰も山岳の崩るゝかと疑はる。或は霰彈に打ちさられし誰が肉塊にか、飛で老樹に貼付て、血痕淋漓たる其苦戦知るべきなり。予が乗放したる馬も、此にて均しく二彈を受け、屏風を倒すが如く斃れ死しぬ。予は始より巨木を橋に、親から七發砲を取り、敵を眼下に狙撃すること十四五發、頭取近藤武雄も予と並び居て、頻りに下知を加へぬ。此時頭並天野八郎も此に來りて、自ら砲手を指揮し、四斤砲を發射せしめ居たりき。時に誰とは知らず揚言すらく、今方きに余の藩中數十敵中に突入せんとすと、暫し發砲を止めよ。然らずんば同士討の處ありと。衆爲めに少しくためらふ程こそあれ、黒門危しあ

はれ破れんと叫ぶものあり。衆驚き動く。近藤吹田等頻りに聲を勵まし、鎮制して以て防ぎ戦ふ。予は固より兵を率ゐしに非れば、今會津藩の士突撃せんと聞き、二人を顧みて曰く、機失ふ可らず、予は直に黒門に至り、同所の士をして之を繼がしめんと。馳せて土手を下りしに黒門兵はや打破られ、散々になだれ来る後よりは敵兵潮の湧くが如くに迫り、其勢甚だ念なり。折から一丸飛び來りて、予が笠を貫ぬき、再び來りて亦刀の鞘を打割りぬ。此時天野八郎は馬の鞍轡に突立ち上り、大音に迷る味方を罵り辱しめ、盛返さんと頻りにあせり居たり。予は勢の支ふ可らざるを見て、中堂若くは御本坊にて遮り防がんと、驅け抜けて中堂に來りて見れば、酒樽に酒の半ば残りたると、槍長卷錢草鞋など取捨て、兵士の狼狽彷徨するあるのみ。斯くては此門も望なし。所詮御本坊を守るに如じと再びかけぬけ御本坊に至れば、早既に守兵だも見えす。さてはと思ひ、沓の儘支關に踏込めば、果して人影もなし。やがて奥より御庭に出しに、織田主膳、小笠原鑑三郎等二三人に出遇ぬ。織田は掌を握りて曰く、無念〜最早是迄なれば、宮を奉じ一方の圍を脱し走らんとて來りしに、宮には早御立退きありしと見えたりと。時に谷中邊より中堂の方に當り頻りに、砲聲聞ゆ。蓋し我兵の止り戦ふものあらんと覺えつれども、最早より直さんとは逆も能ふまじ、先つ一方の活路を求め、互に御庭中を周り、竹藪の中を潜り、抜け、土塀を飛越へ、辛ふじて根岸に出ることを得たり。時に午後三時頃にやありつらん。敗兵陸續として落ち來りぬ。

帝室博物館 明治十一年の創立にして、石造煉瓦造りの大建築なり。今、宮内省に屬す。館内には内外古今の歴史的美術品、製作品、天産人工等のあらゆる物品を彙類

して陳列し、以て縦覧に供す。傍らに東宮御慶事紀念美術館あり。館の正門は即ち舊寛永寺の中門なりき。

帝國圖書館 明治五年の開設にして、もと東京書籍館と稱し。三十九年にこれを改築せり。藏書數四十萬冊と稱す。

動物園 明治十五年の設置にして、今、宮内省に屬す。東西の禽獸鱗介數百千種を集め、寒帶熱帶各地に亘る動物を網羅せり。兒女を伴ふ人の遊覽に適す。

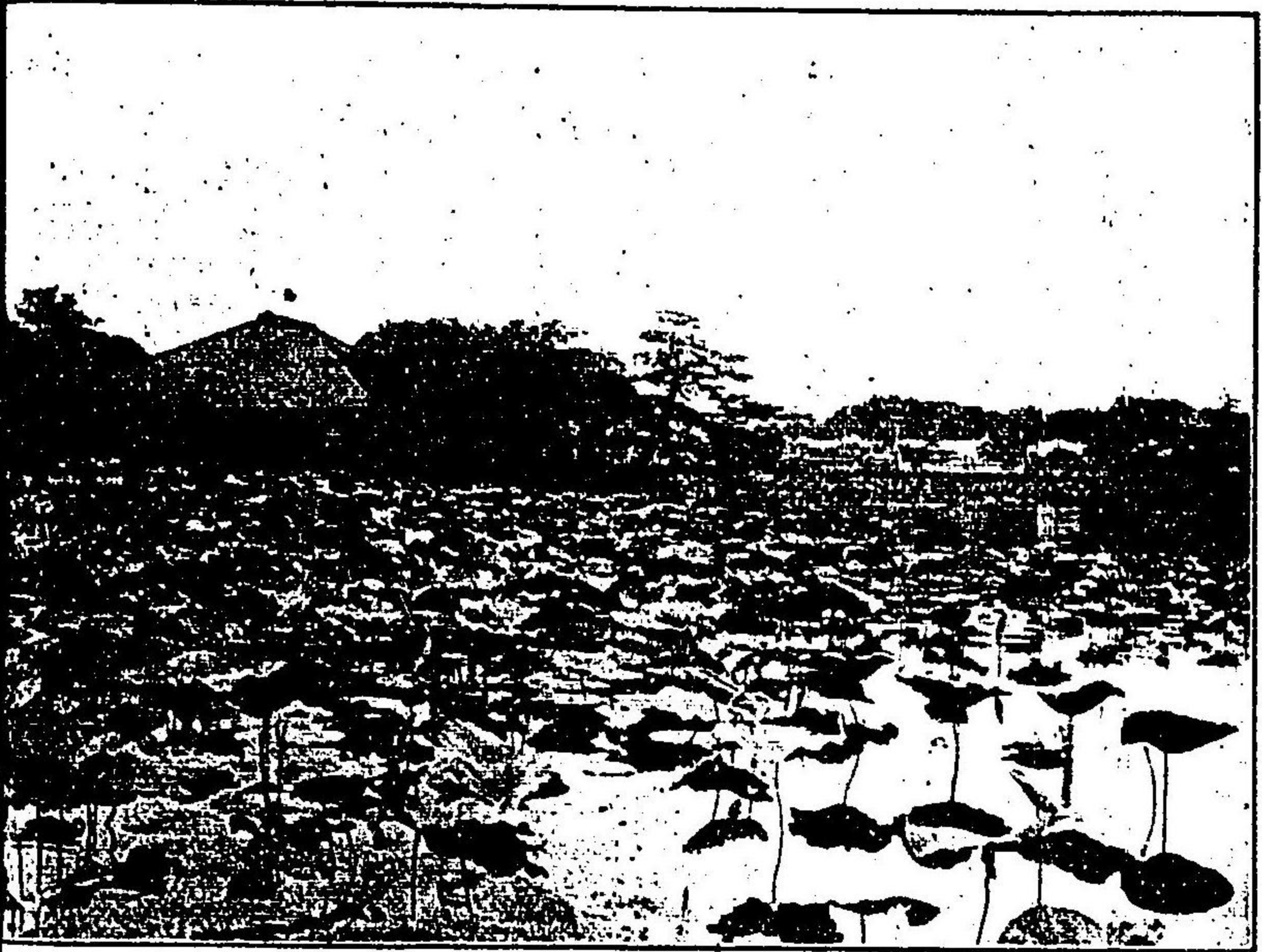


上野動物園

上野東照宮 動物園の南に隣れり。寛永年間の創建にして、徳川家康を祀る。華表より本社まで凡そ二町、その兩側には諸侯より献納せし無数の石燈羅列し、本社は神籬門の裡にありて、規模小なりと雖も構造善美を盡せり。また石の華表の傍らに巨大なる石燈籠あり、高さ二丈に餘るといふ。黒門通りに出る登路の北側に寛永寺の鐘樓跡あり。またその背後に米國グランド將軍手植の樹あり。華表傍の陵上に大佛あり。高さ二丈二尺、萬治年間の建造にして、高さ二丈二尺と稱し、紫銅造りなり。時鐘の背後に立てり。「花の雪鐘は上野か淺草か」といへるもの、即ちこれなり。近傍に西洋料理店精養軒あり。また花園神社あり。東照廟の大祭を六月一日となす。

不忍池 上野臺の西南に展げ、同臺と向ヶ岡の間に湛ふ。周圍約一里、満池蓮を植ゑ、毎年七八月の交にいたれば、紅白の花池水に映じて清香人の袂を襲ふ。中島に辨財天祠あり。近江の竹生島辨天に模して慈眼大師の勸請するところといふ。近年勸業博覽會を上野に開催せし際、辨財天祠の背後に半永久的の新橋を架し、観月橋と名





づく。池の西南を池の端と呼べり。絃歌の聲多し。

●●●●● 兩大師 上野公園内屏風坂の上にあ  
りて、博物館に隣れり。一に開山堂ま  
不たは慈眼堂といふ。即ち慈眼、慈惠兩  
大師の影堂なり。慈眼は天海僧正と稱  
忍す。寛永年間三代將軍の命を受けて上  
野の地に寛永寺を草創したるの人な  
池り。

●●●●● 上野徳川家廟 上野公園博物館の背  
後にありて、上野櫻木町に屬せり。一  
の廟、二の廟といひ、共に徳川家代々の

靈屋なり。一の廟には三代將軍家光十代將軍家治、十一代將軍家齊の墓あり。この廟  
には五代將軍綱吉、八代將軍吉宗、十三代將軍家定等の墓所あり。

●●●●● 寛永寺 上野公園音樂學校の背後にして、櫻木町の管内にあり。東叡山圓頓院寛永  
寺と號し、天台宗にして、寛永四年の建立なり。往時は坊舎三十六宇を有し、世々一  
品親王を座主とし、且つ今の上野公園は悉くその境内に屬して江戸第一の大伽藍なり  
しも、戊辰の兵燹にかゝりて中堂その他の堂宇過半焼失せり。ことに上野公園開か  
れてよりその變轉驚くべきものあり。本堂には傳教大師作藥師如來を安置せり。

●●●●● 上野停車場 上野公園山王臺の崖下山下やましたにあり。奥羽、中仙道及び山手線鐵道の起  
點にして、東北より東京に入るの門戸たり。新橋停車場と比較して、地方人士の集散  
多し。

谷中は上野の西北に位する低丘にして、その大半は北豐島郡の管轄に屬す。谷中天王寺及び墓地あるを異色  
とせり。初音町の宗林寺境内は螢の名所にして、また同町四丁目の螢谷は古來螢の名所として知らる。

天王寺 谷中天王寺町にあり。天台宗にして、はじめの名を長耀山尊重院感應寺と號し、僧日長の開基に係る。昔時は僧坊十字を支配し、堂宇頗る壯なりしが戊辰の兵燹にかゝりてまた往年の盛觀を止めず。而してその境内を谷中墓地と稱し、名士名媛の墳墓到所に累々たり。廣袤三萬二千六百餘坪、都下に於て青山に次ぐの大墓地と稱せらる。墓地の中央に五重塔あり。構造堅牢にして且つ趣味に富めり。上野發の汽車は絶えずこの墓地の下を通ず。湖山詩あり「北邙山上暮鴉啼、早晚誰能免寄栖、一笑名心終未止、墓碑猶競石高低。」

根岸 谷中の東、上野の山蔭にあたれる一帯の地を指し、千住に通ずる坂本の通はその東を劃りたり。吳竹の根岸の里と歌人も詠するの地とて、數奇を疑らせる別墅多く、門戸相接し、細徑相通じ、また一箇の別天地を成せり。曾て東叡山の宮々の地に京洛の鶯を放たせ給ひしに、皆な上方の種なれば東國の訛なしなど古書に誌せり。枕山の詩に曰く「柴扉向背水東西、富豪翁々好隱栖、十有七言吟未穩、杜鶯聽了又田

鷄。」

御行の松 中根岸にあり。岡を時雨の岡といひ、時雨の岡不動堂あり。また洗垢離の水と稱する古井あり。松の高さ二丈餘、めぐり三圍に及べり。

入谷の朝顔 入谷町になり。地はもと北豊島郡に屬せしを、近年市部に編入せらる。附近に植木師多く、盛に朝顔を培養して客の觀覽に供す。夏時市民の早起して來遊するもの多し。不忍池の蓮花と並びて、城東夏期の好遊覽地なり。

廣德寺 北稻荷町にあり。大徳寺派の禪寺にして、初め相州の小田原にありき。開山を希叟禪師とし、その寺門は俗に左甚五郎の造營と傳へ、頗る有名なり。

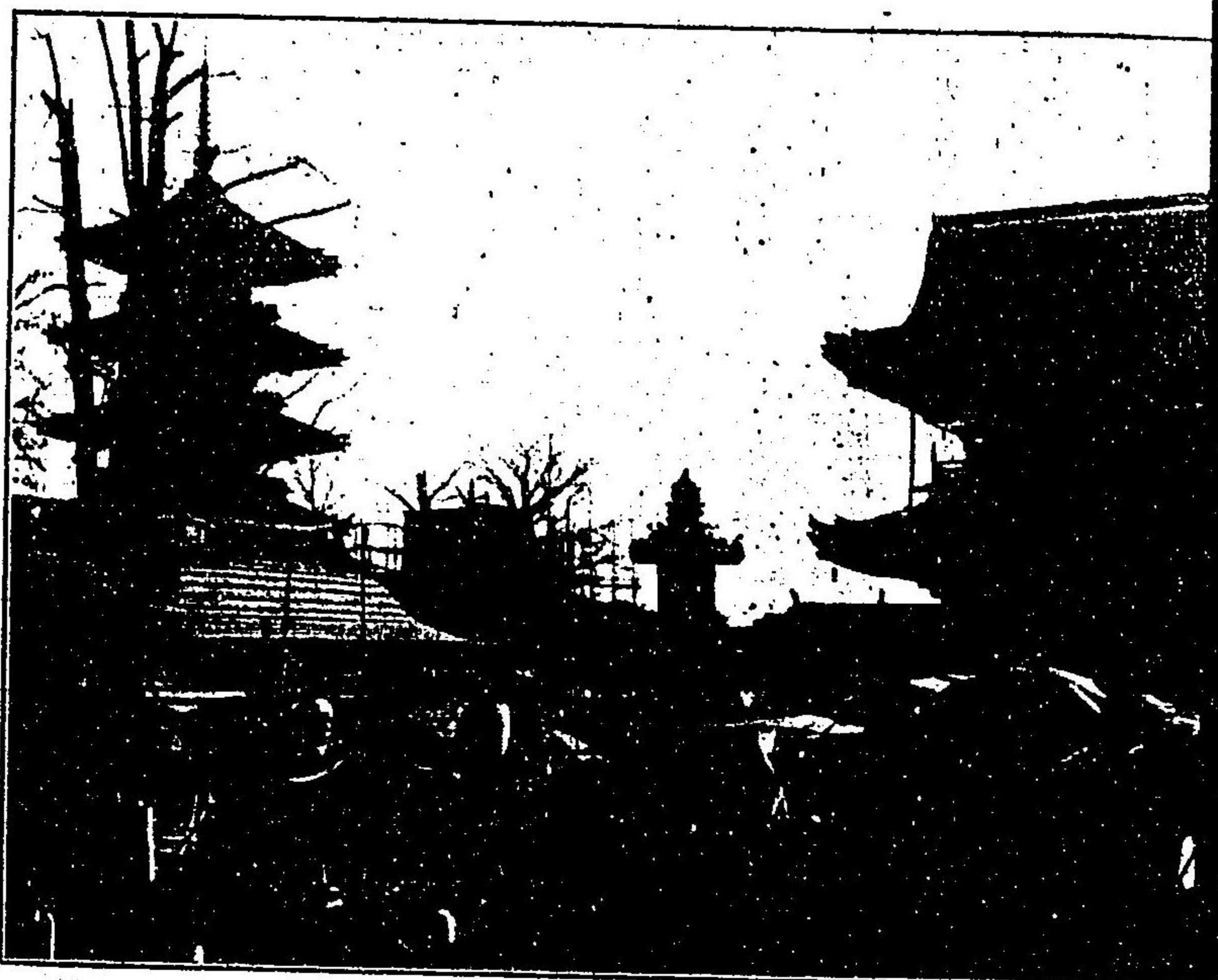
下谷神社 もと下谷稻荷と稱せり。南稻荷町に鎮す。大歳神及び日本武尊を合祀して、遠く天平年間に創るといへり。

上野山下停車場前より淺草へ通ずる街路は、車坂町にて一灣形をなすの他、ほとんど一直線なり。その間各、種雜貨店あり、膏物屋あり、魚屋あり、大抵日本式の小商店相櫛比して、淺草區に入れり。長路の一直線な

ると、平坦なると、また珍とすべし。なほ区内には車坂町より西南和泉橋へ通ずる街路あり。御徒町と稱し、幕府時代旗本の邸宅を構ふるもの多かりしといふ。二長町に劇場市村座あり。

○浅草区 市の東北部に位し、下谷區の西に接す。東は大川に至り、南は日本橋區、北は北豊島郡に接す。地勢概して低平なれど、たゞ眞土山の隆起あり。千束町邊はもと田圃なりしが、近年凡て閭巷となれり。東西二十五町、南北三十五町、人口大凡二十六萬三千を有せり。道路は浅草橋より浅草觀音に通ずる大路を藏前と稱し、最も繁榮を極めたり。仲店及び浅草廣小路と稱するもの、また雜閑せり。浅草觀音及び浅草公園を區の眼目として、一面酒色の巷として知らる。人家櫛比、都下東部に於ける最繁華區なり。

●●●●● 浅草寺 藏前通の極盡するところ、仲店を過ぎて仁王門を入れれば、その堂前に達す。門は黒みし朱塗りの大門にして、一條の石通を堂に通せり。寺は俗に浅草觀音と稱し、天台宗にして、本尊の丈一尺八分、推古天皇の御宇檜熊濱成等が宮戸川(隅田川)に



漁獵して得たるものなりと傳ふ。大化年中僧勝海の創建にして、現時の堂宇は一旦火災を経て、慶安三年將軍家齊の再營に係るといへり。堂は朱塗瓦葺にして、六十八間を有し、南面せり。草創より算すれば實に千二百餘年を経たり。堂宇の楯間、名畫を掲ぐるもの數多、就中、歌川國芳筆一つ家の惡婆、菊池容齋筆御腕の喜三太、高嵩谷筆源三位鶴退治、狩野尙信筆古繪馬等最名あり。賽客常に踵至して、觸口の響日夜に絶え

す、飛鳩群影陸績たり。堂は實に淺草公園の中心をなすと同時に、區の燒點にあたるが如き觀あり。

二二四

●●●●●● ●●●●●● 淺草公園 淺草寺の堂をめぐりて方形に開たり。もと淺草寺の境内にして總坪數九万六千餘坪、これを分ちて、七區とせり。即ち第一區は淺草寺の所在地にして、堂及び仁王門の他、五重塔は仁王門の東北にありて、方五間高さ十一丈餘を有し、淡島堂は堂の西にありて、深池を御手洗池と稱す。その西に錢塚辨天あり、例幣使松あり。鐘樓の鐘は往時上野のものと併稱して著名なりしもの、淺草神社は堂の東北にあり、一に三社明神と稱し、觀音の靈像を得得したる漁人濱成等及び徳川家康の靈を祀る。二區は仁王門より仲店附近を指す。仲店は中央に砥の如き礎石を敷き、兩側の煉瓦長屋には各種の雜貨及び名物を販賣す。遊覽者と參詣者と人群常に熱鬧を極む。入口に雷門址あり。その界限常に繁榮雜鬧す。飲食店及び旅人宿多し。その他、仲店、閻魔堂、江戸六番地藏尊、久米平内社あり。三區は即ち傳法院の所在地なり。院は淺草寺の寺

務職にて、もと知樂院と稱せりき。四區は公園中の變化多き地にして、大池あり、瓢箪池あり。摺鉢山あり。中の島、瀧及び水族館等またこの區にあり。五區は通常奥山と稱す。存在物としては花屋敷、念佛堂、釋迦堂、六十六佛堂等あり。また高閣十二階あり。凌雲閣と稱し、高さ二百二十尺を有し、明治二十三年の建造なり。登臨すれば東京市中を下瞰して眺矚壯絶なり。この區には料理店、銘酒屋、矢場等若干を置けり。六區は見世物の占有地にして、鳴物の音喧しく、常に雜選繁榮せり。パノラマ館及び珍世界を主として、活動寫眞、玉乗り等の諸興行物相櫛比せり。七區は重に旅館、寄席、飲食店等の中心地なり。この他は宮戸座(千束町)及び常盤座等の劇場あり。もしそれ、園の背後に廻れば銘酒屋、揚弓店、棋會所、待合飲食店等軒を並べ、暮夜の嬌聲の行人を呼ぶこと頻りなり。およそ淺草公園の異色とするところは、この興行肆の喧噪と、酒色の香りと、卑俗なる風致とにあり。江戸繁昌記に曰く「都下香火之地、以淺草寺爲第一焉、肩摩殼擊、人之賽詣、未曾絶于一刻間也、堂廣數楹、玉籠寶帷金

武藏國

二二五

碧映射、莊嚴之美、固無論矣、其他堂殿、無慮數十、位置抱其脊、而接堂連殿、娘誰開茶竈、娘何起弓場、並妖粧盛飾、街路媚招客、觀音分身、亦復安置之於數所、演戲說經、吐火吞馬、諸凡售技者、萃為淵藪焉、此所總名謂奥山。」

**眞土山** また待乳山まちちやまに作る。淺草公園の東北にして隅田川に望めり。一に聖天山しやうてんやまともいふ。聖天堂あり。淺草寺の所管に屬す。山は海拔七米突ばかりの小丘にして、地質太古の面影をなし、隅田川を望んで眺望佳なり。下は即ち竹屋たけやの渡にして、向島三圍神社むかしまさんゐしやに達すべし。

**隅田川** 荒川あらかはの下流にして、俗に大川おほかはと呼べり。また淺草川あさくさ、宮戸川みやとの名あり。往時はこの川にて淺草海苔あさくさのりを採取せしといへり。今は吾妻橋あづま、廣橋ひろはし、兩國橋にこくわ、永代橋えいたい等の鐵橋を架して、濁り淀める河心かしのん、荷足船間にたりふねに河蒸汽船の奔れるを見る。

伊勢物語に曰く「なほゆきくして武藏國と、下總の國との中に、いと大きな河あり。それを隅田川といふ。その川のほとりに群れある、思ひやれば、かぎりなく遠くも來にけるかなとわびあへるに、渡守はや船にの

れ、日も暮れなんとすといふに、乗りて渡らむとするに、みな人ものわびしくて、都に思ふ人なきにしもあらず。さるをりしも、白き鳥の、嘴と足と赤きが、しぎの大ききなる、水の上にあそびつゝ、魚を食ふ。都には見えぬ鳥なり、わたり守に問ひければ、これなむ都鳥といふときいて、名にしおほいさ」と問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと、とよめりければ、舟こそりて泣きにけり。また俗調端唄に「夕ぐれ」あり、曰く「夕ぐれにながめ見あかね隅田川、月に風情を待乳山、帆あげた船が見ゆるぞへ、アレ鳥が啼く鳥の名の、都に名所があるわいな。」

**駒形堂** 駒形町こまがたにありて、大川端おほかはかに位せり。本尊馬頭觀音は運慶うんけいの作なりといふ。

もこの地に淺草寺せんさうじの總門なりしといへり。「君はいま駒形あたりほとゝぎす」。この地より大川に沿うて東に花川戸はなかはとの地名あり。また吾妻橋あづまはしあり。橋の延長八十四間を有す。更に西北黒船町くろふねに厩橋うまやあり。近年その橋畔より御成街道おなりかいだうに通せる縦路を開き電車を通せり。

**東京高等工業學校** 藏前片町くらまへかたにあり。各種工業に関する學理及び技術を教授する專門學校もんがくかうなり。

藏前とは須賀町より淺草寺に通ずる淺草通町の總稱にして、昔時幕府のこの地に米倉を置きしよりその名起る。往時は札差營業の家軒を並べ、その名頗る揚れり。今なほ問屋、乾物商等多く、藏造りの古びし家屋連續せり。街頭の柳樹と電線と相からみて、車馬の通行繁雜なり。地に藏前八幡及び四福寺あり。また駒形町に劇場蓬萊座あり。

鳥越神社 鳥越の地はもと一海村にして、古書にもその名見えたり。神社は元鳥越町に鎮し、白雉年間の草創にして、日本武尊を奉祀せり。

東本願寺別院 鳥越の東北にして、松清町にあり、俗に淺草門跡と稱し、東本願寺の輪番所にして、天正年間市中に開創し、後この地に轉徙せり。堂宇の構造頗る宏壯にして、境内また廣濶なり。むかし、韓人來聘の砌には當寺を以てその旅舎とせりといふ。寺中に新井白石の墳墓あり。

日輪寺 芝崎町にあり。時宗にして、往時芝崎道場と稱し、芝崎村（今の麴町區大手町）にありしが、後轉徙して明暦の火後今の地に徙れり。なほこの邊りに東光院誓願寺、幸龍寺等散在せり。



新吉原 淺草公園の東北にあたり、日本堤の下にあり。單に吉原或は仲と呼ぶ。もと日本橋芳町邊にありしを明暦の火災後この地に徙す。衣紋坂より大門を入れば見返り柳なり。兩側には引手茶屋軒を並べ、直ちに紅燈樓閣の巷を開く。花時、俄及び西の市の節ことに熾なり。廓内を分ちて京町、揚屋町、角町、江戸町、仲の町等となす。他に遊園及び吉原病院あり。

江戸繁昌記に曰く「慶長初年、胡家僅三所、各所散居、十七年庄司甚右衛門者、上齋請合散爲一、

以開一大花街、元和三年官始唯其乞、賜一地方于今茲家坊旁、開闢功成、以其種菁覆費之故、名曰青原、後明治曆三年八月、因命徙于今地、名云五街、樓館互競佳麗、三千娼妓、各開嫵妍、一廓繁華、日月盛昌、三月裁花、七月放燈、八月陳舞、是為三大盛多、友人詠花一聯云、梁閣簾前密雪下、巫山夢暖濃雲凝、予賦燈云、青烟却逐蘭盆節、紅燭寫成元夕春、其他五度佳節、不直為觀之美、倒有格式云、若夫暮靄抹柳、暮昏燈上火、各樓銀燭如星、絃聲鼓人、此境晦夜兮開圓月天、醉步浪々、部鬟擁前、紺問押後、縵而過者、大客上樓也、洛神出水、天女墜空、姿樣整齊、殿不可襄近、徐々蓮步來者名妓迎客也。

●●●●●  
日本堤 下谷區三の輪町より眞土山の所在地なる聖天町にいたる。長さ約十四町の長堤なり。元和六年の築造と稱し、荒川の水除なり。堤に沿ふて山谷堀あり。堀の東を山谷と稱す。

●●●●●  
橋場 山谷の東にして、隅田川に面せり。今その一部を南千住に編入す。むかしは月雪花の名所として、南隣の今戸と共にしばく風流茶人の吟詠にのぼれり。橋場町に渡あり。治承四年源頼朝の勢が大雨に逢ひて、浮橋を架して渡りし古跡といふ。●●●●●  
總泉寺 橋場町にあり。曹洞宗にして、もと千葉氏の香華院なり。境内に千葉氏のソウセン

墳及び平賀源内の墓等あり。寺門のほとりを古への所謂淺茅ヶ原の舊跡となす。寺の西南にあたり鏡ヶ池の址あり。また同町法源寺の古板碑は千年以前の古物として頗る有名なり。

●●●●●  
石濱 橋場の北にして、地に石濱神社あり。社の近傍は康正年間千葉氏の城塞ありし地として名高し。

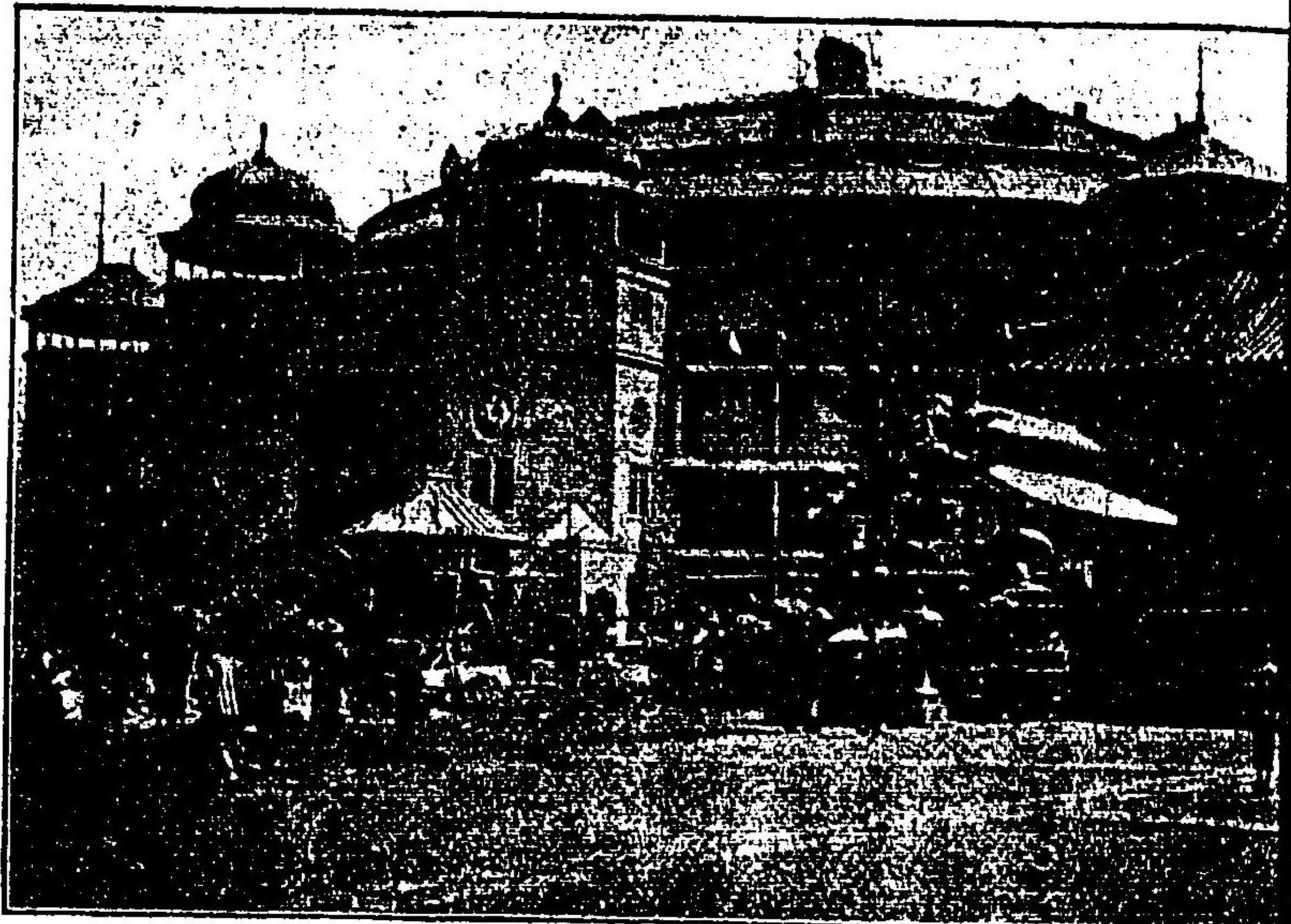
○本所區 隅田川を隔て、二區あり。北は即ち本所區にして、南を深川區となす。本所區は隅田川を隔て、淺草區及び日本橋區に堺し、東北は南葛飾郡に接す。その地勢卑低にして、些の高阜なし。従つて溝渠多く、小名木川、源森川、堅川、大横川等ありて、通船の便多し。東西二十四町、南北一里一町、人口十六萬二千を有す。深川區と共に各種の工場多く、東京瓦斯紡績會社、日本鐵工株式會社、古河鎔鐵所、日本麥酒會社等あり。遊覽地としては北部に向島を控へ、東邊また龜戸、臥龍梅、萩寺等の名勝に近し。電車線は北部を通じて深川區に入る。沿線の街路は平坦にして、日本

式の家屋多し。

兩國橋 日本橋區吉川町より區内元町に架せり。はじめこの橋を架せしは萬治二年にして、當時は隅田川を以て武藏、下總の國界となしたるを以て、兩國橋の名稱あり。近年改築し、頗る堅牢なり。橋の長さ九十餘間を有す。川開きの烟火世に著名なり。

江戸名所圖會に曰く「兩國橋の納涼は、五月二十八日にはじまり、八月二十八日に終る。常に賑はしといへども就中夏月の間は最も盛なり。見世物所せまきばかりにして、其招牌の幟は風に扇と飄り、兩岸の燈樓高閣は大江に臨み、茶亭の床には水邊に立て連れ、燈の光は耿々として水に映す。樓船扁舟とこるせくもやひつれ、一時に水面をおほひかくして、恰も陸地に異ならず。絃歌鼓吹は耳やかましく、實に大江月の盛事なり。これを川開きといふ。俗語に曰く「夏のすゞみは兩國の出船入船やかた船あがる流星ほしくだり玉屋がとり持つ縁かいな。」

回向院と國技館 區内元町、兩國橋の東詰にあり。院を國豊山無縁寺と號し、稱念上人の遺風なる捨世一派不斷念佛の道場なり。明曆三年江戸大火の節燒死者十萬八千



館 技 國

人の冥魂追福のため、幕府自信上人をして大施餓鬼の法會をこの寺に執行せしむ。本尊阿彌陀如來は長け一丈餘、別に千體の阿彌陀佛を奥の院に安置せり。むかしより諸國の靈佛多くはこの寺に來りて開扉し、また毎歲一月、五月の兩期に東京大相撲を興行す。近年國技館を建て、相撲興行に益々光彩を添へたり。境内に橋千蔭の墳及び鼠小僧の墓あり。

東武鐵道株式會社 横網町一丁目にあり。明治三十年の創立にかゝるといふ。  
線武鐵道株式會社 同所にあり明治二



十二年の創立にして、現在の線路延長七十二哩餘に及ぶといふ。

法恩寺 大平町一丁目にあり。附近を柳島と稱す。寺は平河山と號し、長祿年間太田道灌の草創にして、元祿元年谷中よりこの地に徙せり。開山を日住と稱し、法華宗を奉せり。

靈山寺 法恩寺の傍らにあり。常住山と號し、淨土宗十八檀林の一なり。

横綱町に起りて龜戸天神まで一直線に區を縦貫する街路を天神橋通と稱す。本所區の繁華區なり。瓦葺木造の民家密布し、乾魚商、青物商多し。道路平坦にして、下級商人及び職工等の交通繁し。むしろ煩雜なる街路なり。

彌勒寺 林町一丁目にあり。萬徳山と號し、新義真言宗にして、慶長十五年僧有鑊の開基にかゝはる。毎年八月十二日に賽者多し。

五百羅漢寺 緑町四丁目にあり。もとは江東(本所及び深川)第一の靈刹なりしが、安政年間暴風の災にかゝり、明治二十年大島の地よりこゝに徙して、新堂を築き五百

の羅漢像を置く。然れども堂宇窄小、その規模舊寺の十分の一にも及ばずといふ。寺は黄蘗派の禪林にして、鐵眼禪師の開山、後ち松雲禪師を以て中興の祖となす。五百羅漢の像は各々高さ三尺ばかり、松雲禪師の手刻する處にして怒るものあり笑ふものあり千狀萬態一として、その相貌を同するもの無し。徳川氏當寺に市中勤行を許す。これ江戸托鉢の初めなりといふ。

天神橋邊を并行して、區を縦貫する溝渠を豎川といふ。これ、萬治年間の疏通にして、川に泥舟、荷足船多し。江の沿岸を南、北豎川通に分つ。南豎川邊には松井町、林町、徳右衛門町あり。その盡頭松代町に本所違病院あり。北豎川通に相生町、緑町、花町等あり。江に沿ひし片側には小倉庫立並び、その間に薪炭石材を積み、一方に民家立並び。狹隘にして、道路の黒土香る。この橋にて電車通と交叉し、更に柳原町の小巷に入れり。兩國橋より北豎町通と並行してその東にある街路は、その繁華區に於て天神橋通に次ぐといはる。緑町三丁目に劇場壽座あり。

日本麥酒會社 中の郷瓦町にあり。その庭園は舊秋田侯の邸址にして、頗る風趣に富めり。

向島 一に隅田堤或は墨堤ともいへり。吾妻橋の上流、枕橋以北より隅田川に沿ふ堤の總稱にして、堤上の兩傍、櫻を植るもの千株、長さ一里餘に連り、花時は遠く望めば一抹の彩霞を棚曳かせ、近付けば人は皆な花の隧道の裡を行く。上野と並んで花時の二大勝區なり。秋月またよし。而して、堤下を流る、隅田川には、遊舫の往來織るが如く、綠波溶々たる彼方には、西の富岳は雪を載いて雲を摩し、東の筑波山は、翠黛恰も雙鬢の如く相對す。三圍稻荷社の華表は、その上部を堤上に現はし、河心より望めば、僅に冠木のみを見る。曾て俳人其角が、農夫に代りて雨を祈り「夕立や田を三圍りの神ならば」と吟じたる古跡なり。文和年間の草創と稱す。稻荷より更に北に溯れば、牛島神社と王子權現祠とあり。牛島神社は俗に牛御前と稱して、素盞鳴尊を祀り、權現は清和天皇第七の皇子を祀るといふ。祠は堤下密樹の間にあり。その他、長命寺、秋葉神社、白鬚神社、木母寺、梅若塚、水神祠にいたるまで、皆な櫻堤に傍りてあり。また寺島に百花園あり。文化年間俳人菊塙のはじむるところにして、四季

花木の眺め絶えず、俗に花屋敷とも呼べり。なほ墨堤に八百松、植半以下の旗亭あり。藝妓屋あり。名物として、言問團子及び櫻餅最もあらはる。俗調「隅田のながれに船とめて、土手をみめぐりるひざまし、おもひをいふにいはざきの、戀しき人を待乳山、エ、じれつたい、竹屋ときくも嬉しき胸の内。」

○深川區 本所區の南に接す。日本橋、京橋の二區と南葛飾郡に堺し、南は海に面せり。全區ほとんど方形をなして、東西二十六町、南北二十七町を有す。地勢は低平卑濕にして、渠溝縱横に通じ、大川の他、大川派川、大島川、小名木川、仙臺堀、油堀川、大横川、横十間川村等あり。區は全く舊幕時代の埋立地にして、市中第一の低地と稱し、地面の標高平均一米突より三米突の間にあり。舟運に便なるを以て各種の工場及び倉庫多く、木場の材木ことに名あり。工場の重なるものとしては淺野セメント合資會社を始めとして、東京紡績株式會社、深川鐵工場、深川製鐵會社等ほとんど枚舉に暇あらず。穀倉また多し。人口約十二萬三千を算す。區はまた全市中最も純江戸

趣味の残れるところといはる。名物に深川なべ、ばかめざし等あり。

新大橋 日本橋區濱町より區内西元町に架せり。はじめ元祿六年七月の竣工と傳へ、兩國橋の舊名大橋といひしに對して命名せりと聞く。

芭蕉庵舊址 西元町萬年橋北詰舊松平侯の庭中に古池の形をなしたりといふ。延寶の末芭蕉江戸に來りてこの地に草庵を結び、泊船堂と號したり。地はその古跡なりといふ。有名なる「古池や」の句及び「芭蕉野分して盟に雨を聽く夜かな」等の句は皆なこの庵にて吟せしものなりといふ。

芭蕉句塚 西元町の東、東森下町の長慶寺境内にあり。一に時雨塚または短冊塚と呼ぶ。

小名木川は中川より大川に通ずる溝渠にして、慶長年間に開鑿せしものなりと傳ふ。江の北岸江町に五本松あり。

淺野セメント合資會社 西元町の南清住町にあり。明治四年の開設にして、現今、

セメントの産額一ヶ年間五十萬樽の多きに達すといへり。

靈巖寺 靈巖町にあり。道本山と號し、淨土宗十八檀林の一にして、寛永元年僧靈巖の開基なり。はじめ靈巖島を埋修して當寺を創築し、萬治年間今の地に徙る。塔宇數院あり。また松平樂翁公の墳墓あり。本誓寺はその西に、雲光院はその東南に、淨心寺はその南に、孰れも靈巖寺の附近に位せり。

永代橋 京橋區より區内佐賀町に架す。長さ百六間、幅五間半の鐵橋なり。元祿十一年の創築にして、後しばしば洪水の爲めに流失し、現在のものは明治三十一年に成れり。橋上、古來景勝を以て鳴る。帆檣林立、橋畔より倉庫遠く連れり。

永代橋より直に區内黒江町に接す。黒江町の一部はやく廣衝なり。東北大川に沿うて佐賀町あり、閑寂なる小港にして、米穀問屋多く、江畔の片側には倉庫櫛比せり。黒江町の西裏にして、江海に沿ひしところには蛤町あり。これに入れれば泥と、汚穢と、咽ぶが如き細巷にして、居民は多く漁業を事とす。蛤町魚市場の名古くより傳はれり。黒江町より坦々たる一路を歩めば、直ちに深川八幡の石門に達し、宮岡門前町に出づべし。宮岡門前町に劇場深川座あり。

●商船學校 越中島えつちゅうじまにあり。明治八年の創設にして、高等海員かうとうかいふんの養成所なり。この校所在地たる越中島えつちゅうじまと富岡とみおか、木場きはとの間を通じて、洲崎すまさきに達する溝渠にほづりんを二十間川といひ、むかしはこの川に船を浮べて風流韻士の洲崎遊廓すまさきに通ふもの、日夜その跡を絶たざりしといふ。地を過ぐるもの、誰か往時豪奢の巷ちまたを偲しのばざらんや。

●深川公園 富岡門前八幡宮の境内なり。地域一萬九千三百餘坪、梅樹、櫻樹多し。

八幡宮は園の東に鎮す。應神天皇及び天照太神、若宮八幡の三座を祀り、足利氏累世及び太田道灌等深くこれを信仰せり。もと砂村すなの海岸にありしを、寛文年間今の地に遷し新たに社殿を造營す。境内に大鳥神社以下の末社あり。また西隣に深川不動堂ふどうだうあり。下總成田不動尊の出張所にして明治の初年淺草藏前八幡宮の境内よりこの地に徙せり。その他なほ眞言宗永代寺あり、園に茶店、花屋敷、汁粉屋、大弓店あり。

富岡門前の地は洲崎遊廓を控へて往時頗る繁盛せしところ、今桂歌酒内の巷に非すと雖も、なほ飲食店相接し、泥砂黒く深川なべの香り鼻を衝く。地にいたりて、始めて深川へ來るが如き感あり。門前より家並も整ひ、

電柱高く、街衢繁盛なり。洲崎通ひの人車多し。

●木場 深川公園の東にあたり、木場町、島田町邊の通稱なり。材木商を以て名天下に高し。地は元祿年間の填築地なりといふ。

●洲崎遊廓 區の南海岸かいがんにありて辨天町といふ。明治二十一年同地の海濱東西四町南北三町餘を埋立て、翌二十二年本郷區根津の遊廓を此所に移す。正面一橋を架して門に通じ、海に面せる所には石堤を築く。もとその繁昌吉原と相競ひしも二十六年廓中より出火し、妓樓大半焼失し今はやゝ衰微の色あり。廓内、ところ／＼に空地を存して、頗る京都の島原遊廓に似たるものありといふ。

●洲崎神社 洲崎町にあり。本尊辨財天女は弘法大師の作なりといふ。もと洲崎辨天社と號せしが、維新後これを改稱せり。附近の内海を永代浦えいたいほと稱し、景勝の地なり。ことに社邊の眺望最も明媚なり。潮干狩しほひがりによし。

○接續地 東京市を中心として起れる道路の最初の驛を四宿と稱す。南に品川町あ

り。北に千住町あり。西に板橋、新宿の二驛あり。この四方の廓外を接續地として、その大略を記さんとす。

品川町 今、人口二萬、北は芝區高輪に接して、東京の南の門戸にあたり。中央なる中の橋を以て、南北品川に區劃し、別に歩行新宿、獵師町等の字あり。現今荏原郡役所を置く。町に妓樓多し。これ舊時東海道驛次の名残なり。新橋より來れる東海鐵道は、町の北端、東京市と境する海岸に停車場を置き、電車はその近傍を過ぎて終點となり、直ちに京濱電氣鐵道會社の品川發着驛に接せり。町に品川神社、荏原神社あり。荏原神社を南の天王、品川神社を北の天王と稱す。また、品川停車場の前面を海中に點在する砲臺は、これ安政年間御殿山の土石を以て築きたるものにして、俗に品川の御臺場といふはこれなり。

御殿山 品川町歩行新宿の西にあり。昔時は櫻樹この高阜に満ちて飛鳥山と南北との勝を齊うしたれど、鐵道線路敷設以來大にその舊容を變じ、櫻樹の大なるものは大抵斬伐し去れり。或は傳ふ、この地は太田道灌の館址なりと。今は個人の私有地に歸せり。

品川公園 北品川の町裏にあり。一堆の高丘にして櫻樹多く、眺望可なり。園の中央品川神社を鎮す。

東海寺 北品川にあり。品川神社の前を過ぎ右折すればその境内にいたる。寺は禪宗臨濟派にして、澤庵和尚の開基、寛永十四年の創建なり。昔時は寺域五萬坪を有し、堂宇庭園等頗る壯麗優美を極めしといへり。今は昔の坊中春雨庵を以て本堂に充つ。寺域に開基澤庵和尚の墳墓及び加茂眞淵、服部南郭等の墓あり。澤庵和尚の墓ことにあらはる。また寺邊に鼓の石及び象龍井あり。

妙國寺 南品川にあり。法華宗京都妙滿寺派にして、弘安年間天目上人の開基なり。本堂に安置せる日蓮上人の像は由緒ある靈像なりといふ。

海晏寺 南品川の南端にあり。古來紅葉を以てその名ことに著はる。曹洞宗、北條

時頼の開基にして、開山を大覺禪師となす。本堂は曾て火災のために焼失し、今は假堂を存するのみなれど、寺後一堆の岡阜には楓樹多く、その間より品川海の砲臺を望むべく、風景よし。境内には時頼の供養塔、岩倉具視及び松平春嶽の墓あり。また、寺寶として應永年間の雲版一口を藏す。寺の附近を鮫洲と呼ぶは、當寺の本尊鮫洲觀世音に因みて命名せるものなりといふ。京濱電車は鮫洲停留所を置けり。俗調の端唄に曰く「あれ、見やしやんせ海安寺、まゝよ龍田や高尾にも及びないぞへ紅葉狩。」

鈴ヶ森 入新井村大字入不斗の八幡神社の邊りを指す。八幡神社はもと磐井神社と稱し、境内の鈴石に因みて鈴ヶ森の名を得しと傳ふ。地は舊幕時代の仕置場にして、今なほ大石の無縁塔を立てたり。附近に別墅旗亭多し。

大森町 品川驛の次にあり。人口約一萬二千、海に濱して海水浴場の設備あり。京濱電車鐵道は海岸停留所より一線を分岐して官鐵大森停車場の前にいたる。木原山あり、古代貝塚の跡をといむ。

八景園 大森停車場の西隣にして、木原山に接す。この地、往時は交通頻繁なる街道にあたりて、八景坂の名あり。近年高丘の上を拓きて、一遊園地となし、數百株の梅樹を植ゆ。園より品川灣その他を望みて、展望佳し。

池上本門寺 大森停車場の西南二十町にあり。長榮山大國院と號し、弘安四年池上宗仲の創建なり。寺は日蓮上人と因縁深き靈刹にして、實に上人入寂の遺跡あり。甲州の身延山、總州の正中山及び當山を以て法華宗の三頭と號す。境内六萬七千坪に餘り、山門、釋迦堂、影堂、五重塔、清正堂、題目堂、眞骨堂、多寶塔、長榮稻荷等あり。眞骨堂は即ち上人の遺骨を安置するところにして、今なほ臨終柱を存し、多寶塔はその茶毘所にあたりといふ。その他、上人及び日朗、日輪兩上人の廟、池上宗仲夫妻の墓、徳川頼宣及び吉宗の母公及び夫人の墓、狩野元信探幽の墓、星亨の墓等あり。毎年十月十二、十三兩日の會式には、賽客遠近より蟻集し、太鼓を叩き萬燈を彩點して、境内立錫の地なきにいたる。官鐵及び京濱電鐵は毎年その機を際して、車輛

を増發し、臨時汽車を發するを例とせり。

**●●●洗足池** 本門寺の西北一里ばかりにあり。一に千束の池とも書す。池畔頗る幽邃なり。日蓮袈裟懸の松及び勝海舟の墓あり。この地より東北約一里にして目黒不動堂にいたる。

京濱電車鐵道は海岸停留所より山谷を経て蒲田停留所にいたり、穴守行支線を派して、更に多摩川をわたりて川崎に達す。その間、山谷停留所より十五町の海岸に森ヶ崎鑽泉あり。

**●●●蒲田梅園** 東海鐵道蒲田停車場より約五町の地にあり。園内の梅樹古雅にして。風致凡ならず。往年、兩陛下の御休憩を辱ふせしことあり。花時、都會より杖を曳くの雅客甚だ多く、東京市南郊の一名所に算せらる。また附近に菖蒲園あり。近年江東の堀切より移植せしものといふ。

**●●●穴守稻荷** 京濱電車の穴守支線によりて至るべし。社は一に羽田稻荷と稱し、羽田村字鈴木新田の洲にあり。社前に赤華表の續くもの數町、茶亭兩側を挟んで、各種の

名物を販賣す。社後に狐穴と稱するものあり。また小丘あり丘上の眺望見るべし。祭日は三月及び九月の初午にして、雜沓甚し。附近に鑽泉及び海水浴場の設備ありて、旗亭多し。

**●●●羽田運動場** 穴守稻荷の背後なる江戸見崎にあり。近時の築造にして、場の内外、海に濱して眺欄佳し。また、羽田よりは舟に賃して川崎大師にいたるべく、乗合船によりて大森へもいたるべし。また稻荷社の大華表より森ヶ崎に達する一路あり。その附近梨花多し。

蒲田より南の村落に梅樹多し。而しその花は重に清白の一種に限り、實は肉太く、核小さくして、味も他郷のものに異れりといふ。矢口村は蒲田の西南にして、多摩川の流域に沿へり。多摩川の下流を六郷川といふ。  
**●●●新田神社** 矢口村にあり。府社にして、新田義興の靈を祀る。社背の竹林に一堆の古墳あり。これ、義興の墓地にして、延享中一碑を建てたり。而して村内別に十騎社あり。義興の従者を祀るところといふ。

●●●●●  
矢口の古渡 古へ多摩川の流れば今の  
新田神社近傍を疏通せしものにして、  
矢口の渡は即ち十騎社の邊にありしなるべしといふ。  
新田義興主従足利基氏の計略に陥り、  
延文三年十月舟中に割腹せし舊跡なり。

太平記に曰く「延文三年十月十日の曉に、兵衛佐義興は、忍びてまづ鎌倉へぞ急がれける。従者僅に十三人を打ち連れて、更に他人をば雜へず、のみをさしたる計りごとの船にこみ乗りて、既に矢口の渡に押し出す。この櫓矢口渡と申すは、面四町に餘りて、浪喰しく底深し。渡守已に櫓を押して、河の半を渡る時、取りはづしたるよしにて、櫓撞を河に落し入れ、二つのみを同時に抜きて、二人の水手、同じ様に河にかはくと飛び入りて、うぶに入りてぞ逃げ去りける。是を見て向の岸より、兵四五百騎懸出で、関をどつと作れば、跡より関を合せて、恐なる人々かな、怖るとは知らぬか、あれを見よと欺きて、服を推きてぞ笑ひける。去程に水船に湧き入りて、腰中ばかりになりける時、井彈正兵衛佐殿を抱き奉りて、中に差し揚げたれど佐殿安からぬものかな、日本一の不道人共にたばかれつることよ、七生まで汝等がために恨を報すべきものをと、大に忿りて、腰の刀を抜き、左の脇より右のあばら骨まで掻廻し、二刀まで切り給ふ。従者十三人同じ様に切死して相果たり。その後同年十月二十三日の暮程に、兵衛佐殿を討ちたりし江戸遠江守は拜領の地に下向せんとて、再び矢口の渡に下り居て、渡の船をまつ所に、俄に電光閃めき雷鳴りばためきければ、大に懼れて馬を走らせ、とある辻堂に入らんとする折から、黒雲一群遠江守の頭に落ち下りて、雷電耳の邊りに鳴り閃めきければ、後ろを屹と顧みたるに、左殿義興火威の鎧に龍頭の甲の緒をしめて、白栗毛なる馬の額に角の生ひたるに、乗あひの鞭をしと、打ちて遠江守を弓手のものになし、鎧の鼻に落ちさかりて、あたり七尺ばかりなる鷹俣を以て、かいがれより乳の下へかけてふつと射通さると思ひて、遠江守馬より倒に落ちたりけるが、やがて血を吐き悶死しける。獨りこれのみならず、その後、矢口渡には、夜々光り物出で、往來の人を惱しける間、近隣の野人村老集りて、義興の亡靈を一社の神に崇めつゝ、新田大明神とて、常盤堅盤の祭禮、今に絶えずとぞ承る。」

●●●●●  
光明寺 新田神社の西北八町ばかり、調布村大字鶉の木村にあり。淨土宗西山派に屬し、寛喜年間の草創なり。昔は七堂伽藍の美を極めしといふも、今大に廢頽せり。境内の南なる小池を光明池と呼ぶ。昔多摩川の流域にあたりしならんと稱せり。

更に再び品川町に歸りて、目黒、澁谷附近の名勝より漸次東京市の外廓に及ばん。而して、品川驛を通じて市の周圍をほゞ一周して上野にいたる鐵路に山の手線あり。新宿驛に於て甲武線鐵道線と交叉し、池袋及び田端驛に於て、中仙道線及び成田鐵道線等を派出せり。



桐谷の瀧 山手線大崎驛の南九町にあり。瀧小なりと雖も、水清冽にして、夏季納涼に適す。桐谷に火葬場あり。

目黒不動 下目黒村にあり。天台宗に屬し、大同年間慈覺大師の草創なり。堂宇壯麗にして、本堂の他に大日堂、虚空藏堂、鬼子母神堂等あり。また境内に不動瀧あり。一條を男瀧といひ、他を女瀧と稱す。門前には旗亭相列びて客を招けり。春は竹の子飯、秋は栗飯を名物となす。旗堂前の亭に白井權八と小紫とを葬れる比翼塚あり。また堂後の丘陵に甘藷先生の墓あり。目黒花壇また程近し。

目黒の地は東京市南郊の好散策地にして、界限一帯の風光頗る野趣に富めり。白金臺町より中目黒に通ずる坂路を行人坂と呼ぶ。坂上は夕日ヶ岡と稱して紅葉の名所なり。晚秋は、夕照を林樹の間に望んで、景最も愛すべし。甘藷先生の墓のあたり、眺望また廣潤にして、向ひは白金臺の餘脈と相對し、行人坂を歩む人はほとんど呼ば、應へんとするの趣あり。且つこの眺望中忘るべからざることは、相對せる向ひの丘に一株の老松の盤回せることこれなり。松は即ち千代ヶ崎の衣懸松にして、新田新興夫人が夫戦死すと聞きて、衣をこの松にかけ傍なる池に身を沈めて死したりと傳ふところ、池は今埋築し去りたれど、その眺眺の富瞻

なる目黒を訪ふもの、必ず立寄るべきところなり。(今枯れたり)

大鳥神社 目黒不動の地二町にあり。大同年間の創立にして、日本武尊を祀るといふ。

祐天寺 目黒不動より十町餘を隔て、中目黒村にあり。明顯山と號し、享保年間二世祐海の草創にして、祐天上人の念佛道場を開きたる舊跡なり。寺邊に上人の墓碑をといむ。

大日本麥酒會社 目黒村大字三田にあり。麥酒醸造の工場を有し、社内にては客の需めに應じ、庭園にて生麥酒を賣る。山手線は恵比壽停車場に置けり。

目黒不動の門前より路を右方にとりて、碑文谷村を過ぎ、なほ行けば奥澤村に淨眞寺あり。等々力村の不動瀧また遠からず。更に行けば多摩川の沿岸に出づるを得べし。

世田谷 目黒の西隣なる一村落なり。地に野戰砲兵の兵營あり。また豪徳寺、世田谷城址、松蔭神社等あり。豪徳寺は井伊家の菩提寺にして、境内に吉良氏の古塋あり。吉良氏は即ち世田谷の城主なりしといふ。松蔭神社は志士吉田松蔭及び同志遭難者の

靈を祀る。

澁谷 は目黒の東隣に位して、豊多摩郡に屬す。停車場を中澁谷に置けり。道玄坂は市内青山より來りて澁谷を通ずる大路にして、西南は多摩川の丸子の渡へと通せり。その地一帯概して田舎蕭條の景に富み、丘陵四方に起伏し、谷あり、池あり、別墅ありて、そらろに古昔の武藏野を想見せしむるものなり。故國木田獨歩の「武藏野」は澁谷附近の風物を描破して頗る著名なり。

日本赤十字社病院 澁谷村にあり。日本赤十字社の附屬病院にして、無料にて診察の需に應ず。

祥雲寺 下澁谷にあり。禪宗に屬し、黒田長政の開基なり。

澁谷氷川神社 澁谷停車場の北にあり。源頼朝の勸請なりといふ。

澁谷八幡社 澁谷停車場より五町のところにある。六孫王經基の開創と稱し、寛治五年の創建に係る。境内に有名なる金王櫻あり。

農科大學 上目黒村駒場にあり。はじめ駒場農學校、東京山林學校と稱せしもの、

明治十九年改稱して、帝國大學所轄の分科となれり。

山手線の鐵路は、澁谷より原宿驛を過ぎて、直ちに新宿停車場にいたり、甲武鐵道と相交又してほ、市の一角を掠め、更に北行して目白、池袋、田端を過ぎて上野に向ふ。その間、田野、叢林、茅屋を所々に望んで、頗る郊外式の風趣に富めり。今、電車を共通し、冬季觀雪をなすによしといはる。

新宿停車場 内藤新宿町の西端に位す。甲州及び奥州への旅客常に集散して、停車場の設備頗る完成せり。傍に甲武電車の停車場あり。以て市内に至るべく、西して大久保、柏木、中野に至るべし。

内藤新宿 新宿停車場附近に起りて、市の四谷區大木戸に接續する町並なり。町に妓樓多し。四谷より來れる甲州街道は西邊追分に於て青梅街道の一路を派し、一折して直ちに停車場前より淀橋新町に向へり。新宿二丁目に太宗寺閻魔あり。長一丈六尺にして、頭と手とは運慶の作なりといふ。今、市内へ電車を通ず。

新宿御苑 町の東端大木戸に近きところにある。もと、玉川の上水はこゝを通せりといふ。水道の石碑あり。

淀橋町 新宿停車場の西に接す。人口七千、角筈及び柏木の字あり。中、甲州街道に當る街路を新町と稱し、乗合馬車を通じ、街頭になほ舊時の街道筋の名残を認むべきものあり。汚穢車多く、雨天の日は泥濘深し。

淀橋浄水場 淀橋町にあり。東京全市の水道浄水所にして、水源は多摩川沿岸より引き來り、沈澄池、濾池、浄水池等の設備あり。工費總額一千萬圓と稱し、明治三十四年はじめて全市へ給水す。正門は青梅街道に面せり。また、浄水場と新宿停車場の間に煙草專賣局の壯高なる大建築あり。

十二社權現 淀橋町字角筈にあり。俗に「十二さう」と呼ぶ。熊野十二社權現を祀れり。應永中鈴木氏の勸請なりといふ。社邊に大池あり、松樹と酒亭とこれを圍めり。なほ水道の餘水を引いて水瀑を落し、夏日涼を納るゝもの多し。

大久保の躑躅 甲武電車線大久保停車場より數町のところにあり。古來その名高く、その躑躅は皆な霧島にして、近時團子坂の菊人形に擬して躑躅人形を作るものあり。

中野町 大久保の西に接し、人口七千を有す。甲武鐵道線は町の北に停車場を置き、驛より南して堀内妙法寺にいたるべく、北して西新井の藥師にいたるべし。共に約半里程なり。中野附近に於ては古昔の武藏野の跡を見るところ少なからず。眞言宗寺寶仙寺あり。また地に鐵道大隊の兵營あり。

堀内妙法寺 豊多摩郡和田堀内村に屬す。日蓮宗の臣刹にして、本尊日蓮上人像は、僧日朗が異木を以て刻みし影像なりといふ。宏壯なる本堂の他に、數字の建物あり。且つ境内頗る幽寂なり。信徒の來賽するもの多く、七月の法華千部會、十月の會式こゝに盛なり。門前に四五の酒亭を置く。

新井の藥師 中野の北、新井村にあり。俗に子育藥師とも呼ぶ。近郊の流行佛にし



いふ。

**赤羽** 板橋の次驛にして、東北鐵道と山手線との分岐點にあたる。戸數約千餘、近衛工兵及び第一師團工兵隊の營所あり。停車場の北方岩淵の北十町のところに荒川流る。これ、隅田川の上流にして、鐵橋を架せり。また停車場より半里にして川口町あり。鳩ヶ谷町は更にその北一里半のところにある。

**靜勝寺** 赤羽に接して岩淵村にあり。泰澄作十一面觀音を安置す。或はいふ、この地は太田道灌の館址なりしと。道灌の木像を存せり。なほ停車場より六町の地に六王山正光寺あり。

**王子** 赤羽の前驛にして、板橋の東に接す。人口七千七百餘を有し、地に各種工場多し。最も大なるものに東京製絨株式會社、王子製紙株式會社等あり。

**王子神社** 王子停車場より三町の地にあり。元享年間の草創にして、熊野權現に模造すといふ。

**王子稻荷社** 王子神社の北にあり。社内松杉鬱茂し、且つ社前に瀧あり。夏季納涼に適す。

**飛鳥山公園** 王子神社と川を隔て、その東南にあり。川を石神井川といふ。山の麓をめぐりて眺望開豁なり。園は東京市の經營に屬し、明治六年の開園に係る。境内一萬三千餘坪、數千株の櫻樹は花時芳雲を變遷たらしめ、下には王子の會社工場を下瞰し、萬頃の田野眼下にあり。更に遠くは筑波山の翠黛と相對し、眺矚快濶、風景最も勝れたり。園内に飛鳥山碑櫻賦之碑等あり。

**瀧野川の紅葉** 王子村の西、瀧野川村にあり。瀧野川は東流荒川に入る。即ち石神井川の下流なり。川の兩岸楓樹多く、晚秋霜深き時は宛も蜀錦を洒すが如く、また一美觀なり。瀧あり、辨天瀧と稱す。また瀧野川大字西原に農事試驗場あり。

**道灌山** 谷中の臺より北に續ける丘陵にして、日暮里村に屬す。近傍に田端停車場あり。山を望み、川に對して眺望佳く、秋季蟲の名所なり。傳へいふ、この地にも太

田道灌の出城ありしと。

花見寺 日暮里村にあり。妙隆寺と稱し、日蓮宗を奉ず。境内に躑躅、櫻多く、花時美觀なり。花見寺の名これより起る。

諏訪神社 同村にあり。樹木多く、土地高燥にして、矚目佳なり。夏日涼を納る、によし。この東に火葬場あり。

南千住町 日暮里の東にして、陸羽街道の首程にあり。人口一萬二千餘を有す。地に千住製絨所あり。また三之輪天王あり。往古この地に小篠の繁茂せる塚あり。後ち開きて原となせしを以て猶ほ小塚原の小名を存す。街衢の傍らに刑場の跡あり。今はその地に巨大なる地藏の石像と不動堂とを存せり。驛の南端に妓樓多し。字南組に誓願寺あり。恵心僧都の開基と稱し、僧都作の佛像を本尊とせり。

千住町 南千住町と荒川の一葦水を隔て、その地に位し、南足立郡に屬せり。人口約一萬七千、俗に北千住ともいへり。南端字中組には毎朝蔬菜河魚の市を開き、その東

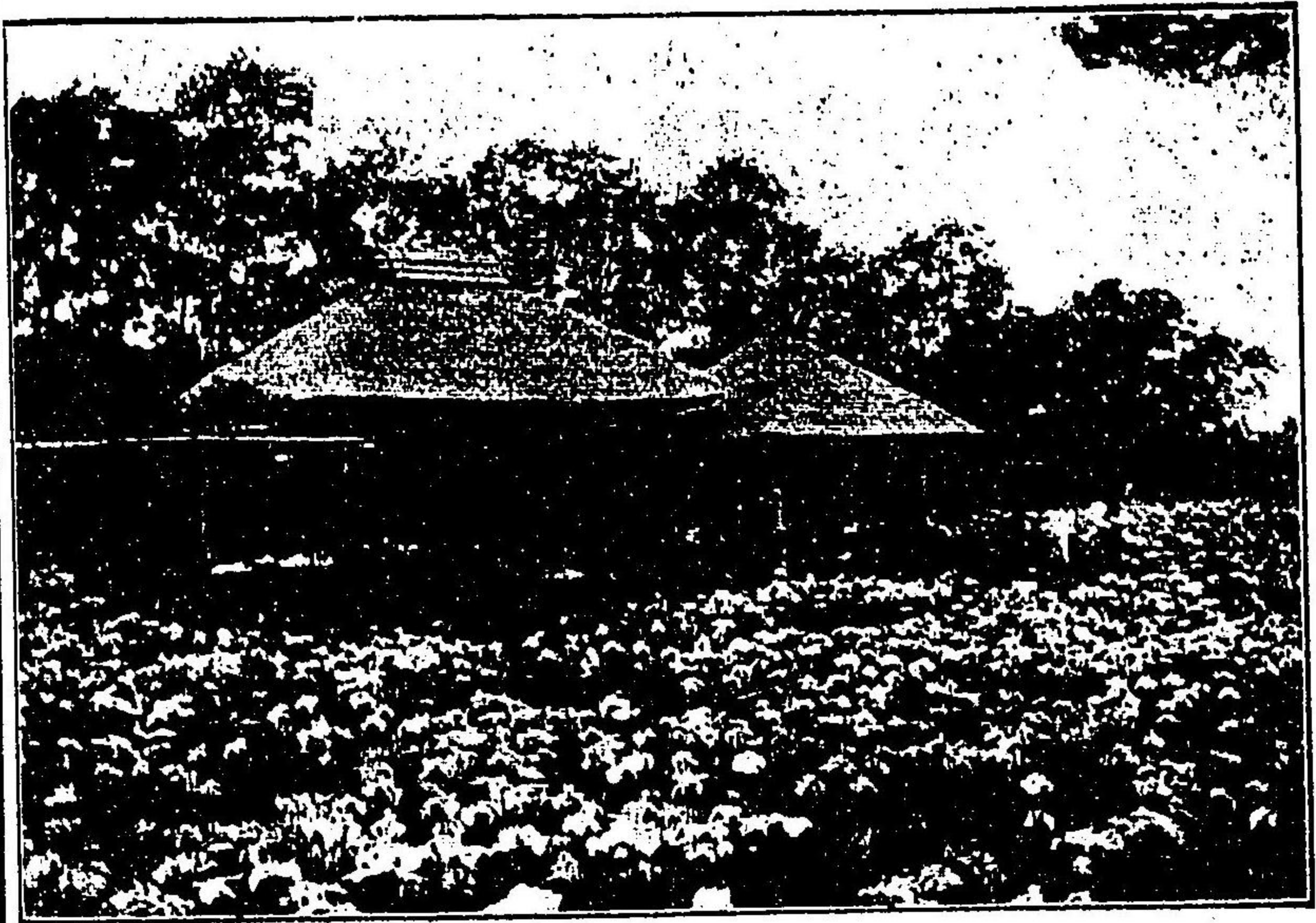
北端に岐路あり。即ち、陸前濱街道と陸羽街道との分岐點なり。常盤、東武兩鐵道はまたこの地に於て交叉し、隅田川には一大鐵橋を架せり。

金町村は北千住の東にあたり、東北海道線の鐵道はその地を通じり。地に近く柴又帝釋天あり。

柴又帝釋天 金町村大字柴又にあり。寺を經榮山題經寺と號し、本尊は長け二尺五寸、幅一尺五寸ばかりの梨板にして、表に帝釋天王の像を刻し、裏面には兩尊四菩薩等の字を刻せり。庚申の日を以て縁日となし、遠近より來賽者多し。また、東京近郊有數の流行佛に算すべし。

鐘ヶ淵紡績株式會社 本所區向島の北にして南葛飾郡吾嬭村にあり。明治二十年の創立にして、職工の數二千餘人に及び、全國屈指の大紡績會社なり。

堀切の菖蒲 南葛飾郡堀切村に小高園、武藏屋等あり。附近の本田村に吉野園あり。共に花菖蒲の名所にして、花候にいたれば紫白の花競ひ咲きて頗る美觀を極む。東武鐵道の鐘淵驛より七八町なり。



堀切二箇蒲園

●●●木下川梅園 堀切の東南、大木村字  
下木下川にあり。梅樹三百株、中川の  
清流に臨んで、頗る遊人の心を惹くも  
のあり。また附近に治兵衛梅園あり。  
●●●木下川薬師堂 同じく大木村にあ  
り。淨光寺と稱す。貞觀二年僧慈覺の  
創立にして、傳教大師作薬師佛を本尊  
とせり。境内に西郷留魂祠及び富の松  
あり。  
●●●平井聖天堂 中川の東岸平井村にあ  
り。寺を燈明寺と號し、本堂に不動尊  
を安し、その西に聖天堂あり、歡喜天

を祭る。寺域に梅櫻多く、泉池あり築山ありて、風景殊に幽雅なり。賽路は直ちに中川の堤に通じ、その前に渡船場あり。

●●●龜井戸は中川を隔て、平井村の西南にあり。市内兩園より來れる鐵道はその地に於て東武鐵道と岐れ、平井村を貫通して下總の市川驛に向へり。また、本所區より來れる鐵道路は地の南を過ぎて直ちに市川に向ふ。龜

井戸天神、臥龍梅、萩寺の名勝あり。

●●●龜井戸天神 龜戸村にあり。菅原道實の靈を祀る。社傳に曰く、僧信林曾て太宰府に在りし頃、正保二年靈夢に感じ飛梅を以て新たに神像を造り、護して江戸に上りその地を卜して天滿宮を勸請すと。社殿最も美麗にして、廻廊あり、蹴門あり、社前に池を穿ち架するに反橋を以てし、池畔紫白の藤を植え初夏の頃觀客群集す。花房の長さ丈餘に及ぶといへり。また毎月初卯の日本社にて鬻換の神事を行ふ。俗にこれを初卯詣でと稱へて、都下の士女先を争ふて參詣す。社前より大横川を渡れば即ち市區本所區に入る。地に絃聲あり。

臥龍梅 龜井戸天神の東三町ばかりにあり。庵を清香庵といひ、園を梅屋敷と稱す。臥龍梅は水戸光國卿の命名にして、枝幹蟠屈、その花は重瓣にして雪白、芳香ことに香ばしく、形姿龍の臥せるが如し。蓋し、都下第一の老梅なり。

萩寺 龜井戸天神の附近、柳島にあり。無量院龍眼寺の俗稱にして、庭中に多く萩を植え、中秋の佳観あり。一時廢頽せしも、近年大に増植し、舊觀を回復せり。花時遊客多し。

柳島妙見堂 萩寺と細流を隔て、對岸にあり。日蓮宗法性寺の境内に安置す。域内に古松あり、その朽壞の古株中に、古來白蛇住むと稱し、毎年一月初卯の日參詣者多し。

富士瓦斯紡績株式會社 龜井戸の南大島にあり。

○川崎程ヶ谷間 官線鐵路、京濱電車線と相並行す。即ち六郷川（多摩川）以西の地なり。右に丘陵起伏し、遠く多摩秩父の山翠を見る。鶴見川の谷は横濱街道（東神

奈川、八王子間）の駛走するところなり。鶴見驛附近に能登によりし總持寺の移轉建築地あり。舊東海道は左に近く、處々に藁葺屋根と瓦屋根と相交るを見る。東神奈川驛より横濱鐵道分岐す。神奈川附近に至れば、横濱港の繁華なるさまを見る。これより横濱に至るべし。（汽車は横濱に寄るものと寄らざるものあり。）平沼は此線の横濱驛にも至るべし。

川崎

川崎町 神奈川縣橋本郡に屬す。東海道の車

崎

驛及び京濱電車鐵道の停留所あり。人口六千、

平

街衢繁盛にして商業盛なり。京濱電車鐵道の本

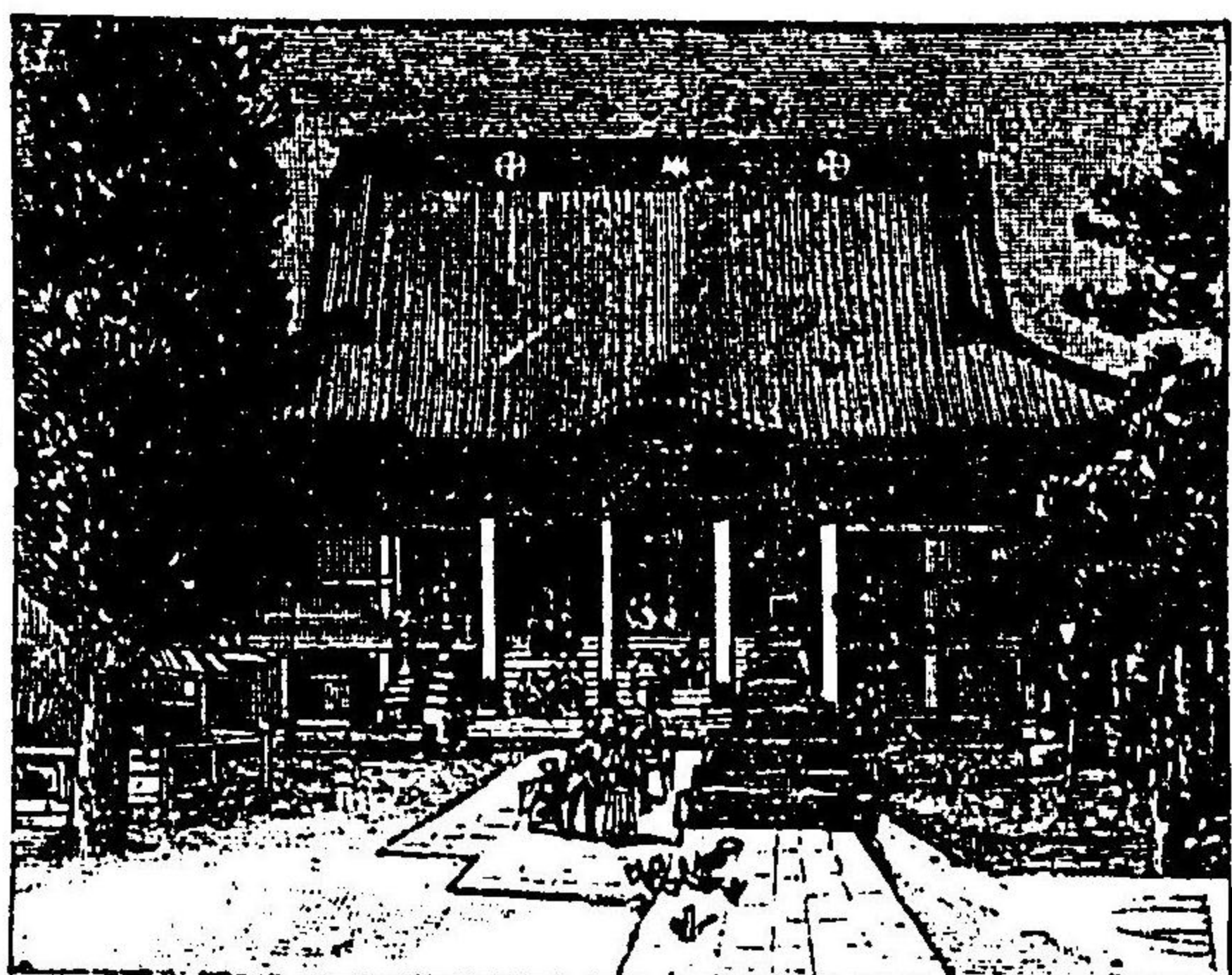
間

社あり。同鐵道は六郷河畔の分岐點より分れて、

寺

東走し、池端と通じて直に川崎大師堂にいたる。

川崎大師 金剛山平間寺と號す。大治中、漁





人平間兼豐父子の創建するところと傳ふ。本堂の結構甚だ宏壯にして、中に弘法大師の像を安せり。境内の南を公園地とし、泉池を穿ち、梅林を造り、ますく、風致を添ふ。一、五、九月の二十一日參詣者多し。ことに三月二十一日は御影供修行あるを以て、頗る雜沓を極め、殊に臨時汽車の増發あり。門前には飲食店軒を並べ以て客を呼ぶ。途中の堤上に櫻花多し。また、堂に近く洲河原の桃枕あり。

●小向梅林 ●川崎町の西北にあたり、同停車場より約二十町の地にあり。六郷河畔に位して、地域甚だ閑雅なり。矢口の渡はこの地より數町を隔つるに過ぎず。

川崎より六郷川の流域に沿うて西北行する一路は、府中町にいたりて、東京市の西部より來れる甲州街道に合す。川崎より府中にいたる間、小杉村に北條時頼の開基と傳ふる最明寺あり。菅村に慈覺大師草創の廣福寺あり。

●鶴見 ●川崎の次驛にして、東海鐵道は鶴見停車場を置き、京濱電車鐵道また停留場を置き、前面、東京灣の烟波を望み、往昔の東海道は並木松を残して村の中央を横斷

せり。昔は要路の一驛として人烟頗る盛なりしも、今はその繁華を徒らに名所圖畫の繪畫に残すのみ。地の西に二見臺あり。山海の眺に佳く、附近に能登總持寺の移轉地あり。また、手枕坂あり、外人の海道上陸せし最初の地といふ。

●生麥の碑 ●鶴見停車場より二十町の地にあり。京濱電車鐵道は生麥停留所を置く。文久二年英人リチャードソンが薩摩藩主島津侯の先驅を横りて無禮打に遇ひし舊地とす。碑文は中村敬宇の選になれり。

●浦島寺 ●子安村字子安にあり。護國山觀福寺と稱す。もと境内に浦島明神ありて、かの浦島太郎を祀れりといふ。附ていふ。神奈川字浦島丘に浦島塚なるものあり。卒塔婆一基、頗る古色あり。その附近眺望開豁、縉紳の別墅多し。

●神奈川町 ●鶴見の次驛にして、京濱電車鐵道はこの地より横濱電車に接續す。今、人口一萬七千、横濱市に附屬せり。横濱まで約一里、殆ど同港の門戸をなせり。地は古來海道の要衝にあたり、市街は長く街道に沿うて發達せり。昔時わが國對外國の歴



る力を要し殊に、其の當時に於ては、人心甚だ激し、外國人とだに見れば、直ちに殺害せんとするばかりなる形勢なりしかば、當時の外國奉行は非常なる警衛を神奈川一帯の地に施し、關門及び番所を設置すること殆ど數を知らざりき。當時、横濱への通路は、東海道より來るものは、芝生村・平沼新田・宇八丁繩手（現今の長者町）の橋を渡りて迂回するを常とし、本牧より至るものは野毛浦より洲干辨財天の傍に出づる渡船を利用するを例とす。而して其の尤も便なるものは神奈川驛よりの渡船なれど、風波の時は迂回以て其の地に至らざるを得ざりしなり。漸次、架橋工事落成し、野毛浦と吉田新田の堤とに架橋したる野毛橋を始めとして、更に太田屋新田四端堤塘に吉田橋を架す。而して運上所（奉行井に收配役出張外交事務及び關稅の事を扱ふ）は實に今の神奈川縣廳のところに建築せられ、其の後には官舎二十餘棟を増築し、二棟を外國人に、他の二棟を移住商人に貸與し、名けて駒形町と言へり。これ横濱に於ける町名の嚆矢なり。其の他、同所の海岸に於て二ヶ所の波止場を築造し、其處に改所を建設し、東を外國人輸出入貨物揚場と爲し、西を内國商家貨物揚場と爲せり。これ、今の稅關のあるところなり。

而して行政に關する一切の事務は、戸部村字宮ヶ崎（現今伊勢町官舎の地）に奉行所及び役所を建築して、専らこれを處理したり。

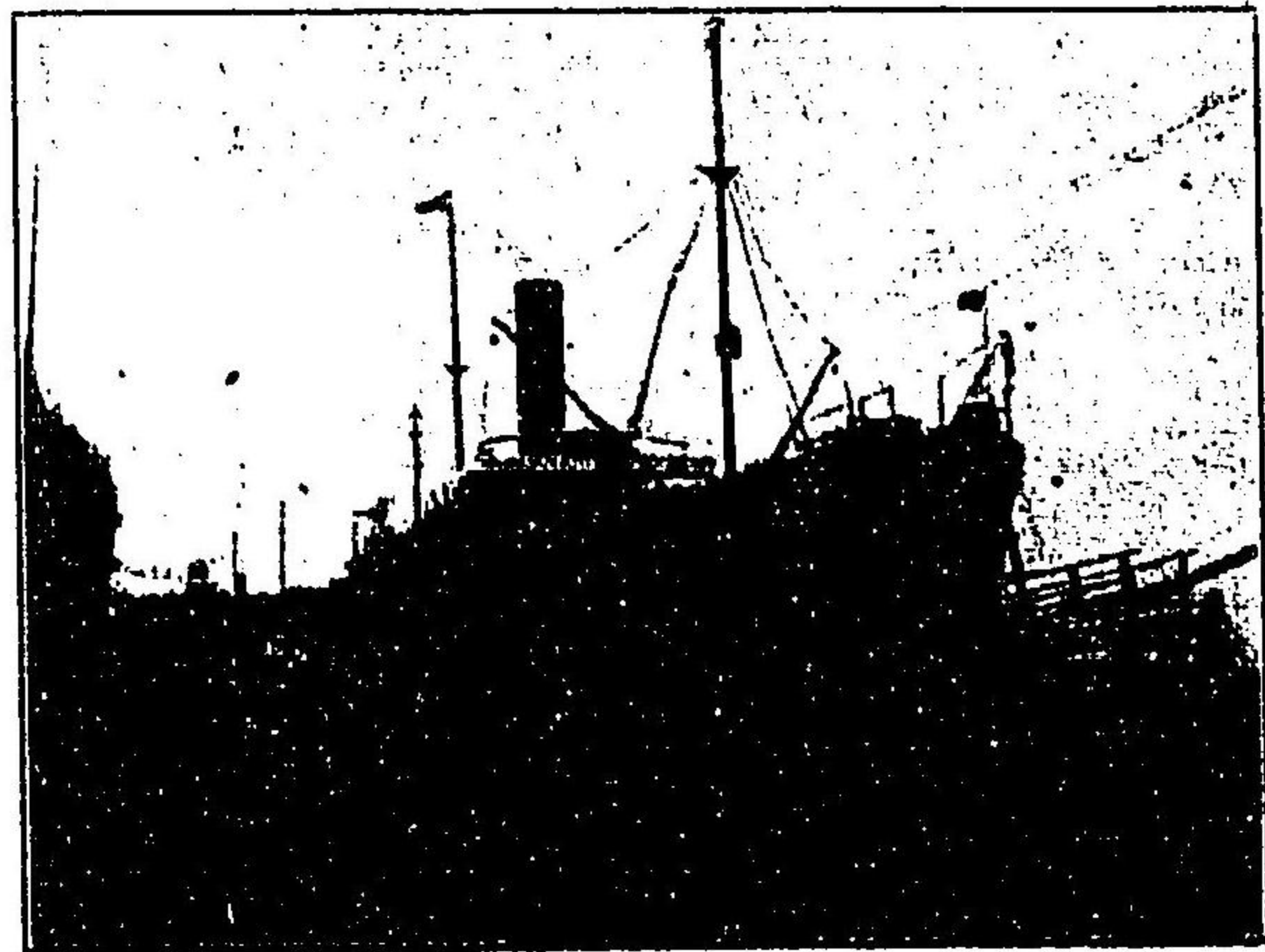
かくて、早くも近傍各地より移住する者頗々として踵を接し、六月中には百五十餘名の多きを見るに至れり、既にして、今年八月、イギリス國商人ケスウィツキ來り、先づ第一着に、海岸に木造の二層家屋を建築す。英一番館これなり。次に、アメリカ商人ホール亦來りて其隣地に住居し、これを二番館と稱す。三番・四番と漸を追うて來り住するもの次第に多く、八番に至りて稍々地盤の定りたるを以て、本町通り、乃ち今の居留地にして當時横濱新田と稱せし處に、廣大なること寺院も曾ならざる、豎瓦屋根、海鼠壁の平家を建築し、これを俱樂部と爲せり。其後、更に堤塘に沿ひて、競馬場を増築せしが、爾來日に月に内外人の來り住する者多く、家屋を建築する者又た紛ながらざる爲めに、更に今の根岸に移せり」と。以て當時の状況を推すに足らん。かくて墳築は益々盛に、萬延元年には石川中村川尻より増徳院に至る幅十間長五百八十間を経營し、文久元年には太田屋新田を墳築し、元治元年に東波止場を開き、野毛山下の海岸五十間餘を埋め、辨天社地に辨天町を設け、山の手遊歩場新道を開墾し、吉田新田沼地を埋むる等、地形大に改まれり。慶應二年には太田屋新田沼地埋立に着手し、米屋町の地を埋め、本町一丁目より西波止場の海岸埋立に従事す。以後、各所の墳築一々記すべからず。明治に至りてより百般の事業盛に起り、十五年、遊廓の經營成り、二十年水道工事成就し、二十二年市制を實施し、二十九年五月築港成り、卅二年七月改正條約實施せられ、三十四年、戸太町、神奈川町、本郷町、根岸町、中村新田を合して市域を擴張し、同十二月、水道鐵管工事成せり。今日街頭を行くもの五六十年前には、一面の海岸の漁村たりしとは誰か想像せん。

●●●●●●●●●●  
 横濱市中の巡覽の道順を簡單に記さん。停車場を出で右を仰げば一帯の丘陵あり。これ、野毛山なり。丘上に太神宮あり。旅客は先づこれに上りて、一瞬の下に市の光景を指點すべし。南山手の丘陵とこの今立てる丘陵との間の低地は即ち市の百萬瓦葺にして、弓弦のごとき港は無数の帆檣を泊せしめ、港門に入り來る船舶の光景眞に畫くが如し。而してその港頭に長く突出したるは、遠く千里の各外國の港の埠頭と相通せる埠頭なり。この野毛山の境内は、春は花、秋は紅葉に宜し。少しく下れば野毛の不動堂あり。此附近雜貨店、飲食店多し。見晴亭と種する汁粉屋あり。これより野毛の切通を下りて都橋に出で花咲町より辨天橋を渡れば、市中の中心なる本町通に出づ。宏街宏屋相連る。これと並行して南仲通、辨天通の二路南北を指す。本町の十字街頭には、行政機關の重なるもの皆あり。先づ、市役所を過ぎ四つ辻を右に曲れば、神奈川縣廳の大なる建物あり。各國領事館の建物もまた宏壯なり。これを突當れば税關の面白き建築あり。その中央を五層樓と爲す。水道局は税關と路を隔て、斜に

相對す。其背後の一角に、電話交換局あり。海岸に近く、日本郵船會社の倉庫と東洋汽船會社とあり。辨天橋より來りてこの四つ辻を右に行けば、横濱公園あり。公園としては甚はだ物足らぬ感あれど、ロケットニス、ベースボールなど盛んにその地に行はれ、西洋人の夫妻相携へて樂しげに逍遙せるなど、外國にても行きたる如き心地す。税關より右すれば海岸に出づべし。先づ眼に入るは大なる埠頭に巨船の横附にせられたる光景ならん。埠頭の長さ約六町その埠頭に巍然として聳えたる洋館は税關改所なり。これより右に進めば、海岸通にして、道路坦として磚石を敷きたるがごとし。晴波春日に映ずるの日は、宛然外國の埠頭に上陸したるごとき思あり。路の左に測候所あり。丸き赤き球形の氣象球あり。また此海岸には、グランドホテル、メトロポールホテル等の巨館相接しバルコンに洋人の三々相集りて海などを見たる、一幅の畫のごとき心地せらる。舊居留地はその海岸通を脊中合せを爲し、巨館宏宅多し。海岸通より堀川を渡り、谷戸阪を上れば、南山手に至る。地、丘陵を爲せるを以て眺望よ

し。且洋人の別墅住宅等相連り、樹影多く、宛然外國の都會の近郊に出でたるごとき

観なり。谷戸阪の上に公會堂あり。それより左に行けば本牧地方に出づべし。右に行くこと一二町、下に市街を見下したる一角に外國人共同墓地あり。また直行すれば、フェルス女學校、山手公園等あり。代官阪を下れば、元町に有名な古刹増徳院あり。前田橋より南京町に至る。これより前記の公園まで二三町なり。横濱公園より吉田橋を渡れば、伊勢佐木町に達す。賑かなる町なり。二丁目に羽衣神社あり。遊廓は眞金町と永樂町、劇場は羽衣座、喜樂座、賑座、



雲井座、相生座等あり。

交通 陸運には、官設線その主なるものにして、横濱驛の他に平沼驛あり。京阪地方に赴くものはこれより乗車す。また京濱電車あり。水運は左の如し。

内國航路

▲日本郵船會社

●神戸・横濱・小樽間(東廻) 神戸・横濱・秋の濱・函館・小樽 三日毎に小樽港に向けて横濱港を發す。

●横濱・神戸・小樽間(西廻) 横濱・神戸・尾ノ道・下關・境・敦賀・七尾・伏木・佐渡・夷港・丹川・函館・小樽 毎週一回小樽に向けて横濱港を發す。

●小笠原島航路 横濱・八丈島・青ヶ島・鳥島・父島・母島・南琉黄島・中硫黄島 毎月一回横濱を發す。

▲大阪商船會社

●横濱・打狗間 横濱・神戸・宇品・門司・長崎・釜灣・澎湖島・安平・打狗 毎月二回其他横濱四日市半田間の交通あり。

外國航路

▲日本郵船會社

●歐洲航船 横濱・神戸・門司・ホンコン・シンガポール・マナシ・コロンボ・スエズ・ホートセイド・マルセイユ。

ロンドン・アンヘルス 隔週一回歐洲に向つて横濱を發す。

●米國航路 横濱を中央とし香港・シヤトル二港を終局點とし途次神戸・門司・上海・ビクトリアに寄港す 四週一回横濱港を發す。

●上海航路 横濱・神戸・下の關・長崎・上海 毎週一回本港を發し各港を経て上海に着す。

●濠洲航路 横濱・神戸・門司・長崎・香港・マニラ・木曜島・タウンズビル・プリズベーン・シドニー・メルボルン 毎月一回復船往航に同じ。

●孟買航路 横濱・神戸・門司・香港・シンガポール・コロombo・ボンベイ 四週一回、復船往航に同じ。

▲東洋汽船株式會社

●航路 香港・上海・長崎・神戸・横濱・ホノル、サンフランシスコ 毎月一回サンフランシスコ港及び香港に向つて各別の本港を發す、

▲太平洋郵船會社(本社ニウヨークにあり)

●航路 横濱・神戸・長崎・上海・香港・ホノル、サンフランシスコ 毎月一回つゝサンフランシスコ・香港に向つて各別の本港を發す。

▲東西洋汽船會社

●航路 横濱・神戸・長崎・香港・ホノル、サンフランシスコ 前に同じ。

▲加奈太平洋鐵道會社

●航路 香港・上海・長崎・神戸・横濱・バンクーバー 毎月一回つゝ香港及バンクーバーに向つて本港を發す。

▲北太平洋汽會社

●航路 香港・上海・門司・神戸・横濱・ヴィクトリア・タコマ 一定せず

▲ピーオー汽船會社

●航路 ロンドン・マルセイユ・ボートセイド・アデン・コロombo・ペナン・シンガポール・香港・上海・長崎・神戸・横濱 二週一回ロンドンに向つて本港を發す。

▲北獨逸ロイド會社

●航路 ブレーメン或はハンブルヒ・アンヘルス・サザンブトン・ゼノアノーブルス・ボートセイド・スエス・アデン・コロombo・シンガポール・ペナン・香港・上海・長崎・神戸・横濱 二週一回ドイツ國ブレイトメン港及びハンブルヒ港に向つて本港を發す。

▲佛國郵船會社

●航路 横濱・神戸・長崎・上海・香港・サイゴン・シンガポール・コロombo・アデン・ボートセイド・マルセイユ

毎月一回マルセーユに向け本港を發す。

▲奥太利ロイド汽船會社

●航路 トリエスト・フィユメ・ポルトセイド・スエス・アデン・カラチ・ボンベイ・コロンボ・ペナン・シンガポ  
ール・香港・神戸・横濱 毎月一回トリエストに向け發す。

▲大洋汽船會社

●航路 グラスゴー・リバプール・アムステルダム・ロンドン・ポルトセイド・スエス・アデン・コロンボ・ペナ  
ン・シンガポール・香港・福州・上海・門司・長崎・神戸・横濱 二週一回グラスゴーに向け本港を發す。

次に、本港より内外國諸港への海路程は左の如し。

神戶	三四七	馬關及門司	五七二	萩の濱	二七七
長崎	七〇七	函館	五二九	新潟	七三八
半田	一九一	四日市	二〇〇	基隆	一、二七七
香港	一、五六〇	パタゴニア	三、七九五	アデレード	五、二九五
サイゴン	二、三八六	ペナン	三、六二〇	メルボルン	五、〇八〇
シンポール	二、九〇二	コロンボ	四、八九八	シドニー	四、六一五
マニラ	二、〇九五	ボンチエリー	五、四三七	アデン	六、六四〇
スエス	八、〇四〇	フリゲシ	九、三四四	シブラルタル	一〇、〇三一

コンスタンチノープル	八、九二一	アンコナ	九、六一四	ブリモース	一、〇八一
ウラジチストツク	九二七	ヴェニス	九、七三九	ロンドン	一一、五〇五
マトラス	五、五〇八	トリエスト	九、三九八	ホノル	三、三九三
上海	一、〇九〇	マニラ	九、〇五一	桑港	四、五四〇
ポルトセイド	八一	ネーブルス	九、二二五	バンクバー	四、二八三
アレキサンドリア	八、五一五	マルセイユ	九、〇三五	ニウオク	一〇、一一五
アンベルス	一一、〇二五	プリーメン	一一、二二五	ハンブルク	一一、二二五
リバプール	一一、七〇六				

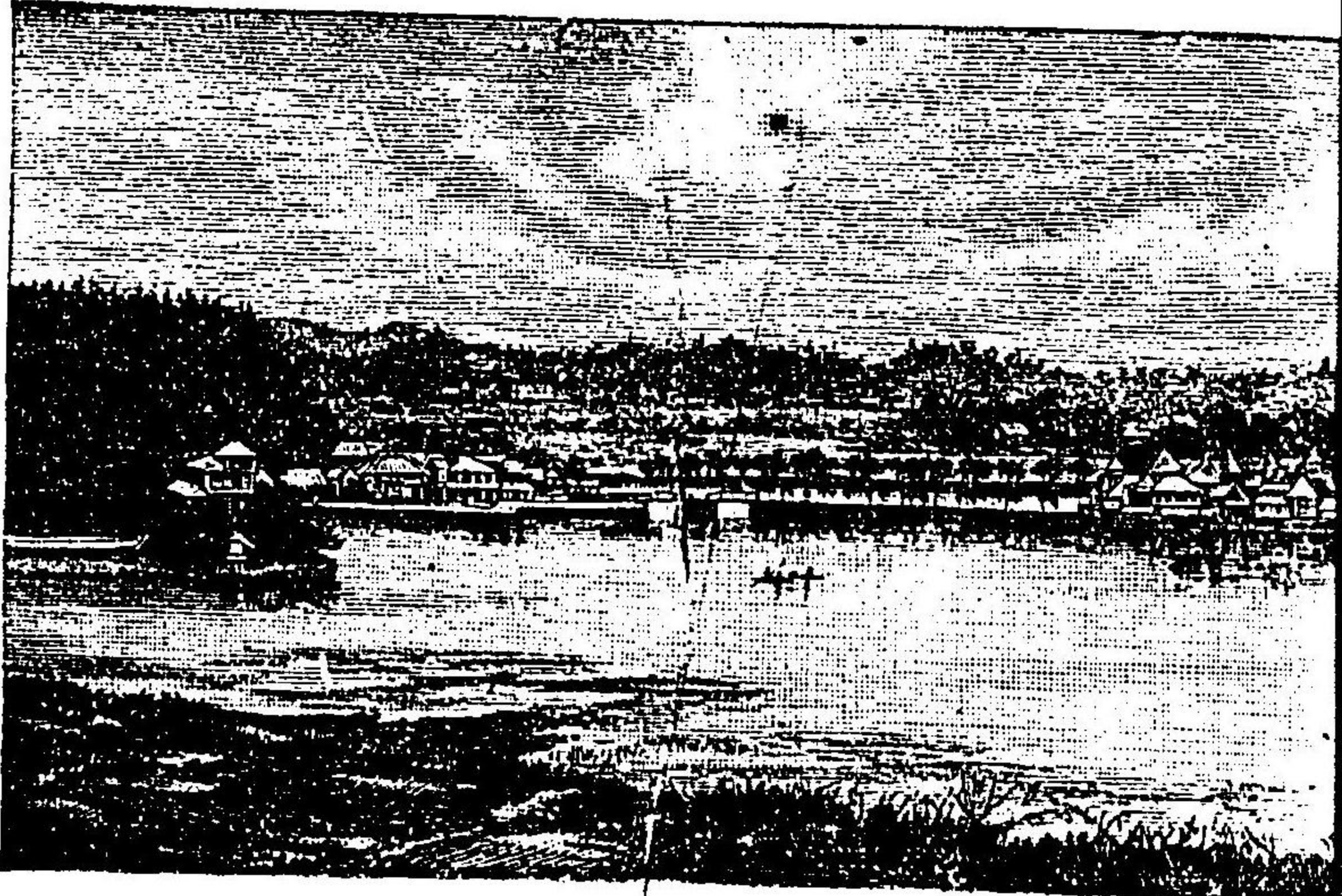
●●●●● ●●●●● 屏風浦 横濱より東部の地は、小丘陵相連り、本牧附近殊に風景に富み、里人はこ  
れを屏風浦と言ひ、外人はこれをミスンピーヘイト稱せり。白色の絶壁高く海波に臨  
み、松影の間處々に白帆を見、風致言ふべからざるものあり。十二天社はその絶壁の  
一角にあり。こはもと眞言宗多聞院の鎮守神にして、傍らの風景よし。また附近に本  
牧海水浴場あり。海水清澄にして頗る兒女の游泳に適す。

●●●●● ●●●●● 根岸競馬場 横濱市根岸町にあり。春秋の兩季に内外人の來觀するもの夥しく、時

に、高貴の行啓せらるゝことあり。馬場の延長千間に及ぶと稱す。附近に根岸不動あり。また瀑布あり。

弘明寺 根岸の西、大岡川村にあり。古義真言宗に屬し、天平年間僧行基の開基と稱し、同僧正作十一面觀音を本尊とせり。俗に粗木の觀音といふ。地、岡阜の上に位して、老樹鬱茂し、矚目開豁清幽なり。横濱より金澤に通ずる街道は寺の左十餘町のところを通ず。

杉田梅林 は横濱停車場より三里、屏風浦に沿うて行けば二時間にして達す。根岸より乗合船もあり。梅林は海に瀕し、東京附近梅花の名所としてはまづ第一なり。その上の丘陵の眺望ことにすぐれたり。佐藤一齋が所謂「村皆白雲世界その巔を極めて俯瞰すれば、花光雲影、遠近相含み、而して海灣晶々然一大鏡を磨き、漁舫その間に往來する」の景頗る賞すべく。杉田浦に東漸寺及び妙法寺あり。東漸寺は禪宗にして關東十刹の一に數へらる。



金 澤 瀨 戸 遠 望

杉田より丘陵の相蟠れる間を行けば、二里餘にして、有名なる金澤八景の地に達すべし。金澤の海濱に海水浴場あり。またその地より二里餘にして鎌倉雪の下に達すべく、三里にして横須賀に至るべし。浦郷を経て横須賀に至る乗合船あり。途中の風景よし。

金澤八景 は大明の心越禪師が支那の西湖に似たりとて、準擬して八詠の詩を賦したるに始まり、近江八景と共に、最も名高し。即ち洲崎晴嵐、瀬川秋月、小泉夜雨、乙船歸帆、稱名寺晚鐘、平瀨落雁、野島夕照、内川暮雪これなり。昔はその勝最も著名に、景致もこの海岸に冠たりしならんかなれど、海水減退して、今は田畝多く、さしてすぐれたる所とも



覺えず。且つ交通の便に乏しきため、遊客比較的少し。能見堂は八景を眺望する第一の勝地にして、金澤より同下村にいたる坂路の上にある。かの巨勢金岡が擲筆したる舊址と稱し、往昔は大なる堂宇ありしも、今は一小堂を留めたるのみ。湖畔に擲筆の松あり。此所より見れば、海上に夏島、猿島、鳥帽子島等の小島星散羅列し、さすばに風致に富めり。山を下れば瀬戸にいたる。海水深く入りて、茶樓<sup>サカ</sup>に臨み、風景佳し。西に一町、瀬戸明神あり。丸見亭は八景の外に能見堂をも併せ見るを以てこの名あり。この亭よりは野島の夕照を見るに最も適せり。野島より西すれば、地方に有名なる泥龜新田の牡丹園あり。

**●●●● 野見堂**の下、大字町尾にあり。眞言宗にして北條實時の本願、その子顯時の建立なり。寺域廣濶にして、堂後に實時父子の墳墓あり。金澤文庫はもと寺の境内にありて、建治中北條實時の創設にかゝり、和漢の書冊數千卷を藏せしが、その後全く荒廢に歸し、近年再び復興を謀れりとぞ。

○中央東線沿線 所謂三多摩郡の地なり。新宿、大久保、中野等所謂東京市の接續地を経て、武藏野の西南端を経て、萩窪、吉祥寺、境、國分寺、立川、日野等の諸驛を経て八王寺町に至る。八王寺町は武藏野の西端に位し、山嶺の翠微漸く前に近し。町は有名なる織物の産地なり。

萩窪を経て吉祥寺にいたれば已に北多摩郡に屬せり。

**●●●● 井之頭池** 吉祥寺停車場の南四町、三鷹村にあり。池畔幽邃にして、池面蘆葦を生ず。天正年間徳川家康この池水を江戸城に引きてお茶の水となし、三代家光その餘水を市中に分つ。即ち神田上水これなり。池中の島に辨財天あり。井頭辨天と稱し、この像は傳教大師の作に係り、天慶年間六孫王經基の此所に安置せるものなりといふ。高雄山をかけて秋季都人士の來遊するもの多し。

**●●●● 深大寺** 井之頭池の西南一里、神代村大字深大寺にあり。往昔は巨刹なりしも、今は萱葺の小堂を存するのみ。天平年間の草創と稱し、曾ては朝廷の勅願寺に定められ



することもありといふ。往時、蕎麥の名所なり。  
 ●●●●●●  
 小金井の櫻 吉祥寺の次驛境驛よりする  
 も、或は國分寺驛よりも、共に半里以内にし  
 て多摩川上水の堤に達す。堤の兩岸、細流を  
 挟みて凡そ數里の間櫻樹を栽植す。これ有名  
 なる小金井の櫻にして、春風駘蕩の候來遊す  
 のるもの陸續として絶えず。水碧く、花美しく、  
 廻かに富士、秩父の連山を眺むべく、堤の中  
 央部なる小金井橋のあたり殊に佳なり。櫻樹  
 は昔時大和芳野及び常陸櫻川の地より移植せ  
 しものと傳へ、一書に「多摩川上水の櫻木は、  
 櫻實にて水毒を消すために栽ゑらる」と誌せ

り。地に酒樓の設けあり。また、花時は臨時汽車の便あり。

●●●●●●  
 貫井辨天 小金井橋の西南半里、貫井村にあり。辨天の祠は丘陵の中腹に位し、そ  
 の高所に登れば、富士、秩父、箱根の諸山を遠望して風色最も佳なり。春は小金川觀  
 花の途次來り遊ぶもの多く、夏時の避暑、秋冬の觀楓、觀雪また桑つべからず。

境の次驛は國分寺なり。川越鐵道はこの停車場より分れて所澤、入間川、南大澤等の諸驛を経て入間郡の川  
 越町にいたる。また、國分寺驛の南半一里に府中町あり。内藤新宿、淀橋新町、高井戸村を経て來れる甲州

街道は、この府中町を通過して立川、日野にいたり、直ちに南多摩郡八王子町に達せり。

●●●●●●  
 戀ヶ窪 國分寺停車場の所在地なり。その地往時は京師より鎌倉にいたる街道筋に

あたり、娯樓軒を列ねたるの地なりといふ。畠山重忠と一遊君に關する傳説を残せり。

●●●●●●  
 國分寺址 國分寺停車場の南方十二三町の丘にあり。天平年間僧行基の草創に係り、  
 聖武天皇の勅願寺なり。今頽廢し去ると雖も、舊伽藍の礎石、二王門舊跡層塔の舊跡  
 等なほ殘存し、土中往々古瓦の破片を發掘することありといふ。國分寺碑あり。

府中町 甲州街道中、名ある驛次なり。今、人口五千二百を有し、人家は長く街道を挟みて連れり。往古この地に國府を置きしといふ。六所神社の他、高安寺、稱名寺、妙光院あり。中、高安寺は足利尊氏を以て開基となし、往時は頗る盛大を極めしと聞く。

六所神社 大國魂神社と稱す。官幣小社に列し、驛の中央に位せり。主神を大國魂命となし、相殿に小野神、小河神、氷川神、杉山神、金鑽神、秩父神を合祀す。六所明神の稱ある所以なり。社傳にいふ、景行天皇の四十一年大國魂初めてこの地に垂迹、後、武藏の國造兄多毛比命神殿を營みて親ら大神を齋ひ祀る。康平年中、源賴義當社に參拜して柳數株を寄進し、治承四年源賴朝また當社に賽し壽永の頃葛西清重をして神器數種を献せしむ。現世の社殿は寛文七年の建築にかゝり、壯麗にあらざれども、古色蒼然として自ら賽客をして襟を正さしむるものあり。境内、賴義の寄進したるもの、後と稱する柳樹鬱として林を盛せり。祭典は五月五日の夜これを行ふ。舊時六所の提燈祭と稱するものこれにして、神輿を本社より假屋に移す間に、家々皆な燈を滅し、式終るの後一時に幾千の提燈を點するを例とせり。

丸山公園 府中町の南字八幡山の西にあり。多摩川に臨み川を隔て、向ヶ岡と相對し、東は八幡山に連りて丘上の眺望よし。八幡山に六所神社の末社八幡神社あり。分倍河原古戰場 府中町の西南十餘町、多摩川沿岸の地を分倍といふ。元弘三年新田義貞北條氏と此所に戦ひ、享徳四年足利成氏上杉房顯と此所に干戈を交へ、また享祿三年北條氏康向ヶ岡の小澤に陣して上杉朝興と此所に交戦す。近世に至るまで附近田圃の間より古兵器を發掘せしことありといふ。

太平記卷十に曰ふ「元弘三年五月八日新田義貞義兵を擧げて武藏に來る。北條氏の勢既に分倍にあり。十五日の夜未だ明けざるに、新田勢分倍へ押寄せて陣を作る。鎌倉方究竟の射手三千人をすぐりて、面に進め、雨の降る如く散々に射らせける間、新田勢射たてられでかけえず、鎌倉方、れに利を得て、義貞の勢を取り籠め餘ざじとぞ責めたりけれ。新田義貞退兵を引すぐりて、敵の大勢をかけ破りては裏へ通り、取つて返してはなめてかけ入り、電光の激する如く、蜘蛛輪違ひに七八度が程を當りける。されども敵は大勢しかも荒

手なるに、義貞遂に打ち負け、堀金をさして引き退く。その勢若干討たれて痛手を負ふもの數を知らず。その日聽て追ひてばし寄りたらば、義貞後にて討たれ給ふべかりしを、今は敵何程のことがあるべき、新田をば定めて武藏、上野の者共が討ちて出さしむらんと、大様に瀝みて時を移す。これぞ北條の運命の盡きる所のしるしなりける。かくて義貞はせんかたなく思召しける所へ、三浦大多和平六左衛門義勝は、かれてより義貞に志ありしかば、相摸の勢六千餘騎を引具して、十五日の晩景に義貞の陣へ馳せ参る。義貞大に悦びて、急ぎ對面あり、種々の軍議をぞ計られける。明れば五月十六日の寅刻に、三浦四萬餘騎が眞先に進んで分倍河原へ押し寄する。敵の陣近くなるまで、態と旗の手をも下さず、鬨の聲をも擧げざりけり。是は敵を出拔きて、手攻の勝負を決せんためなり。如案敵は前日數箇度の戦に人馬皆な疲れたり。その上今敵寄すべしとも思ひかけざりければ、馬に鞍をもながす、物具をも取りそるへす、或は遊君に枕を雙べて、帶紐を解きて臥したるものもあり。或は酒宴に醉を催されて、前後を知らず寢たるものもあり。只一業所感の者共が、自滅を招くに異ならず。さる頃に義貞三浦が先がけに追すがりて、十萬餘騎を三手に分け、三方より推し寄せて、同じく関を作りける。大將四郎左近大夫入道鬨の聲に驚きて、馬よ物具よとあわて騒ぐ所へ、義貞義助の兵、縦横無盡にかけたつる。三浦平六これに力を得て、坂東の八平兵、武藏の七黨を七手になし、蜘蛛輪違ひ十文字に餘さじとぞ攻めたりける。四郎左近入道、大勢なりと雖も、三浦が一時の謀に破られて、落ち行く勢

は散々に、鎌倉を指して引き退く。討たる者は數を知らず。大將入道も關戸邊にて既に討たれぬべく見えにける。

●●●●●  
向ヶ岡 分倍河原より多摩川を渡りて、南岸の連光寺村にあり。地高丘にして絶壁直ちに河より崛起し、頂きに登れば西北武藏野を隔て、秩父の群峯を望み、眼下に清流を下瞰して、風光佳絶なり。

●●●●●  
小山田關址 向ヶ岡の西方十餘町關戸村にあり。往古は府中より鎌倉への往還にあり、東鑑にその名出づるものこれなるべしといふ。地に天守臺なる小丘あり。丘上の眺望佳し。百草園はこの地の西方少許にあり。甲武線日野停車場より東南一里半にあたる。(別項参照)

●●●●●  
立川 國分寺の次驛にして、この停車場より日向和田驛にいたる青梅鐵道あり。立川村の内多摩川の北岸に普濟寺あり。延文の頃の草創にして、禪宗を奉じ、庭園の眺望よし。

谷保天神社 立川停車場よりいたるを便とす。社は府中町の西一里餘に位し、甲州街道の谷保村に屬せり。菅原道實の三男道武が父の像を刻んで安置せし跡なりといふ。境内に梅林あり。また高さ一丈餘の小瀑あり。

日野 甲武線立川の次驛にして、且つ甲州街道にあたる。人口約三千、多摩川の岸を距ること二十町弱なれば、河岸に遊ぶにはこの停車場より下車するを利とす。多摩川遊には鮎獵あり。

多摩川 鮎の名産なる多摩川は、往古の六玉川の一にして、調布の玉川と稱してその名高し。源を武甲の境に發し、武藏の原野を西南に貫く。東京市の水道は、西多摩郡羽村より、本川を導きたるものなり。萬葉集「たまがはに晒す手づくりさら〜」に「なにそこのこのこゝたかなしさ。拾遺集「たまがはに晒す手づくりさら〜」にむかしの人のこひしきやなぞ。」

高幡不動堂 日野の南二十町、高幡村にあり。高幡山金剛寺と號し、大寶以前の創

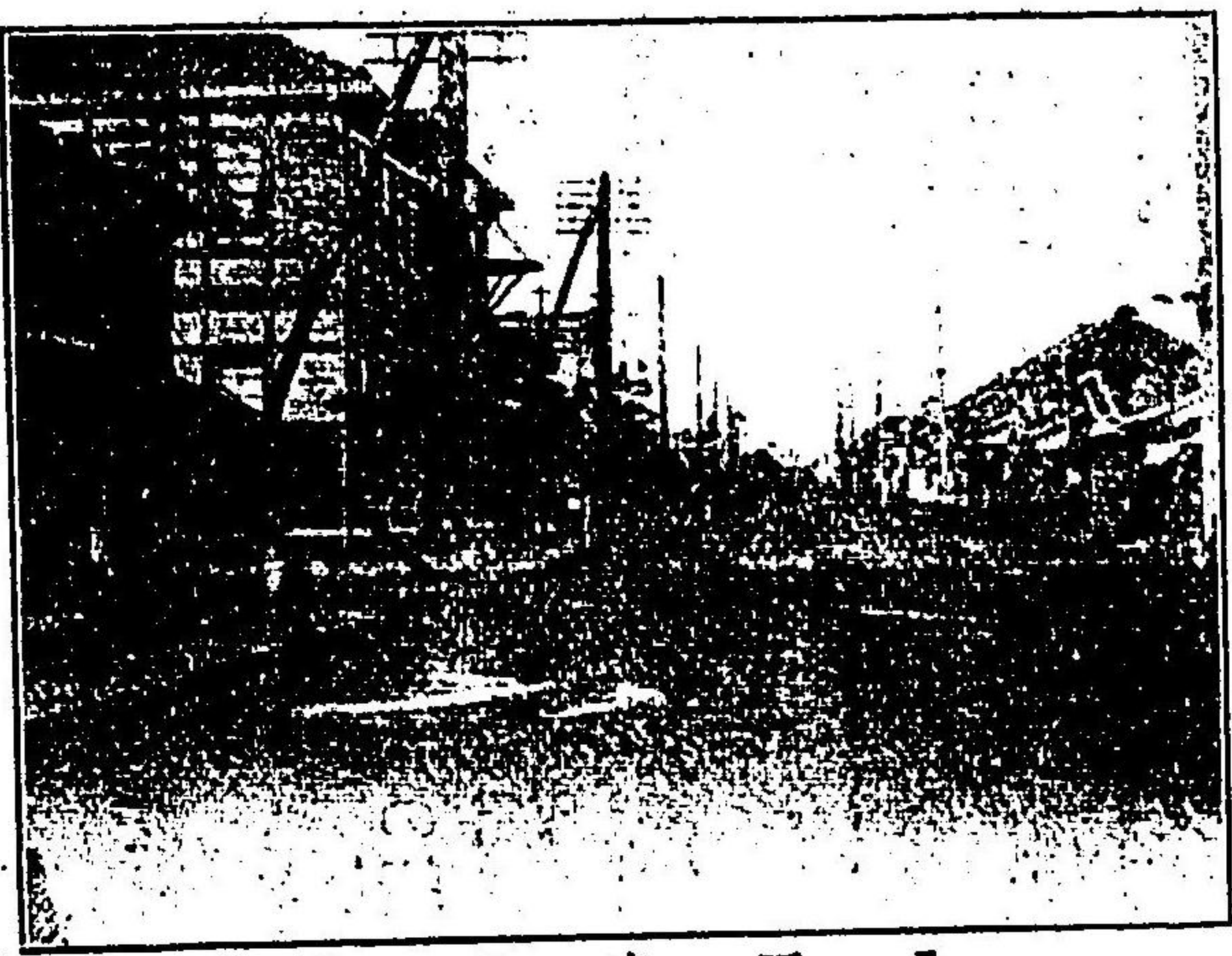
建に係るといふ。本堂は慈覺大師の再建にして、新義真言宗を奉せり。寺寶に白山重

忠の太刀、平山武者所の薙刀等を藏せり。

平惟盛の墓 高幡不動堂の西一町にあり。

百草園 日野停車場より東南一里半にあり。一堆の高丘にして、昔は松蓮寺といひし巨刹ありしが、今は廢院となり、遊園地に改めらる。後丘に十國臺、富士見臺、天平丘等あり。眼下に多摩川の蜿蜒たるを望み、茫漠たる武藏野の景は一眸の間にあり。また、遠くは富士、秩父の青巒を眺む。洵にこれ一幅の繪畫にして、東都附近稀に見るの佳景たり。丘上には八幡宮、石狗、松蓮寺碑あり。石狗は天平時代の作なりといはる。

八王子町 日野より豊田驛を経て八王寺停車場に達す。甲州街道はこの地を通じて甲斐國に入れり。町は東京府下南多摩郡に屬し、今、郡役所を置けり。町の人口約二萬三千、機業の盛なるは關東平野中桐生、足利と相拮抗し、生糸織物の市は毎月四、



八王寺市街

八の日を以てこれを開き、年々少くとも五六百萬圓以上の取引をなすといふ。而してその織物の里なるものは、一樂織、風通織、糸織、博多帶地、縞八丈、浮織、節糸織、銘仙、糸入木綿等にして、女子十四五歳に至れば皆な紡績に従事し、孜孜として倦まざる風あり。官衙には、郡役所の他、區裁判所、警察署等あり。織物講習所、蠶絲業取締所は機業に關して町民の力を盡せるものなり。町内最も繁華なるところは、横山町附近にして、商戶相櫛比し、百貨相輻湊し、電線また四方に通じて、外觀頗る都市の風を有せり。八王寺町より各地への里程は東京へ十二里十二町、川越町へ九里、厚木町へ七里、青梅町へ四里二十町、甲府へ二十三里二十七町なり。

八王子織物の濫觴は享保年間にして、はじめは産額極めて小く、一二農民の餘業たるに止りしが、天明より寛政に至りて、種類産額共に増加し、五日市場附近の黒八丈、青梅附近の青梅縞・棧留縞・川和縞・甲州の郡内縞等次第に其の名は世に高く、遂に一箇の市場を形づくるに至りき。而してこれら諸織物は孰れも八王子を隔つる三里乃至十四里の山間より産出したるを以て八王子市場にては俗にこれを山物と稱し、今猶その稱を改めず。以後産額次第に増加し、殊に盛大を極めたるは寛政より天保に至れる三十年の間にあり。一時幕府士人の奢侈を戒め、絹布を纏ふを禁じたるを以て、産額漸く減少したるも、曩時にして亦其の舊に復したり。而して今の入間郡宇藤山の人藤本嘉平次太織袴地を創製し、これを嘉平次平と名けて盛んにこれを販賣したるは蓋此時にあり。文政年間に至りては上州桐生の人福田某南多摩郡横川に移住し、始めて博多帶地の製あり。殊に、阿波の藍商某此地に來りて正藍博多帶地を製してより、八王子の絹織物忽地にして頭角を顯はし、以て明治の初年に及び、愈々種類を増加せり。即ち米澤産の糸織に擬したる新米澤織、八丈島産を摸したる縞八丈、其の他八反織・綾糸織の如き、又は仙臺平を摸したる武藏平・糸織平・太織平の如き、皆是れなり。明治十四年に至りて、販路の良好なるに馴れて粗製濫造に陥り、傍ら泰西の染料を濫用したるが爲め、頓に從來の名聲を失墜し、明治十八年東京上野に於て開かれたる全國五品共進會は偶々八王子織物の不名譽を天下に公示せり。十九年に至り、地の有志これを慨き、八王子織物仲次業組合の組織し、嚴にこれが

監督を爲し、傍ら織物染色講習所を設けて専ら染色の術を修めしめぬ。爾後次第に名聲を恢復し、二十七八年の戦役、三十年の大火災ありて機業に一頓挫を來したるにも拘らず、愈々進歩の域に進めり。産地は一府三縣に跨り、東京府に於ては南多摩郡・北多摩・西多摩の三郡、神奈川縣に於ては津久井・愛甲・高座の三郡、埼玉縣に於ては入間・高麗の二郡、山梨縣に於ては南都留・北都留の二郡にして、多くは農家の餘業に屬し、間々工場を有し、工女を蓄へて盛んに織物を製造するものありと雖も、そは殆んど指を俛ふるにも過ぎず。賣買取路は先初めに買次商と機業家との間に賣買あり。(重に市場にて) 買次商はその買收したる者を一應檢閲し、標記を加へて、これを各地の注文先又は卸賣商に販賣す。市場は町内横山・八日の二ヶ所において、毎月四の日は横山に、八の日は八日に開くを例とす。織物の種類を細別すれば、

- 一、絹物 博多帶地・博多平袴地・黒八丈・斜子・糸織類・綿八丈・浮織甲斐絹・上田綿・諸壁織・緋八丈・絹織本
- 八反・風通織・琥珀織。
- 二、袖物 節糸織・砂川袖・岸縞・秩父縞・絹紡績織・武蔵平袴地・太織平袴地。
- 三、絹綿交織 吉野織・武蔵野織・紅梅織・世留織・絹瓦斯織・博多結城。
- 四、木綿物 木綿緋・二子織・袖二子。
- 五、輸出物 羽二重・龜袴。

等の諸種あり。

**大善寺** 八王子町字大横町にあり。浄土宗關東十八檀林の一にして、北條氏照の開基に係る。境内に吞龍上人の廟あり。

**子易明神** 八王子停車場の北にあり。その境内は町内の公園地とも稱すべく、古樹鬱蒼し、清泉湧出して最も納涼に適せりといふ。

**八王子城址** 八王子町の西一里二十町にあり。天正年間、北條氏照が瀧山城より移居せし跡にして、同十八年前田上杉兩氏の爲めに落城す。山を慈根寺山といひ、山上に石壘、千疊敷等の跡を残せり。また近傍に瀧澤山、竹林山、月ヶ峯の諸名勝あり。夏は若葉、杜鵑を賞し、秋は紅葉を觀るによろし。

**高雄山** 中央線淺川停車場より下車すれば、直ちにその山麓に達すべし。登り三十町といふ。山上の古刹を藥王院と號し、天平十六年僧行基の開基にして、社殿輪奐の美を極む。また、飯綱明神あり。應安年間僧俊源の不動明王を彫みて安置せしところ

と稱し、嶮しき石階の頂上にありて彫刻甚だ美なり。石階を下りて左に護摩堂、薬師堂、大日堂あり。右に薬王院の坊あり。四面には老杉幾百本となく茂りて、眺望を遮断すれど、風かろく音づれて木蔭冷しく夏時の清遊に適す。境内より西南に狭き山道を降ること十六七町にして琵琶瀧あり。瀧の高さ一丈餘、精神病患者を治するの功ありと傳ふ。また本道を降ること十町餘更に左折して嶮しき崖路を降れば七八町にして蛇瀧あり。幅は琵琶瀧より狭けれど勢ひは却つて彼に勝るものあり。且つ水の清潔を取るべし。山中に佛法僧と名くる鳥あり。また紅葉の名所として秋季都人士の來遊するもの多く、毎年觀楓列車の便あり。

○小佛嶺 甲武の國境にあり。海拔千五百八十五尺、新舊の二道あり。舊道は阪路峻險なり。鐵道線路は、隧道十餘箇を穿つ。隧道の數は碓氷に比して少しと雖も、その概して長きは旅客の一驚を喫するところなり。隧道を通すれば直ちに甲斐國與瀬停車場にいたる。

○青梅鐵道沿線 甲武鐵道線の立川驛より發して、西北多摩郡の青梅及び日向和田驛にいたる鐵道を青梅線といふ。その間拜島、福生、羽村、小作、青梅、日向和田の諸驛あり。これより多摩川の流に添ひて五里、日原川と相合する處に氷川村あり。風景佳なり。これより日原川に渡り三里餘にして日原村に至る、鐘乳洞は其地にあり。氷川より多摩川を渡る甲州街道はこれより小河内村を通じて、山岳重疊の間を縫ひ、以て甲斐の北都留郡に入る。

○瀧山城址 拜島停車場の西にあたり、南多摩郡の高月村にあり。多摩川の上流秋川に臨みて風光廣闊なり。はじめ大石定久城きてこれに居り、後北條氏照の有に歸し、元祿十二年、武田軍の亡すところとなる。この西北にあたり網代鑛泉あり。五日市町の東三十町にして、秋川の南岸に位す。

○五日市町 拜島の西にあたり、秋川の盆地にあり。紡織の業甚だ盛にして、五日市織の産あり。今、人口二千、延喜式阿伎留社あり。この地八王子町を距ること西北三



里二十町、青梅町へは北三里三十町にして達す。

青梅線拜島驛より福生を過ぐれば羽村あり。この地は、承應年間徳川家綱が渠を穿ちて此所より多摩川上水を江戸市中に分流せしところにして、羽村の堰及び水道碑あり。羽村より一驛を通じて直ちに青梅町にいたる。

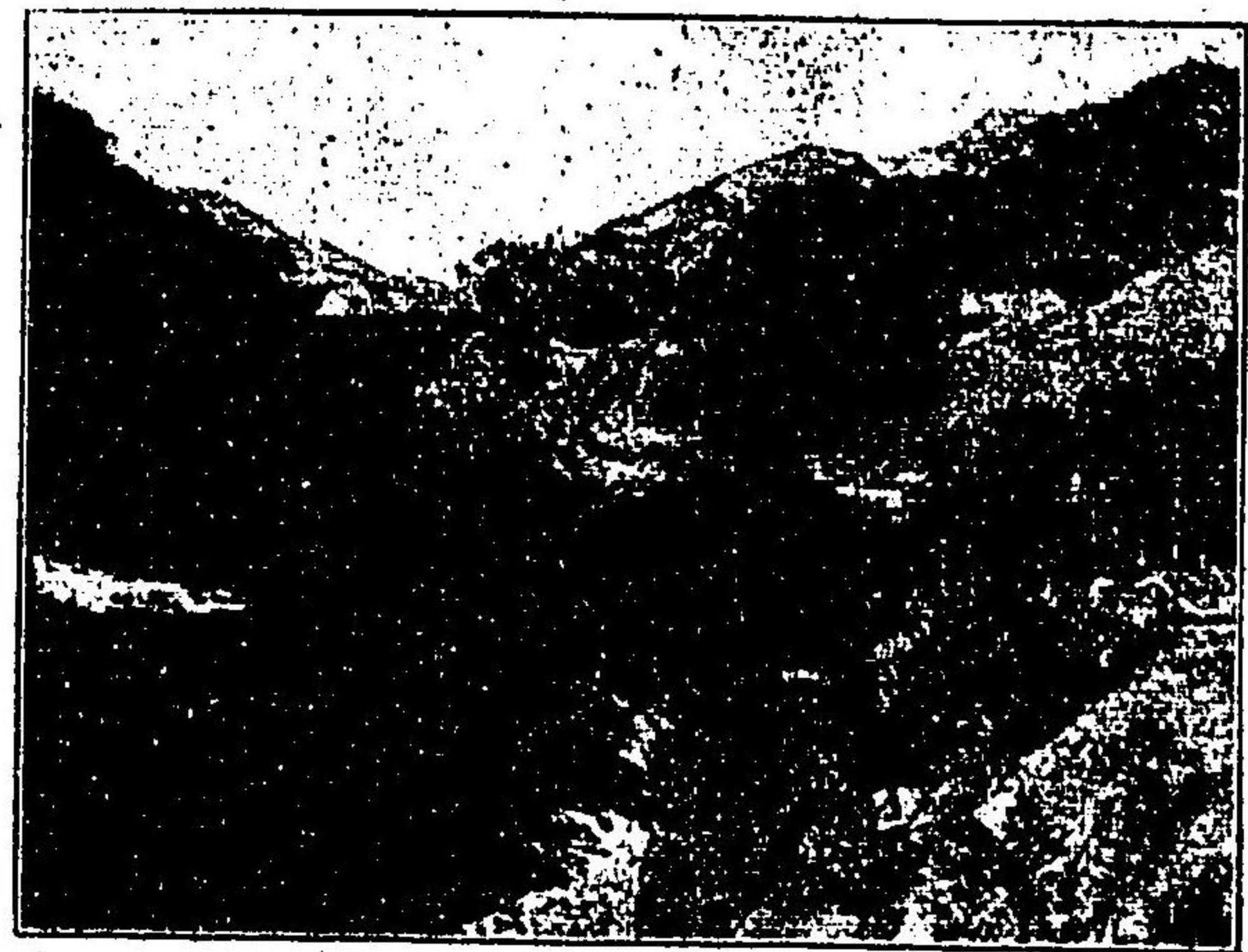
青梅町 多摩川の北岸に位し、西多摩の郡役所所在地なり。人口約五千、木綿、綿、綿糸の製造頗る盛にして青梅綿の名世に高し。町に承平年間平將門の建立と稱する金剛寺あり。この地より萬年橋を渡りて御嶽山に登るべし。

日向和田 青梅鐵道の終點驛なり。停車場より約一里の地に二俣尾の桃林あり。また、一里弱の地に吉野の梅林あり。共にや、都人士に知らる。

萬年橋 一に神代橋といふ。二俣尾より御嶽村に跨がりて多摩川の上流に架す。即ち御嶽神社の賽路にあたるものなり。清瑩玉の如き碧流は橋下七八十尺の岩に激して、兩岸の絶壁削るが如く、奇景また人の氣魄を動かしむるに足るものあり。橋は青梅町

を距ること二里、これよりのぼり一里にして御嶽神社に達すべし。

御嶽神社 三田村御嶽山の上にある。山の標高八百六十米、舊御師の家屋を兩側に



(合落村川水)川摩多

見、石階をのぼれば御嶽神社の本社及び拜殿あり。社は、崇神天皇七年の草創にして、大己貴命、少彥名命の二神を祀る。社殿輪奐の美を極め、境内松杉鬱茂して、風涼しく空氣清澄に最も避暑に適せり。社邊の名所は七代の瀧、綾尾の瀧、御稜の瀧、おほん岩、圓山、日出山、那具男峯等數多あり。登山の行者は陸續として絶ゆる時なく、ことに三月八日、五月八日の大祭には參詣人簇集す。

多摩川上流の奇勝 は近世や、人に知られ、

數馬橋の奇、日原鐘乳洞の怪、や、世人の口に上れり。その山水の美、その風俗の淳、蓋し東京附近の一別勝區なり。今その一般を案内せんに、御嶽より更に川をもとの路にわたりて、猶行くこと一里、澤井村にいたる。その路傍奇岩多く、龜石、虎石、錫杖岩等最も大なり。水景また次第に奇を呈し、棚澤にいたりて、山漸く迫り、水聲漸く高く、一步に一景を生ずるの趣あり。數馬橋は棚澤より氷川にいたらんとするところ、山窮し、溪蹙するところに架して、一路直ちに奇絶快絶なる楓溪の激湍と相對し、水聲の激甚なる、宛然巨人の嘯くに似たり。ことに秋時諸山紅葉を點綴するところ、こゝを過れば、山の赤き、水の白き、岩の蒼き相掩映して、そのさま容易に狀すべからず。更に十五六町にして氷川村に達す。(この邊標高三百四十米) 日原川西北より來りて多摩川に會し、其所に一危橋を架す。橋を渡れば、人家歴落、宛として一仙境なり。——日原の鐘乳洞を探らんとする人はこれより道を右に取るべし——氷川より更に多摩川岸に沿うて行けば、山水はいよく奇に、世塵ますます遠く、玉花溪にいたりて

その奇ほとんと窮る。

**●●●** 小河内鑛泉 小河内村は萬年橋を距ること西四里半、所謂甲府の裏街道にあたりて、地に鑛泉あり。鹽類冷泉にして、沸されば浴するに足らざれど、火傷、花柳病等に特效あるを以て、浴客遠くよりいたる。また、村に一奇溪あり。多摩の流、屈曲して大に趣を生じ、宛然小耶馬溪の觀を成せり。

留浦より佐野峠を越えて猿橋に至る路と、鷓川峠を越えて上野原に出づるの二路あり。鳴澤より甲斐の國に入る。有名なる吉野谷の大谷はこれより丹波山に至らんとする間にありて、多摩川は絶大なる溪水の底に陥り、路は絶壁千仞の傍を縫ひて、その間大凡二里弱、樹に凭りて下瞰すれば、水の流るゝ、岩石の嵌てる、雪の低く舞へる、眞に深山幽谷の感あり。谷を出て、十五六町にして丹波山に達す。同じく山中の一寒村なり。往時は甲州に至るもの、これより大菩薩の險を越え、以て七里村に達せしが、今は柳澤峠の新道開かれ、落合といへる新しき村も出來て、道路もさほど險しからずなりぬ。而して興多きは、この新道の猶多摩の流を離れざる事なり。則ち往昔は見る能はざりし多摩川の水源たる一の瀬川と高橋川との相合する三重河原の景を見るを得べし。黒川の金山は甲州の武田信玄が開鑿して以て甲金の貨幣の材料と爲せし地、當時は山に

凭り溪に架して人家を建て、八王子附近の遊女なども來りて、一時非常に繁榮したところなりと聞く。今は鎖脈絶えしものか、たゞその跡そとむるのみなれど、好事の人は一訪すべし。落合より柳澤峠の絶頂まで里程二里、それよりは甲斐の平野次第に展けて、甲府の粉壁のまながら掌を指すを得るにいたる。

**日原鐘乳洞** 氷川村の西北日原村にあり。今その道順を記せんに、まづ、氷川村に於て甲府裏街道に分れ、道を右に取りて、日原川の溪流に沿うて行くこと一里、偉大なる立岩を對岸に仰ぎ、屈曲また屈曲、樽澤の瀧にいたれば、四山既に頭上を壓し、奇岩一々路傍に出で、奇景頗る駭心すべきものあり。日原の大橋を渡れば、蕭然たる一寒村は忽ちにして眼前に横はる。これ即ち日原の村落にして、鐘乳洞はなほこれより十五六町、仙元峠にいたる道を左折したる一石山の奥にあり。窟の深さ十數町、死出の山あり、賽の河河あり、十二薬師あり。而して先年江見水蔭氏の企てし鐘乳洞探險隊は實にその最も深奥なる所を究めしと傳ふ。日原村にて案内者を備ひ行くべし。

○川越地方 川越鐵道は北多摩郡國分寺停車場に於て甲府鐵道に分れ、入間郡川越

町にいたる。その間小川、東村山、所澤、人曾、入間川、南大塚、川越の諸驛あり。  
**所澤町** 秩父街道の衝にあたり、東京を距ること七里二十八町、綿布の産地としてその名高く、人口約五千餘を有せり。町に新光寺及び薬王寺あり。共に行基所作の佛像を安せり。

**山口觀音堂** 所澤町の西南二十五町、山口町にあり。聖武天皇の朝、行基この地に來りて靈木を以て刻みし觀音像を安置せり。

**小手指原** 山口觀音堂の地方に近し。建武年間新田義貞の櫻田貞國を破り、天正七年その子義宗の足利尊氏を苦めし古戰場なり。地に日本武尊の草劍なる物部天神社あり。

去程に(天正七年)新田足利兩家の軍勢二十萬騎、小手指原に手臨て、敵三壁を作れば、味方も三度関の壁を合す。上は卅三天迄も響き、下は金輪際迄も聞ゆらんとをびたし。先一番に新田義興が二萬餘騎と平一揆が三萬餘騎と懸合て、追つ返しつ分れつ、半餉計相戦て、左右へ颯と引除きたれば、兩方に討らるゝ兵八百餘人、疵を被る者は未だ計るに遠あらず。二番に脇屋左衛門佐が二萬餘騎と白旗一揆が二萬七千餘騎と東

西より相懸りて、一所に嵐と入亂れ火を散して戦ふに、汗馬の馳逐ふ音、太刀の鏗音天に光り、地に響く。或は引組で頭を取るもあり、取らるゝもあり、或は弓手妻手に相付けて切て落すもあり、落さるゝもあり。血は馬蹄に蹴かけられて、紅葉に洒く雨の如く、尸は野徑に横て尺寸の地も剝さず。追靡け懸立られ、七八度程程眠ふて東西に嵐と別れたれば、敵御方に討るゝ者、また五百人に及べり。三番に饗庭の命鶴丸生年十八歳容貌當代無双の兒なるが、今日花一揆の大將なれば、殊更花を打て出立、花一揆六千餘騎が眞先に懸出たり。……新田武藏守義宗旗より先に進で、天下の爲には朝敵なり、我爲には親の敵なり、只今尊氏が首を取て軍門に晒すんば、何の時をか期すべきとて、自餘の敵兵の南北へ分て引をば少しも目につかず、たゞ二引両の大旗の引に付て、何く迄もと追かけ給ふ。引も策をあげ追ふも逸足を出せば、小手差原より石濱迄、坂東道已に四十六里を片時か間にぞ追付たる。將軍尊氏石濱を打渡り給ける時は、已に腹を切らんとて、鎧の上帯切て投じて、高紐を放さんとし給けるを、近習の侍共廿餘騎返し合て、追懸る敵の河中迄渡りかゝりたるを引組々々討死しける其間に、將軍急を遁れて、向の岸へ懸上り給ふ。落ゆく敵は三萬餘騎、追かくる敵は五百餘騎、川の向の岸高うして屏風を立たる如くなるに、數萬騎の敵返し合て、こゝを先途と支へたり。日已に西のさがりに成て、河の淵瀬を見分ざれば、新田武藏守義宗つゝひて渡すに及ばず、跡より續く身方はなし、安からぬ者かなと、牙を嚙て本陣へと引返さる。また將軍の御運の強き處なり。……新田武藏守將軍を

は打漏しぬ、今日は日已に暮れば、勢を集めて明日石濱へ寄ん連、小手差原へ打歸り、兵衛佐殿何處にか控給ぬると、行合兵共に問給へば、兵衛佐殿と脇屋殿とは一所に控て御渡り候つるが、仁木殿頼章に打負て東の方へ落させ給つるなりとぞ答へける。扱爰に見えたる簿は敵か御方かと問給へば、この邊に御方は一騎も候まじ、是は仁木殿兄弟か白旗一揆の者共が焼たる簿にてぞ候はん、小勢にて此邊に御座候はん事は如何と覺候へば、夜に粉れて急ぎ笛吹峠の方へ打越させ給候て、越後信濃勢を待調られ候て、重ねて御合戦候へかしと申ければ、武藏守暫らく思索して實もこの義然るべしとて、笛吹峠は何處ぞと、問ひく夜中に落給ふ。(太平記)

**野火止の里** 所澤町の東大和田町大字野火止は川越街道の一驛にして、往古在原業平の「武藏野はけふはなやさそ若草のつまもこもれりわれも籠れり」と詠じたる舊跡なりと傳ふ。廻國雜記に「このあたり野火止の塚あり。けふはな焼きそと詠せしによりて火烽たちまちに焼けといまよりけるとなん。それよりこの塚を野火止といへり云々」と見ゆ。されどその塚今は見當らず。

**平林寺** 野火止村の南八町にあり。禪宗妙心寺派の巨刹にして、大門より總門まで數

町の間古杉列をなし、總門の内に山門あり。その正面に佛殿あり。堂宇總て宏壯にして、境内松林繁茂し、その廣さ五萬坪と稱す。鐘樓に洪鐘一口あり。元和年間の鑄造といふ。

**入間川町** 所澤驛より入曾を経て達す。入間川の東岸に位し、人口約四千五百を有せり。この停車場より飯能町に赴くべし。

**廣瀬神社** 入間川町の西、上廣瀬村にあり。景行天皇の御宇、日本武尊の鎮座なりと傳説す。

**飯能町** 入間川町の西二里ばかりにあり。人口六千五百、入間郡の一名邑なり。東京より所澤町を経て來れる秩父街道はこの地を通じて秩父大宮町にいたる。また、飯能町の北一里半、高麗川村字新堀新田に高麗寺あり。眞言宗の巨刹にして、境内山に凭り、樹木鬱蒼す。高麗大臣の墳墓あり。靈龜二年高麗人を武藏國に置くところはこの地方なりといふ。

**堀兼井** 入間川町の東堀兼村にあり。入間川の次驛南大塚停車場より里弱にして達すべし。傳へていふ、日本武尊東征の時、飲用水なきたため井を掘り、龍神に祈りて清水を沸かしめたまふ。今この地の凹所はその跡なりと。紀貫之「はるくとおもひこそやれ武藏野のほりかねの井に野寺あるてふ。」

**川越町** 入間川より南大塚驛を経て達す。所澤町を距ること三里二十五町なり。武藏國並びに入間郡の中央部に位し、武藏平野の要地を占め、道路は四方よりこの地に集る。人口約二萬、街衢甚だ廣濶なり。町内に川越城址、入間川郡役所、區裁判所等あり。商業また頗る繁盛なりしも、明治二十六年の大火後や、衰微の色あり。農産物多く、また附近川越斜子を産す。この地より東南四里十六町にして浦和町に出づべし。中仙道の大宮町へ電車あり。

**川越城址** はもと山内房顯の據るところにして、後、太田道灌城きて居り、關東に於ける歴史中、最も重要なる部分に占む。曾て北條氏康の兩上杉とこの地に争ひしこ

とあり。その間の盛衰自ら上杉氏の政治と相關せり。新篇武藏風土記に曰く「河越城は、その郭中のさま西を首とし、東を尾とす。本丸、二丸、三丸、外曲輪、田曲輪、新曲輪、三の櫓臺、十二の城門等皆な備はりて、本城は山に據り、外郭は池を脊にし、西南の二面のみ平地なり。兵家謂ふ平山城とは即ちこれなり云々。」

三芳野神社 川越城址の北隅にあり。縣社にして素盞鳴命、奇稻田姫を祀る。伊勢物語に在原業平が三芳野の里にてある女にあひける物語を説けり。境内櫻樹多し。また、社の西北に東明寺あり。

蓮馨寺 川越町字松郷にあり。天文年間の草創、浄土宗關東十八檀林の一にして、僧存貞を開山とす。明治二十六年川越町の大火に類焼して、今大に衰微す。

喜多院 蓮馨寺の東、小仙波にあり。天台宗上野寛永寺に屬し、開祖天海僧正入寂の地なり。草創は慈寛大師にして天長年間のことに係る。舊幕時代は寺境四萬四千餘坪に及び、堂宇頗る壯嚴を極めしといへり。境内に東照宮あり。

川越町より北方松山町(比企郡)を道じて熊谷町にいたる道路あり。また、川越町の西方四里半の地に毛呂村あり。入間郡の西北隅にあたる。

出雲祝神社 毛呂村の中字前久保にあり。景行天皇の四十三年日本武尊の草創なり。社域三萬二千八百坪、丘を臥龍山と稱し、山頂にのぼれば東方筑波山を望み、西に秩父の群山を觀て眺望佳し。

法恩寺 出雲祝神社の西北三十町、越生町大字今市にあり。天平年間行基僧正の創建に係り。同僧正作觀音佛を本尊とせり。境内老樹鬱蒼し、頗る幽邃の趣に富めり。

龍穩寺 越生町の西にあたり、梅園村大字龍ヶ谷に屬せり。應永年間の開基、曹洞宗の名刹にして、幕府時代はその名ことに揚り、堂宇また壯嚴なりき。

○官線信越線沿線 上野を發し、日暮里、田端、王子、赤羽、蕨、浦和を経て群馬縣境に至る中仙道を言ふ。隅田川の上流戸田川の鐵橋は赤羽、蕨の間にあり。大宮に

大宮公園あり。大宮驛より東北線の線路を岐つ。桶川、鴻の巣に至れば左に富士を中央にし左を箱根連山、其右に丹澤山塊、多摩山群、秩父山群を見、右に日光群山を見、前に淺間山の噴烟を認む。一望渺茫たる平野にして、大宮、川越間に電車あり。吹上、熊谷に至り、秩父山塊漸く左に近く、兩神山、武甲山の山容を明かに指點し得べし。これより秩父山地に向ふて上武鐵道左に岐る。深谷附近は戰國時代にありて、北國より關東（鎌倉小田原）に出づる主道路通じたりしを以て、其時代の遺址多し。鉢形城址は荒川の岸に位置す。線路の右は利根川の流るゝ地方にして、漸次上州地方の氣風の交れるを覺ゆ。本庄驛より鑄川を渡りて上州に入る。浦和町に埼玉縣廳あり。熊谷町最も繁盛なり。

蕨町 埼玉縣北足立郡に屬す。町は停車場より西南に十町餘を隔て、その路傍に櫻樹を植えたり。町の人口約六千、木綿織物の機業地として名あり。八幡山公園 蕨停車場より十五町を隔つ。満山老松にして清流これをめぐり、春夏

の遊覽に適す。園内に八幡神社あり。また園の一端に長徳寺あり。長徳寺は禪宗臨濟派に屬し、應安年間の創建にして、徳川氏の歸依ことに厚かりしといふ。

前川觀音 八幡山公園の東にあたり、蕨停車場より二十町にして達すべし。これ文治三年小松維盛の遺子六代御前の開基なりといふ。

妙顯寺 蕨停車場の西南三十餘町、戸田村字新曾にあり。日蓮宗の一本寺にして弘安三年隅田五郎の創建、日向上人の開山なり。本堂に日蓮上人等身の像を安じ、釋迦堂には隅田氏の念持佛なる子安釋迦如來を安置す。女子これに祈れば安産すと傳へ、來賓するもの多し。寺寶として日蓮上人眞筆の大曼陀羅を藏せり。

浦和町 蕨町の北方一里にあり。人口約八千、北足立郡の南部に位し、埼玉縣廳の所在地なり。中仙道は蕨町よりこの地を通じて大宮町にいたる。地、往昔は兵亂の衝にあたりしかど、小田原北條氏亡びて後はやゝ市街の形を成し、明治九年縣廳の立てられてより日に繁榮に赴けり。されど縣廳の所在地にしてかくの如く落莫たる市街は

日本國中他になしといふ。縣廳の他、重なる官衙に地方裁判所、監獄署及び師範學校、中學校、女子師範學校等あり。物産としては甘藷、葎等を産す。この地より川越町へ四里半、岩槻町へ三里十五町、粕壁町へ五里八町を有す。

調神社 浦和町の南端街道の東側にあり。延喜式内の古社にして往昔月讀の宮と稱す。社記によれば、崇神天皇の勅願にして、後ち足利尊氏社殿を造營し社地を寄附せることありといふ。本社は南向し、巨櫛長杉これを圍み、境自ら幽雅なり。明治六年境内を開きて浦和公園となす。

玉藏院 浦和停車場より五町を隔つ。關東十檀林の一にして、眞言宗に屬し、嵯峨天皇の勅願寺なりしといふ。

與野町 浦和町の西南一里餘にあり。人口四千五百、浦和町より來れる一路はこの地を通じて川越町に達せり。有名なる與野公園はこの町の西北にあり。

與野公園 園は廣袤五千坪に過ぎざる一丘陵なれども、丘上いたる所櫻花ならざる

なく、その樹は老稚相半ばし、老樹は枝相抱きて天を蔽ひ、その幹空虛にして一二人を容るゝに足るものあり。ことにその櫻樹は小金井にあるものと均しく、享保年吉野より移植せるものなりといふ。花は皆な單瓣にして淡紅、春時遊人の來り賞するもの多し。園の西邊に圓錐形の一丘あり。これに登れば富士、秩父の諸山を始め、西南一面茫々たる麥隴萃圃を下瞰して、風光頗る佳なり。

大宮町 もと浦和町と均しく中仙道の一驛次たりしが、日本鐵道の停車場設置せられ、上信越線と奥羽線との分岐點となりしより、市街次第に繁華に赴き、今は却りて浦和町より盛なるに至れり。現時人口一萬餘を有す。停車場内に日本鐵道會社の工場あり。日夜車輛機械の製造に忙しく、使役する職工千四百餘名の多きに及ぶといふ。名物にカラシ卷、甘藷等あり。奥羽線はこの車驛より東北に走り、久喜驛に於て東武鐵道線と交叉し、上信越線は西北行して、上尾、桶川等を経て熊谷町方面へ走る。他に、大宮町より岩槻町を経て粕壁町に達する道路あり。川越に至る電車あり。



●●●●● 氷川神社 大宮停車場の東北十町にあり。官幣大社にして、武藏國中第一の古祠なり。社記に曰く、「當社は草創以來二千餘年の星霜を経たり。景行天皇の御宇、日本武尊東征の時當社を祈りて戦に利あり。後、聖武天皇の朝諸國に一の宮を選定する時、當社を以て武藏の一の宮となす。天慶年間平貞盛等將門を征する時、願書を捧げて祈願せしに果して戦功あり。この願書は今なほ什寶として所藏す。尋で治承四年、源頼朝社殿を修營し、社領を寄進す。徳川家康もまた社領を寄附し、且つ朱印の書を賜ふ。降つて明治元年、至尊御東巡の際親しく參拜あらせられ、爾後年々奉幣の典あり云々と。本殿は正面にして白木造なり。丹亞の美、金碧の燦たるなしと雖も、清楚にしてまた自から雅致あり。

●●●●● 大宮公園 氷川神社の境内なり。その廣袤大約二萬餘坪、鬱蒼たる松杉の間、春は爛熳たる櫻花を交へ、池沼あり、鑛泉あり、酒樓あり、四時都人士の來遊するもの多し。なほ公園附近の名蹟としては、氷川神社南大門八丁目の東方三町に八木松あり、

上古日本武尊東征の際御陣を据させられし舊趾といふ。潮田山は園の北數町なる丘陵にして、上杉氏の臣鹽田資忠が城を築きし舊跡なり。その他、九郎塚稻荷は足立藤九郎盛長出生の地にして、鬼塚、蛇松等の見るべきもの、孰れも園の十町以内に散在せり。またこの附近より往々にして上古の遺物を發掘すといふ。

●●●●● 見沼川の螢 大宮公園の東方十町に見沼川あり。夏は兩岸叢の中に多くの螢を生ず。夏時都人士の螢狩に遊ぶものも多く、川に田舟の準備あり。

●●●●● 上尾町 今、人口三千、中仙道の驛次にして停車場を置けり。養蠶及び製茶の地にして年々の産額また少なからずといふ。

上尾町より西南方三里にして川越町に達す。また、途上平方村に八枝神社あり、指扇村に秋葉神社あり、共に上尾停車場より約一里二十町を隔つ。

●●●●● 桶川町 上尾の次驛にして、人口約五千五百、附近に石器時代の遺物多しといふ。  
●●●●● 蒲櫻 桶川停車場より一里半を隔て、石戸宿にあり。櫻樹の高さ三丈餘、傍らに古

碑數基あり。傳へて蒲冠者範頼の手植と稱す。石戸宿の南、三保谷村に廣徳寺あり。眞言宗にして關八州十堂の第一に位し、堂後に三保谷四郎の墓といふものあり。境内に櫻樹多し。

鴻巣町 桶川の次驛なり。人口五千五百、町の南に停車場を置けり。勝願寺あり、文永年間の開基に係り、淨土宗十八檀林の一なるも、近時衰頹の色あり。

箕田八幡宮 鴻巣町の北一里餘、箕田村大字箕田にあり。村は中仙道にあたり、源頼光の臣渡邊綱の居住せし地なりといふ。今、八幡宮の境内に綱の靈を祀れる一祠を鎮せり。

鴻巣町の北に加須、騎西の二町あり。西に比企郡の松山町あり。松山町までは道程三里にして、鴻巣町より馬車を通す。松山の附近に吉見の百穴あり。

松山町 比企郡中の大邑にして、入間郡川越町より大里郡の熊谷町にいたる別路にあたり、東市川を隔て、松山城址と相對す。市街はほゞ丁字形をなして商業や、繁盛

なり。町に式内箭弓神社あり。また町の南方の曠野を入西の原と呼ぶ。北隅に岩殿觀音あり。堂宇は坂上田村麿の再興せしものと傳ふ。また町の西二里菅谷村大字菅谷に秩父庄司島山重忠の館址あり。東鑑に菅谷の館といふものこれなり。菅谷は一小村落なれども秩父郡大宮町及び兒玉郡兒玉町別街道の岐路にあたり、商業や、盛況を呈せり。

松山城址 松山町の附近西吉見村にあり。永享年間上杉氏の築く所にして、後ち北條、上田諸氏交々之に據る。一丘巍然として平地より起り、麓に市川を環らして絶壁之に倚り、頗る要害の地なり。今は松杉擅まゝに鬱茂して荒蕪に屬するも、猶ほ城壁の跡を存し、當年を追懷するに足るものあり。

吉見の百穴 西吉見村にあり。鴻巣町より馬車にていたるべし。大日本地誌に曰く「吉見の百穴は前年坪井博士の發掘に係るものにして、わが邦に於て最も有名なる横穴なり。現に發掘せられたる穴の總數は二百三十七にして、丘腹全面に規則正しく排

列す。遠くこれを望めば恰も西洋風大建築の窓の列するが如く見ゆべし。發掘の際にはこれ等の穴の附近より埴輪を出し、またその内部よりは祝部及び金環、銀環を出せるものあり。或は稀には遺骸の安置せられたるものありたり。而してこれ等の穴の果して何の用に供せられしものなるに就ては、吾人はその葬穴の跡ならんと信するものなれど、或は穴居の跡なりといひ、坪井博士は専ら後説を取り、偶々穴中遺骸の存するは後世穴居の跡を葬穴に利用せしものなりとせり。」

再び日本鐵道沿路に歸れば上尾の次驛に吹上驛あり。

吹上 今、人口二千。昔時は中仙道の間の宿たるに止まりしが、今は停車場のため大に交通の要路となれり。停車場の南西一里半に玉鉾山の勝あり。また、停車場の西方一里半に冑山塚あり。武藏國造の墓といふ。忍町は吹上の北一里半にして、停車場より馬車鐵道を通ず。

忍町 北埼玉郡第一の都邑にして、郡役所を置き、人口八千を算す。町の東に忍城

址あり。もと成田長泰の據りしところにして、城東を行田町と稱し、繁華なり。町より東すれば三里にして東武鐵道加須驛に達すべく、北すれば二里餘にして羽生町にいたるべし。

前玉神社 忍町の東南三十町、埼玉村大字埼玉にあり。養老年間の創建と傳へ、境内杉松多く沈鬱なり。また、同所に小埼玉池趾あり。古へ舟楫の往來せしところにして、埼玉の津と稱せしものこれなり。萬葉集にいふ、「さきたまの津にをる舟の風をいたみ綱はたゆとも事なたえそね。」

忍町より忍街道を西に行けば約一里半にして、大里郡の熊谷町に達す。即ち吹上の次驛なり。

熊谷町 は中仙道の驛次中有名なる繁華の地にして、大里郡郡役所を置けり。人口二萬餘、四通八達の地にして、東に忍街道、西に秩父街道、北に妻沼街道、南に松山街道あり。郡役所の他、區裁判所、稅務署、第二中學校、埼玉縣農學校、熊谷銀行、熊谷貯蓄銀行、八十五銀行支店、實業銀行、熊谷製粉會社、日清館等あり。旅客の出

入、貨物の集散多く、市街頗る殷盛を極め、米穀、織物、繭等の賣買常に盛なり。荒川堤には櫻樹を駢植し、花時の美觀東京向島の櫻にも劣らずと稱せらる。花季、旅客は車窓よりその爛漫たる光景を賞するを得べし。上武鐵道はこの地より岐れて、西南を差し、秩父盆地に入る。

**熊谷寺** 熊谷停車場より五町にあり。淨土宗に屬し、本尊は多田滿仲の子美丈丸の念持佛にして、惠心僧都の作阿彌陀如來なり。熊谷直實薙髮して後、名を蓮生と改め、此所に草庵を結びて建永二年入寂せり。故に寺名特に名高し。寺寶に直實の所持品多し。

**石上寺** 熊谷寺の南にあり。當時の豪族竹井氏の開基にして、その庭園の美を以て名あり。

**龍淵寺** 熊谷町の東半里、成田村大字上之村にあり。曹洞宗、應永年間の創建にして成田家時の開基なり。本堂には長丈八尺の釋迦如來を安置し、他に開山堂あり。寶

什に古文書多し。また、同所に上之村神社あり。龍淵寺と同じく忍城主成田家時の造營なりといふ。

**照嚴寺** 熊谷停車場の北一里、北河原村にあり。臨濟宗に屬し、景勝を以て聞ゆ。

**妻沼** 熊谷町の北二里二十餘町に位し、その間乗合馬車を通せり。地の人口五千、頗る繁華なり。有名なる聖天堂あり。利根川はこの地の北を流る。なほ、北方二里餘にして上野國太田町に達すべし。

**聖天堂** の境内は凡そ六千坪、中央に本殿ありて觀喜天を祀る。その像は黄金にして齋藤實盛の子實長の信奉せるものなりといふ。本殿は東面にして、前に貴總門、中門、二王門あり。北境に油泉を穿ち、中島に辨天祠を安せり。毎年二期の祭典には參詣人踵至し、また同堂と二町を隔て、觀喜院あり。その境内約二千坪、中央に本堂を建て、本尊不動明王を奉安せり。

再び日本鐵道熊谷停車場に戻りて西北を指せば、深谷、本庄の二驛あり。

●深谷町 大里郡の西端にあり。中仙道の驛次中熊谷町に次げる市邑にして、人口七千五百を有す。舊、關東の管領山内房顯が城きて以て、扇谷定正と戦ひたる地、當時の城跡今なほ存せり。

●平忠度墓 深谷停車場の北十三町にあり。傍に内室菊の前の墓を並ぶ。壽永のころ平家滅亡の際、岡部忠澄、一敵將を斃して後、その忠度なるを知り、憐んでその墓をこの地に築けり。室菊の前幕ひて來り、墓前に櫻樹を植ゑて死す。今の忠度櫻即ちこれなりと傳ふ。宗祇法師「なきを訪ふ岡部の原の古墳に秋のしるしの松風ぞ吹く。」

●岡部忠澄墓 深谷停車場の西北、岡部村の普濟寺にあり。忠度を切りし岡部六彌太忠澄及びその妻の墳墓とす。

●本庄町 秩父地方、伊勢崎地方(上野國)の要路に衝り、市街殷富にして商業また盛に、ことに蠶紙の賣買を以て著はる。人口約七千、昔時足利上杉の古戰場なり。この地より兒玉町へは西南二里、馬車の便あり。

●金鑽神社 本庄停車場より三里半にして、人力車を通ず。兒玉町よりは西方一里十町を隔てたり。通常武藏の二の宮と稱し、日本武尊東征の時、天照太神、素盞鳴命の二神を祭り給ひし跡なりと傳説す。今官幣中社に列せり。境内に古塔あり、俗に飛彈内匠の構造に係るものと稱す。

●兒玉町 人口四千五百、川越町より菅谷を経て來れる道路はこの地を通じて上野國多野郡藤岡町へ通せり。町は絹布の製造頗る盛にして、商戸檐を連ね、西に古城址あり。また、町の北に字八幡山村あり。昔時兒玉黨の據りしところなりといふ。

●八幡神社 兒玉町にあり。縣社にして姫大神、應神天皇、神功皇后の三座を祀り、俗に東石清水八幡宮と號す。創建の年月詳かなれざれども、康平六年山城國男山八幡宮の分靈を遷して本社を再興し、願主は源義家ありと傳ふ。境内老樹繁茂し、本社の構造頗る古風なり。

●神保原 日本鐵道線深谷驛の次驛なり。この驛より鐵道は神流川と鳥川との會流點

なる勅使河原を掠めて、上野國新町驛にいたる。勅使河原は天正年間小田原北條氏直と上野國麻橋(今の前橋)城主瀧川一益との古戰場なり。

●今城青坂稻實池上神社 神保原停車場より十五町を隔て、忍保村にあり。武藏四十四座の一にして、元弘年間新田義貞の修築せる神社なり。延喜式内に列す。また、附近に善台寺あり、梅の名所として知らる。

●陽雲寺 神保原停車場より十八町の地にあり。弘仁年間慈覺大師の開基にして、義貞の臣畑時能の香華院となり、武田信玄の室これの中興せりといふ。

○上武鐵道線 官線信越線の熊谷町より上武鐵道の一線岐れて西南を指し、秩父盆地に入る。この線は概して、秩父街道と荒川の流域との間を駛り、廣濶たる平野の中、漸く近く秩父の連山を望み、風光のすぐれたる處甚だ多し。この線の驛名は石原、大麻生、武川、小前田、寄居等なり。秩父山中に至る唯一の交通路なり。

●荒川の鮎 荒川は即ち隅田川の上流にして、鮎魚を以て、その名高し。これを試む

るには武川驛にて下車し、本島村に赴くを最も好しとなす。武川驛の西南十二町島山に満福寺あり。寺内に島山重忠の碑を存し、荒川の風景瀟洒たり。

●寄居町 武川より小前田を過ぎて達す。町は秩父一帯の地の要路にあたり、恰も咽喉を扼したるが如き趣あり。故を以て土地の風習全く他と趣を異にし、頗る大古の風を存せり。今、人口三千を算す。南方大宮町まで十四里の間馬車を通せり。

●鉢形城址 寄居町と荒川を隔て、鉢形村にあり。古へ北條氏の城きし所にして太田道灌また本城を修む。地は前に荒川の碧流を帯びて寄居町と相對し、丘陵直ちに河岸より突起し、懸崖幾十仞、丘容鉢を逆まにしたるが如し。荆棘を變らざるに幾十年、既に荒蕪に歸すと雖も、城壘の跡なほ依然として存し、頗る要害の地たるを覺ゆ。

●象ヶ鼻 寄居町の西、折原村大字折原あり。一丘荒川に斗出して岬角の形を爲し、巨象臥してその鼻を延べたるが如し。荒川の水此處に來りて滙流し、砂積遠く對岸に連りて風景絶佳の地なり。丘上に一祠を鎮す。

寶登神社 寄居町の西方三里十町、藤屋淵にあり。その地奇岩怪石を以て名あり。社は神武天皇を祀る。

和銅の産地 藤谷淵の南方原谷村大字黒谷を以て和銅の産地となす。慶雲五年この地よりはじめて銅を發掘しこれを朝に献す。即ち國家富強を致すの嘉祥として年號を和銅と改む。今もなほその跡を存し、近傍に鑛山多しと聞く。大宮町はこの地の南方一里二十町にあり。

大宮町 秩父盆地の中央に位し、武甲山の麓にあり。上古この地に國府を置き、明治十七年秩父暴動の時にはその害を被りしこと多かりしといふ。現時の人口約七千、秩父郡役所、區裁判所等を置けり。その住民は一種の氣風を存し、自ら別天地の趣を爲せり。ことに、四面高山を以て圍まれたる秩父郡の中央に位したれば、交通の便、貨物の集散、皆なこの町を以て中心となせり。産物は専ら機業にして、秩父絹ことに名あり。

秩父神社 大宮町にあり。一に秩父妙見と稱す。古昔延喜式の社格にして維新後縣社に列せらる。社傳によれば、崇神天皇朝の鎮座にして、後ち武田信玄の兵火に罹りて社殿悉く烏有に歸し、更に天正年間徳川家康これを再築す。現在の社殿即ちこれなり。本社の他に攝社五座、末社七十五座あり。社殿の龍虎は左甚五郎の作なりと傳ふ。境内、老樹森々として社殿を護し頗る避暑納涼に適せり。

橋立の觀音堂 大宮町の西南一里ばかりにあり、深山絶壁の上に立ちて、堂後に鐘乳石の巨窟あり。

三峰神社 秩父郡の南端、大瀧村三峰山の半腹にあり。大宮町を距ること十里餘、三峰村に屬せり。社は關東に於ける信者の參詣所にして、白衣を纏ひて上るもの年々二萬人を下らすといふ。今、縣社に列せり。社の縁起を按ずるに、景行天皇の四十二年日本武尊本社を創建し、同年勅願所と定めらる。後、文武天皇の三年役の行者當山に登りて佛法を修す。天長年間僧空海勅を奉じて十一面の觀音を境内に安置す。建

久六年はたけやましげたけ自山重忠方十餘里の地を寄進し、天平中新田ちゅうた義興當山に匿る。更に爾後殿宇を重修し、寺號を高雲寺と稱して天台寺に屬せしが、明治元年神佛の混淆を禁じて神社となる。社域の高さは海面を抜くこと三千餘尺、山麓登龍橋よりのぼり五十二町にして本社に達す。その地四面皆な山をめぐらし、老樹鬱然として日光を遮り、土地最も閑寂に、夜陰狼の聲を聞く。境内境外ともに名所甚だ多し。大瀧村より西南四里半にして甲斐國境に達す。

●荒川の泉源 大瀧村大字大達原に不動の瀧一に唐絲の瀧と稱するものなり。高さ二丈五尺、幅八間、これ實に隅田川の上流荒川の水源をなせるものなり。なほ、附近には大小瀑布の山間より落下して荒川に注ぐもの多し。

再び大宮町に戻れば、西北二里に小鹿野町あり。掠神社また遠からず。

●小鹿野町 人口三千餘を有する一市邑にして、町に眺望秀絶を以て聞えたる小鹿野神社あり。荒川水源の一なる赤子川は社地の麓を回流して、東北に駛走す。

●掠神社 小鹿野町の北、吉田村大字下吉田に鎮せり。縣社にして、今の本社は天正年間の造營なりといふ。末社十一座あり。また西北二十餘町の山間に奥の宮ありて日本武尊を祀る。境内群山に圍まれて樹木鬱茂せり。縁起にいふ、景行天皇の四十一年日本武尊東北より凱旋の折、この地葦田の原掠樹の下に駕を駐めて猿田彦命と齋祀し、後、天慶年間田原藤太秀郷本殿を再興し、更に元龜年間武田氏の兵燹にかゝりしを北條氏重興し、徳川氏にいたりて社領を寄附す云々と。

およそこの秩父郡一帯の地は、四境山嶺に圍繞され、溪流所々に激して、風景の佳絶なるところ甚だ多し。ことにその鐘乳洞は古來その名甚だ揚れり。關東山塊を構成する古生層は、實にこれを大別して上、中、下三部の秩父系と小佛系とに分つを得べしといふ。

○東武鐵道沿線 東武鐵道は其起端驛より東京淺草驛に置き、初めは隅田川の東部をめぐりて北千住に達し、これより官設信越線と其幅三里乃至五里を隔て、北に向ひ、其中間を赤羽より川口、鳩ヶ谷を経て岩槻町に達する一街路を挾て、西新井、草加、



粕壁、等の諸驛を経て、信越線の大宮驛を岐れて北したる官設東北線の久喜驛と交叉し、猶北して加須羽生より群馬縣の國境に至る。此間、他の奇なけれど、晴れたる秋の日などに、粕壁附近より關東平野を縁取りたる山峯を見るに適す。北は日光より南は箱根山に至り、其大觀多く他に見るべからず。信越線の大宮より岐れたる東北線は蓮田、久喜の二驛を経て、利根河畔の栗橋驛に至る。便利上此の線路の勝地も此處に附記す。

●西新井大師 北千住驛の次驛西新井より七町を隔つ。寺を五智山總持寺と號し、弘法大師の草創といふ。都南川崎の大師と相對し、賽者甚だ多し。境内に弘法大師の遺跡加持水あり。また、西新井の北伊興村に白旗塚あり。源義家東夷征伐の時白旗を樹て、凱歌を奏せし舊地なりと傳ふ。開眼不動は西新井停車場の西南十六町にあり。  
●草加町 西新井より竹塚停車場を経て達す。綾瀨川の北岸に位し、人口五千、人屋楡比して街衢また繁盛なり。これより新田、蒲生の諸驛を経て越ヶ谷停車場に達す。

●越ヶ谷町 今、人口三千六百、陸羽街道の一驛なり。元荒川を隅て、北に大澤町と相接し、南は草加町より一里三十四町、北は粕壁町に二里二十一町を隔てたり。市街は南北に長くして商戸櫓を列ねたり。

●越ヶ谷桃林 停車場の西方五町にあり。花季は紅霞天に映じて、頗る美觀なり。都人士の來遊するもの尠なからず。

●西方不動堂 越ヶ谷停車場の西三十町、大相模村にあり。桃花多し。

●粕壁町 越ヶ谷より武里驛を経て達す。古利根川の西岸に位し、陸羽街道の衝にありて、人口七千餘を有す。この附近にての都會なり。町に八幡神社あり。凡そ七八百年の舊祠なりといふ。また町の北十餘町小淵村に不動院あり。

●牛島の藤 粕壁停車場より十六町を隔つ。數百年來の古木にて蟠蔓五十餘坪に及び、その名ことに著し。

●隅田川古渡 粕壁町の西北少許、内牧村大字梅田に隅田川の古渡と傳ふるものあり。

里人これを在原業平が「名にしあはれいざ言問はん」と詠みたる隅田川の舊址なりと傳ふれど、正確なることは今知れず。附近に梅若塚あり。

粕壁町の西南二里十二丁に岩槻町あり。壬子、赤羽、川口(町の北に古刹善光寺あり)鳩ヶ谷(町の人口三千)を経て來れる岩槻街道はこの町を通じて更に北行せり。幕府時代日光參詣の驛次とす。

岩槻町 維新前は太岡氏二萬三千石の城下なりしも、維新後交通の衝に當らざるを以て、大にその繁華を失ひたり。今、人口約六千餘、岩槻葱を名物とせり。綾瀬川は南に流れ、元荒川北に流れて水陸の便多し。この地より西南大宮町にいたる道路あり。また南方三里十五町にして浦和町に達す。

岩槻城址 長祿元年太田道灌の所築にして、後北條氏を経て徳川氏に歸し、寶曆年間には大岡氏此所に封せられて代々これを守り、以て維新前の廢城にいたる。今なほ城墟の跡顯然たり。

淨國寺 岩槻町の南數町粕崎村の加倉にあり。天正十五年の開基、淨土宗十八檀林

の一にして、北條氏房これを創建し、後徳川家康再興せりといふ。本堂の傍らに佛眼堂ありて、釋尊の舍利を安置す。境内廣く松杉鬱茂せり。

慈恩寺 岩槻町の北一里、慈恩寺村大字慈恩寺にあり。天長元年慈覺大師の創建にして、天台宗に屬し、昔時は伽藍堂塔輪奐の美を極めしも近世甚だ衰微せり。境内に慈覺大師手栽の松、觀音御手洗池、南蠻鐵の古燈籠等あり。寺寶の主なるものに、崇保院公寛親王御筆法華經八卷、大樂王院慈照親王御筆額一面、慈覺大師親筆般若經一葉、太田資正、徳川家康の寄附狀等あり。

西光院 粕壁町の北一里餘、百間村にあり。今、大に頽廢せりと雖も、昔時は寺城廣衍にして幕府より寺領を附せられき。或はいふ、この寺一千年以前の古刹なりと。

杉戸町 粕壁の次驛にして陸羽街道の驛路にあたり、往時は往來頗る頻繁にして殷盛を極めたりしも、東北鐵道開通以來や、衰微の兆あり。市街は南北に長く、今北葛飾の郡役所を置けり。町の近傍古利根川沿岸の地は良種の糯を産するを以て名あり。町

の東一里半に西寶珠花村あり。

東武鐵道線路はこの町に於て奥羽街道に離れ、直ちに久喜驛に向ふ。奥羽街道は東武鐵道に分れて更に北行し、高野、幸手町を過ぎて栗橋町に達し、再び東北鐵道の線路と合ひて下總の古河町へ入り。その間高野村に高野渡址あり。今、序を以て奥羽街道沿路の名勝を此所に紹介せん。

●●●●●●  
幸手町 杉戸町より一里十八町を隔つ。古利根川の東岸に位し、人口七千を算す。

その繁華杉戸、栗橋と伯仲の間にあり。町の北十餘町に行幸堤あり。また、町より西方久喜町へ一里六町、東方關宿町へ一里十八町を有せり。關宿町は既に下總國に所屬す。

●●●●●●  
栗橋町 幸手町の北二里三町の地にあり。奥羽街道の一驛にして、東北鐵道は驛西靜村に停車場を置く。利根川は町の東に於て、その幅最も廣く、その南北半里の間を堂川と呼び、中田の渡に於て幅三百間と稱す。東北鐵道の鐵橋はその西に架りて、恰も虹霓の中天を貫くが如し。町の人口約三千五百、街衢や、盛なり。これより下總國

古河まで一里二十三町に過ぎず。

●●●●●●  
靜御前の墓 靜村大字伊阪、鐵道線路の傍らにあり。墓碑は享保年間中川氏の建つる所にして當時の物に非ず。口碑の傳ふる所に據れば靜、義經の陸奥に在るを聞き往て従はんと欲し、遙々北行の途に上る。その途次義經の已に死せしを聞き落膽失望の極終に病みて死す、因て此に葬ると。今猶ほ利根川の北岸下總國中田の光了寺に靜の舞衣懷劔等を藏す。

再び東武鐵道沿線の地に戻りて、久喜町よりその西北にあたる地方を紹介せん。

●●●●●●  
久喜町 杉戸より和戸の車驛を経て達す。幸手町の西方一里二十町にあり。地は東北鐵道と東武鐵道の相交又するところにして、人口約三千を算し、停車場設置以來や、繁盛の趣あり。町の西方天神山に久喜城址あり。足利成氏武藏の管領たりし時此に城き、後ち山内房顯、扇ヶ谷持朝等と戦ひ、文明十年捨て、古河に還る、即ちこの城なり。この附近土地平衍にして、山嶺の蜿蜒頗る明かなり。

甘棠院 久喜町にあり。禪宗臨濟派に屬し、永正年間の開基、天文年間の再興なり。境内寛廣、堂宇また壯嚴なり。

鷲宮神社 久喜の次驛鷲宮停車場(東武線)より二町の地にあり。縣社にして天穗日命、天夷鳥命、大背飯熊大人三體を祀る。創建の年月遠遠にして詳かならざるも恐らくは國內最古の神祠なるべく、日本武尊東征の際社殿を造營し、代々の天皇崇敬淺からず、降りて建久四年源賴朝社殿を修營して神馬を奉り、源賴家、北條時頼、新田義貞、足利尊氏その他の武將相尋で當社に神馬を奉りしこと載せて東鑑にあり。現在の本社は近世の修造に係り清麗高雅、社前の石燈籠あり。末社二十一を算し、境の内外杉樹及び櫻楓多し。所藏の寶物に古代の器物尠ならずといふ。

加須町 久喜町より二里三十四町を隔つ。鷲宮の次驛なり。この附近の最も繁華なる地にして、近邊に青縞と稱する盲縞木綿を産し、機杼の聲いたるところに聞ゆ。騎西、菖蒲の二町はこの地を距ること一里餘に過ぎず。

不動岡の不動 加須停車場の西十二町にあり。この附近の流行佛にして、賽客常に群集す。その堂宇また宏壯にして堂前旅亭酒舖鱗次し、賽日にはほとんど立錫の地なく、東武鐵道また臨時汽車を發するにいたる。地に不動岡中學校あり。

玉敷神社 加須町の南、騎西町にあり。延喜式に列し、本社その他、幣殿、拜殿、額堂、神樂殿及び末社十五祠あり。賽路の兩側には古松繁茂し、社背また古樹多し。社の傍らに神湯場あり。

羽生町 加須を經ていたる。町は人口四千、純然たる田舎町なれど、加須と同じく青縞の産多きを以て著名なり。これより西南忍町(行田)までは約一里半に過ぎず。

小松神社 羽生町の南岩瀬村小松にあり。諸冊二神を祀り、草創の年代不詳なれども凡そ八百年の古社なるべしといふ。延喜式内に列せり。

羽生町より半里にして利根川に至る堤防に添ひて立て堤上に登れば利根川溶々として流れ、風景甚だ佳あり。東武鐵道は之に鐵橋をつくりて上野國に入る。また、信越線の吹上驛より起りたる館林街道は忍町より田畦

の間を経て、直ちに新郷に達し、この利根川に達著して、其所に風情畫かく如き舟橋を架す。この舟橋を渡れば上野國にして、その地の第一歩に川俣の一邑あり。

## 安房國

安房國は所謂房總半島の南部を成し、本邦に於ける最小國の一なり。東西南の三面は全く海に面し、北の一部のみ上總國に接す。東西十一里、南北七里半、面積三十五方里を有し、千葉縣の管轄に屬し、安房の一郡を有するのみ。地勢は浦賀水道を隔て、三浦半島と相對し、丘陵に富み、其の主要なる隆起線は房總の境をなして東西に走る。鋸山(三三〇米)伊豫山、清澄山(三六八米)は主脈中の主脈にして、花立峠、峯岡山、大貫山等これが支脈を爲して南北に蜿蜒す。鋸山は其形鋸齒に似たるを以て、世に知られ、清澄山は太平洋航客の好目標として著名なり。河川は東京灣に朝するものと、太平洋に入るものとの二あれど、半島の地小なるを以て、著るしきもの甚だ少し。淡川、保田川、沙入川は東京灣に注ぎ、巴川、長尻川、瀬戸川、丸山川等は太平洋に注ぐ。海岸は沙濱徒崖相半し、東京灣に面しては二三の小灣入あり。館山灣最も大にし

て、其中央に國の最も繁華港なる館山町あり。野島崎には燈臺あり。太平洋海岸は概して平滑なる砂濱なれど、處々徒崖の並立せるあり。上總の國境に近く小湊の一港市あり。

**沿革** 此國初め上總國の一部に屬せり。元正天皇の御宇創めて之を割き、名けて安房と稱す。治承年間源賴朝兵を相模に起し、石橋山に敗績するや、遁れて當國を徇ふ。土蒙安西景益、神餘光秀、麻呂信俊、東條秋則等先づ之に屬す。賴朝乃ち全州を四分して四氏に分與し、各々之を護らしめたり。爾後足利氏の時に及び新田氏の裔里見家基結城に戰死し、其子義實流寓して當國の白濱に匿る。時に神餘景貞其臣山下定兼に弑せらる。麻呂信朝、安西景春共に定兼を戮して、神餘の故地を争ひ、景春終に信朝を殺して二氏の地を併有す。二氏の餘衆乃ち義實を推して謀主となし、文安二年を以て遂に兵を擧げ、先づ景春を降し尋いて東條定政を滅す。是に於て全州自ら里見氏の有に歸し、義實居を安房郡白濱に占めて専ら州民を慰撫す。是れより里見氏の恩威漸

く卑近に及び、其子義成の世に至つては又二總を合併し、兵勢日に盛なり。然るに後二十餘年を経て、義成の孫義豐叔父實堯の位を禪らざるを憤り、その居城稻村を襲ふて之を殺す。實堯の子義堯時に上總に在り。父の計を聞いて直ちに來り義豐を攻む。義豐克たす終に自殺し、國を擧げて義堯に屬せり。而して豊臣秀吉の小田原を攻むるに當り義堯の曾孫義康正に其國を治す。秀吉使を遣はして之を招くと雖ども、趨起して飯かに往かざりしを以て、爲めに二總の地を削られ、僅かに當國を領するを得たり。斯くて徳川氏の時義康の子忠義罪ありて伯耆に謫せられて國除し、後酒井忠國を勝山に、稻葉正明を館山に封じ最後に平岡道弘を船方に封せり。王政革新の後勝山を改めて加知山となし、長尾(本多正訥)花房(西尾忠篤)二藩を徙封して、船方の地を收め、凡て四藩とす、既にして皆改めて縣とし、又廢して上總の木更津縣より兼治し、更に今千葉縣の管治内に隸せり。

**交通** 國中未だ鐵道線路を見ず。道路は上總の金谷より來り、保田、加知山、那古

を経て北條に至り、これより海を離れて丘陵の下を縫ひ、國の南端白濱に達するものと、北條より東に折れ加茂を経て、東海岸の和田に達す。それより天津小湊に達するものとの二あり、又國の北端保田より東方丘陵の間を横貫し、天津に達するものあり。其他館山より海岸を縫ひて洲の岬に至り、布良を経て白濱に至るものあれど、車を通せず。唯、東京館山間、東京小湊間の汽船ありて、日々定期發着し、以て大に交通の便を謀れるを見るのみ。

**産業** 農業は米麥等の産出取て他地方に譲らす。特用農産物には富浦に枇杷を産す。清澄山の山林は總面積二千百十七町を有し、農科大學附屬演習林として著名なり。主要なる林木は杉及び樅にして巨木多し。水産は頗る盛にして、キス、鯖、鯉、鮪、鱒、鮑等を産す。鋸山より切出す石材は凝灰岩にして産出頗る多し。又房州砂と稱する糜砂あり。

○西海岸地方 東京灣に面せる地方にして、東京館山間の汽船は其間の各港に寄港す。保田、加知山、船形、館山皆なその發着所を有す。道路は半は徒崖に墜道を穿ち半は風光明媚なる沙濱の間を行く。保田より洲の岬まで里程約六里なり。洲の岬より道を全く東に、白濱に至る間に布良の一邑あり。風光頗る佳なり。此沿岸海水浴に富み、夏時は遊客踵至す。

**鋸山** 房總二國を限る高峰にして高さ海拔一千百八十一尺、保田村及び上總國金谷村に跨る。その形状、山骨露はにして半腹以上は分れて數峰となり、巖々たる山勢遠く之を望めば、宛ら天に向つて鋸齒を列ねたるが如し、その名の所以なり。保田村大字元名(上總國)より登れば、三十三町にして山頂に至る。山の西麓は明金岬といひて、突几たる巖岩海中に斗出す、安房西街道は此の懸崖をめぐりて、金谷及び元名に通ず。その間一里弱、狂瀾の時に岸を襲ふありて、危険甚しと雖、眺望の壯偉、對岸の連山、破濤を超えて悠々その影を連ぬ。傳説によれば、此岬頭に一の隠れ岩あり。頼朝の石橋山に敗れて安房に通るゝや、こゝに敵兵の追撃をさけたりといふ。されど波濤の狂

暴なる、それかと思ふ岩穴も已に破られ跡を止めず。岩礁の千態萬狀、自然の奇形は推して知るべきなり。山中に日本寺ありて内を公園に供せり。登山者は東京灣汽船會社の船によりて。金谷に上陸すれば麓まで約一里なり。保田よりすれば二十町弱にして至る。保田には旅舎教軒あり。

●●●●● 日本寺 加知山を距る一里二十町、山麓保田よりすれば登路二十町、寺は鋸山の中腹に位す。先づ二王門を入り、右に海中出現の鐘を見て、大悲堂に至る、かくて右すれば石階あり。上に樂師如來安置の本堂、閻魔堂あり。左すれば僧舍石壘の上に在りて、舍前に達磨石あり。之を過ぐれば大黒堂、開山堂あり。前者の崖下に吞海樓あり、南方房州の海岸より、岬灣及び島嶼の點景悉く掌中に在り。傍に龜石あり。開山堂より本堂の背後に出で、登れば、蛙石、白骨堂、鷲岩、日牌堂、獅子岩、本尊無漏窟、薛羅洞、弘法大師護摩窟等は途上にあり。又白布泉と稱する瀑布、羅漢像、觀音像、不動尊像等相並ぶ。通天門、三峯門等をくゞり、鷲翼山、又當寺の三峰、日輪、月輪、

瑠璃は最も眺矚の佳きを得たる所にして、瑠璃山上には十州一覽臺あり。安房、相模、駿河、甲斐、信濃、下野、常陸、武藏、上總、下總等の山岳は一々指點して一望に收むるを得べし。寺は、聖武天皇の敕によりて、行基僧正の草創せし禪刹にして、僧正自ら一刀三禮の樂師像及び日光月光兩尊十二神等を刻して之を安置し、已に堂塔伽藍の壯麗を極め、神龜二年六月供養の式を擧ぐ。後良辨僧正、樂師救世の泉を穿ち加持水となす。今東の溪に湧出せる泉之なり。弘法大師はこゝに護摩を修する事百日、大黒天の石像を刻して之を残す。天安元年には慈覺大師暫く錫を止めて阿彌陀、觀音の二像を刻す。今大悲堂に安ず。高倉院の御宇、源賴朝當地に來り、後年志を得て、一座頽廢に歸する伽藍を再興し、貞和元年には足利尊氏の修補あり。戰國の間再び荒廢せしを安永三年第九世の愚傳和尚、伽藍を建立し、附近岩石一千を以て羅漢像となす。今又四度の廢頽に在り。唯公園、望洋の地として絶勝たるのみ。麓なる保田村大字元名に元名の霸王樹といふものなり。高さ一丈餘、莖の廣さ一丈なり。氣候溫暖なるが



故霸王樹の大なる、又珍しからず、こは唯その最も大なるもののみ。

●加知山町 又勝山といふ。小灣に望み、前面に浮島と稱する一嶼あり。周圍凡そ七町、四面峭立して、上に竹樹茂生す。町は東京灣汽船の館山航路の寄港地なるが故に

市街盛況を呈す。町に續く沿岸に獵島(又龍島に作る)といふ一部落あり。治承年間源

頼朝石橋山を遁れて扁舟に掉し安房國平北郡獵島に著くと東鑑にあるは之なり。

●富山 平郡岩井村大字合戸の東に聳ゆ。海拔千百三十尺の小山なれども、曲亭馬琴

の八犬傳の材料たるが故にその名世に著し。合戸より頂まで二十三町、山は樹林蒼鬱、

中に觀音堂ありて孝謙天皇御宇の草創といはる。傍に金毘羅の小祠あり。これより西

方房州の海洋の眺望を賞すべし、神武紀元の初年、天富命の移住したる舊蹟なりと傳

ふ。

●高崎温泉 泉は木の根畔の西方山腹に湧き、鹹味ありて青白色を呈せり。皮膚、痔、

冷症等に特效ありといふ。地は高崎灣に望めるが故、東京灣汽船の寄港あり。而も、

高崎灣上の白帆白鷗、遙かなる富岳、天城の秀峰、砂濱の舟遊、水浴、釣魚、夏期遊樂

には最も適せり。之より少し陸地に入れば、平郡村に

●伊豫ヶ岳 あり。村の大字荒川より登路凡そ十二町、海拔九百二十尺の頂上は眺望

勿論絶佳にして、武相の山々、起伏せる眼下の丘岡、點々たる村落の白壁、景の密に

して畫趣に富めるもの當國此の山の右に出づるものなし。

●平久里天神社 山麓なる平久里にあり。菅原道眞の靈を祀り、足利氏の頃細川氏の

創建する所なり。祠堂稍頽廢に向ふと雖、近村の鎮守として祭日は頗る賑ひを致す。

隣區丈掛には里見義實の古城址及び、頼朝手植の逆さ柿等あり。

●船形町 富浦村大字多々良の稱にして、その海に望せる方、地角をなせる所を、大

房岬又は大武岬と稱す。即ち船形山脈東より來りて内海に斗出し、安房郡に屬せる州

崎と相對して館山灣を形成するものなり。海面に突出せる十五町、尖端、雀島を始め

として島々之を回り浮ぶ。その南側なる龍淵神社は、水神を祀るものにして、社背に

一瀑あり。附近の勝は敗て努々を要せず。

●大福寺 船形山普門院又は船形観音と稱す。石  
礎十數級を登れば、斷崖のまさに落下せんとする  
所、之を穿ちて本堂を造る。本尊は行基僧正が彫  
刻に係る石面の十一面觀世音なり。欄に倚りて前  
面を眺むれば、峯々、鏡ヶ浦を圍り、白帆、漁舟、  
到底筆紙に上し難きものなり。更に少しく陸に入  
り南下すれば那古に至る。



れより鏡ヶ浦の全景、前面の青波と展けて、眺望絶佳なり。寺は數丈の岩石を穿ちて

●那古寺 地は瓜原村大字那古山の中腹に位し、  
境域凡四千坪、阪路二あり。東面なるを女阪、西  
面なるを男阪と稱す。寺前に數戸の茶店あり。こ

構造せしもの、本堂、多寶塔、大日堂、阿彌陀堂、閻魔堂、鐘樓二王門等相連るが上  
に末高き尖岩の時つありて、絶頂松樹鬱蒼として茂生す。本堂は四面八間にして構造  
の美刻樓の精緻なる附近その比に乏し。寺の一名那古観音と號するは本尊、行基僧正  
の作にかゝる千手観音あるが故にして、これに賽するもの常に群來りて、香煙の色四  
時堂内に充つ。毎歲六月十七十八、及び七月八日を以て會式となし、賽一日六千を下  
らすといふ。當國五大寺の一にして、補陀洛山普門坊千手院と號す。新義眞言に屬し、  
元正天皇の養老元年の草創、行基僧正の開基なり。一度荒蕪に歸したるも、仁明の承  
和十四年慈覺大師來りてこれを再興し、後建久年間源頼朝報恩の寄附として、現今存  
する所の本堂、三層塔、仁王門を建つ。傳説によれば地は太古拘那含佛が説法の靈地  
なり。後之を那古と訛ると。

●延命寺 國分村大字本織にあり。北條町の東北一里半許、寺の構造頗る壯麗を極め、  
當國五大寺の一に列し、本堂には里見義成の子義通以下忠義まで九代の像を安置し、

又十代の典籍及兵器の類を藏す。その墳墓も亦寺域に散在す。長谷山と號し、禪宗に屬して永正十七年里見實堯の草創、僧梵眞の開基なり。實堯の嫡子義堯深く禪宗に歸依し、領地二百五十石を寄せ、又里見氏の滅後、徳川氏よりは御朱印三百石を賜ふといふ。

**北條町** 安房郡に屬し沙入川を隔て、館山町に對し、共に鏡ヶ浦即ち館山灣に望む。戸數八百、人口六千を有し、郡役所、區裁判所、警察署、北條病院等の設けあり。市街櫛比して百貨の常に輻輳する當國に冠たり。地は又海水浴場として有名なり。波靜かに水清ければ、避暑客多く、而も又冬季の避寒地として適當なれば、旅館は常に盛況を極む。東京灣汽船の寄港地なり。

**八幡神社** 北條町の北方八幡村に在り。數宇の壯殿皆壯麗を極む。富崎村の安房神社も三舍を避くべく、松柏の密葉深く之を圍り蔽ひ、境内頗る幽寂の趣あり。安房神社に亞ぐ著名の郷社にして、應神天皇を祭神とす。毎歲九月十五日の例祭には、附近

兩市街は勿論、社頭の雜沓、國內その右に出づるものなし。

**稻村古城址** 館野村大字稻村に在り。即ち往昔里見氏の據る處にして、今は只廢墟を守る寂しき僻村に過ぎざれども、當時部落の威は遠く房總を風靡したるなりといふ。

**國分寺** 同村字國分にあり。聖武天皇の御宇行基僧正の勅を承けて創建したるものにして、規模の宏大なるは以て、著しき古刹なると往時勅願所の跡なるを首肯せしむるに足る。附近瀧川に孝子伴家主の墓碑あり。仁明天皇の頃その至孝を表せられし人の跡にして、その墓碑は寺の境内にあり。

**大巖院** 同村字大網に在り。寺域二千五百坪、老幹四周して、本堂、庫理、鐘樓、山門等を覆ふ。寺は淨土宗に屬し、本尊の阿彌陀佛及び、開祖靈巖松風和尚自作の彫像を安置す。毎歲八月十九日より九月一日まで法會を催し、寺内小市を爲す。境内に強賊源平なるもの、墓碑あり。開祖靈巖の教化に服して自殺して果てたるものなりと傳ふ。

**小鷹神社** 長尾村大字瀧の口字西丈ヶ澤に在り。神武天皇元年の草創にして、祭神は天日鷲命なり。源頼朝の石橋山を遁れて安房に入りし時、此處の明神に通夜して、夢に一首の國風を聞くと傳ふ。社内藏する所多く、頼朝寄附の軍刀、里見義實の太刀、就中最も奇とすべきは、天日鷲命の孫由布津主命の射たりしといふ、九枝にして丈一尺九寸二分、丸さ九寸五分の大廉角、外に二本の小なるものなり。又古椀の直径六寸五分高さ三寸六分のものあり。同じく太古のものと稱せらる。

**小網寺** 豊房村大字出野尾にあり。北條町の南方一里餘、東西に山を負ひ、北方鏡ヶ浦の青波を展く。土地高きが故に矚目甚だ佳なり。丘の中央に本堂はありて、南に観音堂、東に地藏堂、鐘樓、少しくはなれて仁王門の南面して立つある。寺は新義真言宗に屬し、本尊、朗辨僧都の作にかゝる不動明王を安置せり。和銅三年の草創にして、中世久しく荒廢に歸せしを、里見刑部少輔義實の當國を領するや、之を再興し宗秀上人を以て開山とす。境内の法華谷は弘法大師が留錫當時修行の跡なりとす。

**安房神社** 富崎村大字大神宮にあり。官幣大社にして神武天皇の元年の創建、祭神



は天太玉命なり。境内老幹枝葉を交錯して幽靜、中に神殿拜殿の瀟洒にして素朴なるあり。一見太古の氣の神苑に充てるを感ず。神武天皇の元年辛酉、天富命阿波の齊部の伴ひ、東北に移住し、房麻絲米穀の類を栽培す、二總及び安房の地之なり。神之れ附近神社の紀元元年に近く草創せられたるも社の尊き所ならんか。

**館山港** 大武岬を北に、南に洲の崎を控へたる一浦鏡ヶ浦の稱、又菱花灣ともいへり。港は灣の東南隅にあり。されば風波極めて靜かに而もその水深はよく巨船の碇繫を自由ならしめ、國中第一の港灣と稱す。港は即ち館山町に續き、